



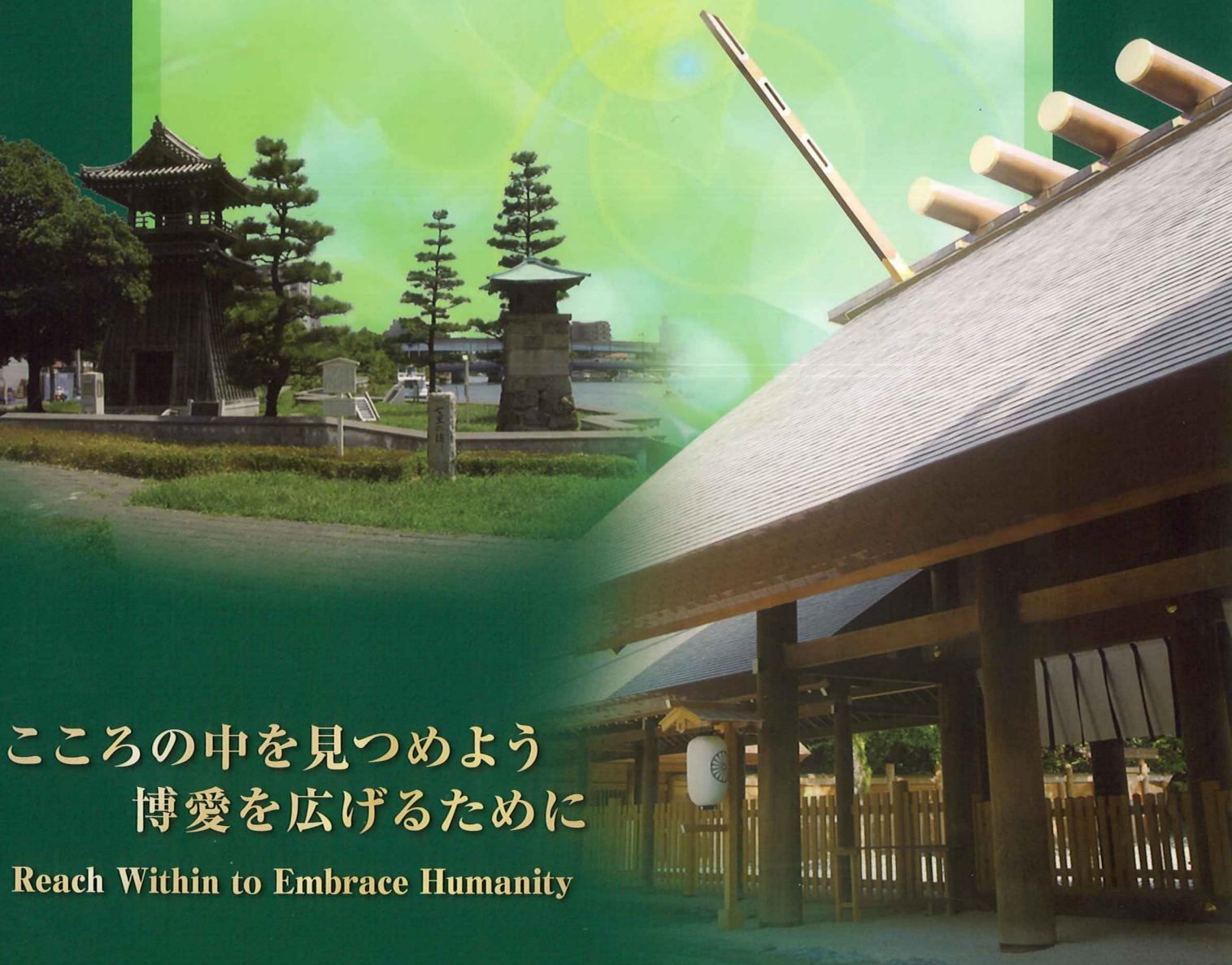
2011-2012年度
国際ロータリー第2760地区

地区大会記録誌

大会第1日目／2011年11月19日[土]

大会第2日目／2011年11月20日[日]

会場 ウェスティンナゴヤキャッスル



こころの中を見つめよう
博愛を広げるために

Reach Within to Embrace Humanity



Reach Within to Embrace Humanity

2011-2012年度 国際ロータリーのテーマ

こころの中をみつめよう 博愛を広げるために

Reach Within to Embrace Humanity

Contents

PHOTO ALBUM

[第1日目]

- 地区指導者育成セミナー 4
- 地区諮問委員会 5
- RI会長代理を囲む昼食会 6
- 友愛・会場設営・受付風景 7
- 本会議第1日目 8
- 特別講演 11
- RI会長代理ご夫妻歓迎懇親会 12
- 中部経済新聞掲載記事 28

[第2日目]

- ファミリープログラム 18
- RI会長代理主催顕彰昼食会 19
- 友愛・会場設営 20
- 地区委員会活動報告 21
- 本会議2日目 22
- 記念事業発表・目録贈呈 24
- 出席クラブ紹介 24
- 感謝状及び記念品贈呈・表彰 25
- エレクト、ノミニー、次年度ホストクラブ紹介 他 26
- 記念講演 27

REPORT

[第1日目]

- RI会長 プロフィール 32
- RI会長 メッセージ 33
- 開会のことば 34
- 主催者挨拶 35
- RI会長代理挨拶 36
- 大会議事 39
- 特別講演 41
- 謝辞 51

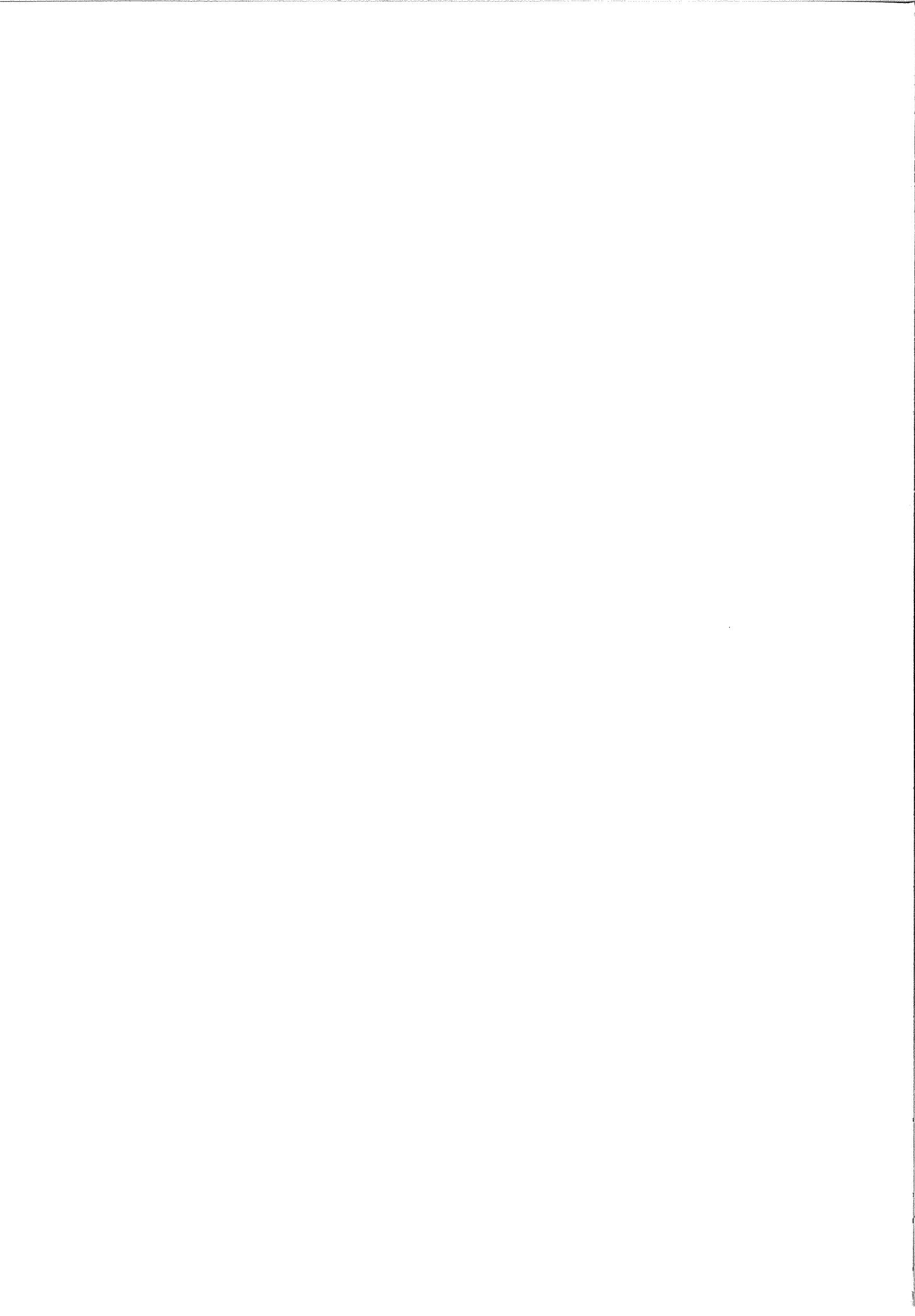
[第2日目]

- 開会のことば 52
- 主催者挨拶並びに現況報告 53
- RI会長メッセージ並びに現況報告 56
- 祝辞 58
- ガバナーエレクト挨拶 60
- ガバナーノミニー紹介 61
- 次年度地区大会ホストクラブ挨拶 62
- 記念講演 63
- 謝辞 68
- 講評 69

DATA FILE

- 大会第1日目プログラム 72
- 大会第2日目プログラム 74
- 決算書 76
- 大会議事 76
- 地区大会決議 77
- 感謝状・表彰 78
- 新ポール・ハリス・フェロー 79
- マルチブル・ポール・ハリス・フェロー 80
- ベネファクター 81
- 新米山功労者 81
- 来賓・特別出席者 82
- 出席クラブ 83

- 地区登録者 84
- 奨学生・交換学生・他 96
- ロータリー地域社会共同体 (RCC) 97
- インターアクトクラブ 97
- ローターアクトクラブ 98
- 物故会員 98
- 地区大会役員及び委員 99
- 大会実行委員会 99
- ホストクラブ紹介 99
- 第4回 地区指導者育成セミナー 100
- あとがき 108
- 次期地区大会のご案内 109





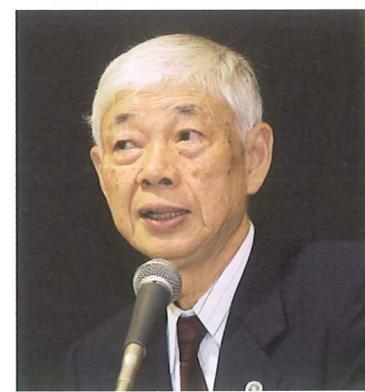
2011-2012 RI DISTRICT 2760 CONFERENCE

[第1日目]

2011 11 | 19 Sat

会場／ウェスティングナゴヤキャッスル

地区指導者育成セミナー



関口宗男研修委員会委員長



中村靖治RI研修リーダー



松前憲典ガバナー

地区諮問委員会



RI会長代理を囲む昼食会



国際ロータリー第2760地区 2011~2012年度 地区大会
RI会長代理を囲む昼食会



今井鎮雄 RI会長代理



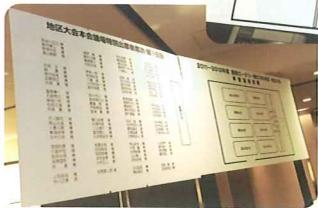
高村博三地区大会実行委員長



長谷川正己地区幹事



友愛・会場設営・受付風景



本会議第1日目



今井鎮雄R I 会長代理ご入場

司会の名古屋瑞穂RC加納裕会員と佐野瑛厘さん





オープニングアトラクション『コール・ロータリー名古屋』



司会 津川聖子会員



ピアノ 中村容子さん



指揮 加藤典子さん



東日本大震災被災者へ向けた黙祷



国歌・ロータリーソング斉唱



松前憲典ガバナーによる点鐘



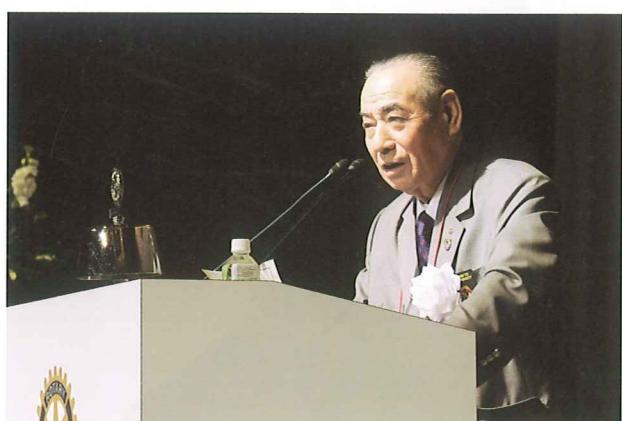
高須洋志 名古屋瑞穂RC会長



今井鎮雄 RI会長代理



長谷川正己 地区幹事



松前憲典 ガバナー

特別講演



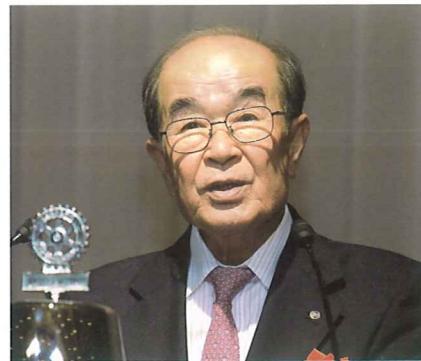
田母神俊雄 講師



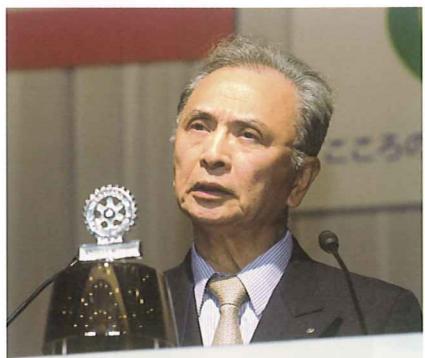
片山主水 地区指名委員長



高村博三 大会実行委員長



斎藤直美 大会信任状委員



上田圭祐 前年度地区会計長



中川正美 前年度地区監事



野村重彦 大会決議委員長

RI会長代理ご夫婦歓迎晩餐会



ソプラノ歌手の下垣真希さん



入場前の記念撮影

田嶋好博直前ガバナーによる乾杯

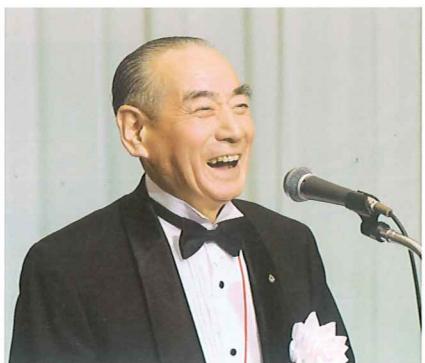
ご挨拶される今井鎮雄RI会長代理

今井鎮雄RI会長代理ご夫妻入場





高村博三実行委員長による開会のことば



松前憲典ガバナーによる歓迎の挨拶



特別出席者をご紹介する長谷川正己地区幹事



村井達 第2830地区パストガバナー（八戸RC）ご挨拶



大橋廣治 第2530地区パストガバナー（福島南RC）ご挨拶



遠山堯郎地区大会幹事による閉会のことば



ロータリーソング『手に手つないで』齊唱



司会 名古屋瑞穂RC加納裕会員と佐野瑛厘さん





国際ロータリー第2760地区 2011~2012年度
RI会長代理ご夫妻歓迎晩餐会



ご歓談風景









2011-2012 RI DISTRICT 2760 CONFERENCE

[第2日目]

2011 11 | 20 Sun

会場／ウェスティングナゴヤキャッスル

ファミリープログラム



リニア・鉄道館にて記念撮影



リニア・鉄道館
金子利治館長による説明



蓬莱軒 神宮店での昼食

RI会長代理主催顕彰昼食会

顕彰



今井鎮雄RI会長代理ご挨拶

顕彰



松前憲典ガバナーご挨拶

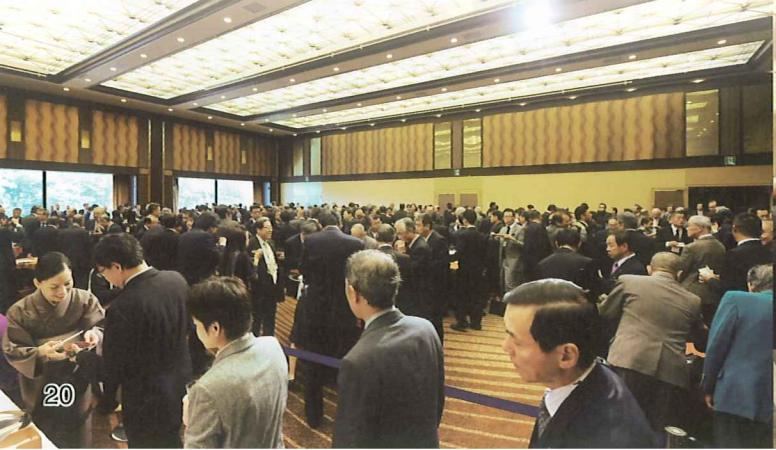
顕彰



司会の長谷川正己地区幹事

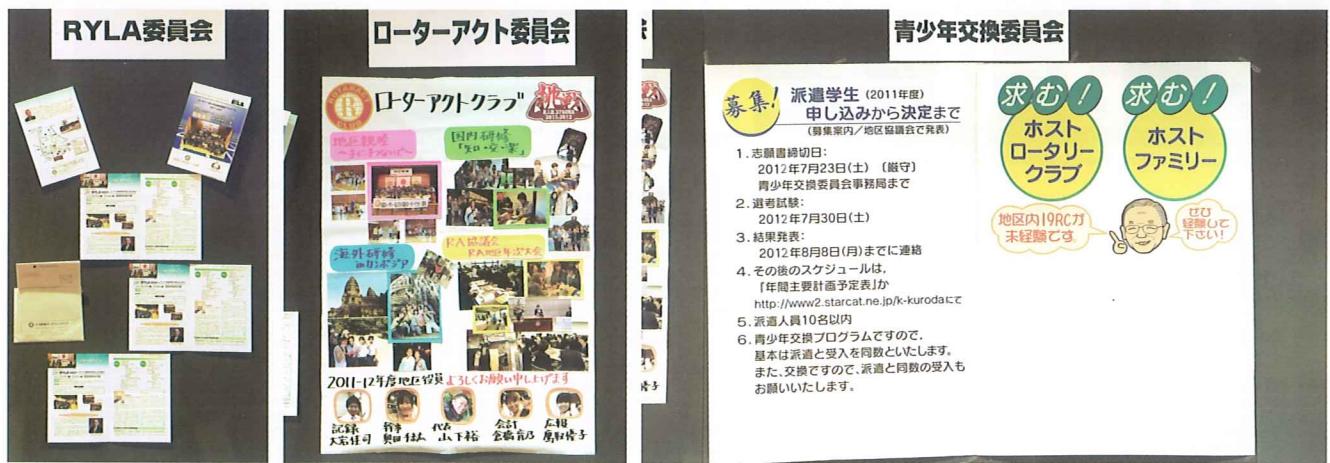


友愛・会場設営



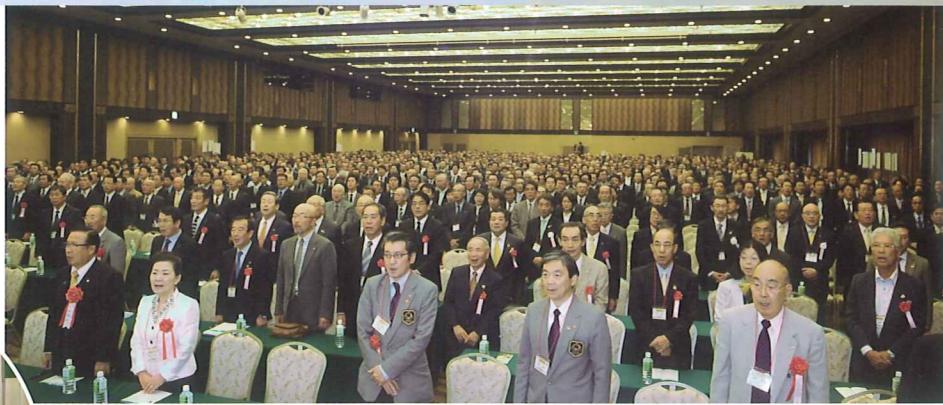
地区委員会活動報告

各委員会の活動の様子をロビーに掲示して発表しました。



本会議第2日目

2011~2012年度 国際ロータリー第2760地区 地区大会



ご入場される
今井鎮雄 R.I.会長代理



指揮 近藤直樹会員(コール・ロータリー名古屋) ピアノ 山田愛子さん



松前憲典ガバナーによる開会の点鐘

ホストクラブ紹介DVD



オープニングアトラクション『聖霊中学校・高等学校聖歌隊』



高村博三地区大会実行委員長による開会のことば



長谷川正己地区幹事による特別出席者紹介



今井鎮雄RI会長代理によるRI会長メッセージならびに現況報告



松前憲典ガバナーによる主催者挨拶および現況報告



松前憲典



記念事業発表・目録贈呈



大村秀章愛知県知事および河村たかし名古屋市長ご入場



愛知県より感謝状をいただく

出席クラブ紹介



職業研修チーム(VTT)派遣メンバー



ロータリー財団奨学生(学友)



米山奨学生



米山記念学友会



インタークトクラブ



ロータークトクラブ



青少年交換学生(受入)



青少年交換学生(帰国・ROTEx)



ロータリー地域社会共同隊(RCC)



河村たかし名古屋市長へ記念事業目録贈呈

感謝状及び記念品贈呈・表彰



今井鎮雄RI会長代理へ感謝状贈呈



記念品贈呈



田嶋好博前年度ガバナーへ記念品贈呈

黒野晃太郎前年度地区大会実行委員長
(あまRC)へ感謝状贈呈RI意義ある業績賞
犬山RC 大島克己前年度会長RI会員増強推進計画の表彰
名古屋名東RC 湯浅勝治会長RI特別会長賞
名古屋名駅RC 川村勝廣会長RI会員増強・拡大賞
奥三河RC 金田直孝会長ロータリー財団・米山寄付優秀クラブ
あまRC 鈴木正徳会長ガバナー賞
豊川宝飯RC 山城厚司会長創立クラブ50周年表彰
犬山RC 安田新平会長50年在籍表彰(代理)
名古屋西RC 神尾隆会長自
由
博
愛
を
通
じ
て
人
と
人
が
交
わ
る
時
間
と
空
間
を
縮
め
る
事
が
可
能
だ
と
考
え
て
い
る
。

エレクト、ノミニー、次年度ホストクラブ紹介 他



千田 毅ガバナー エレクト挨拶



ご紹介される田中正規ガバナー ノミニー



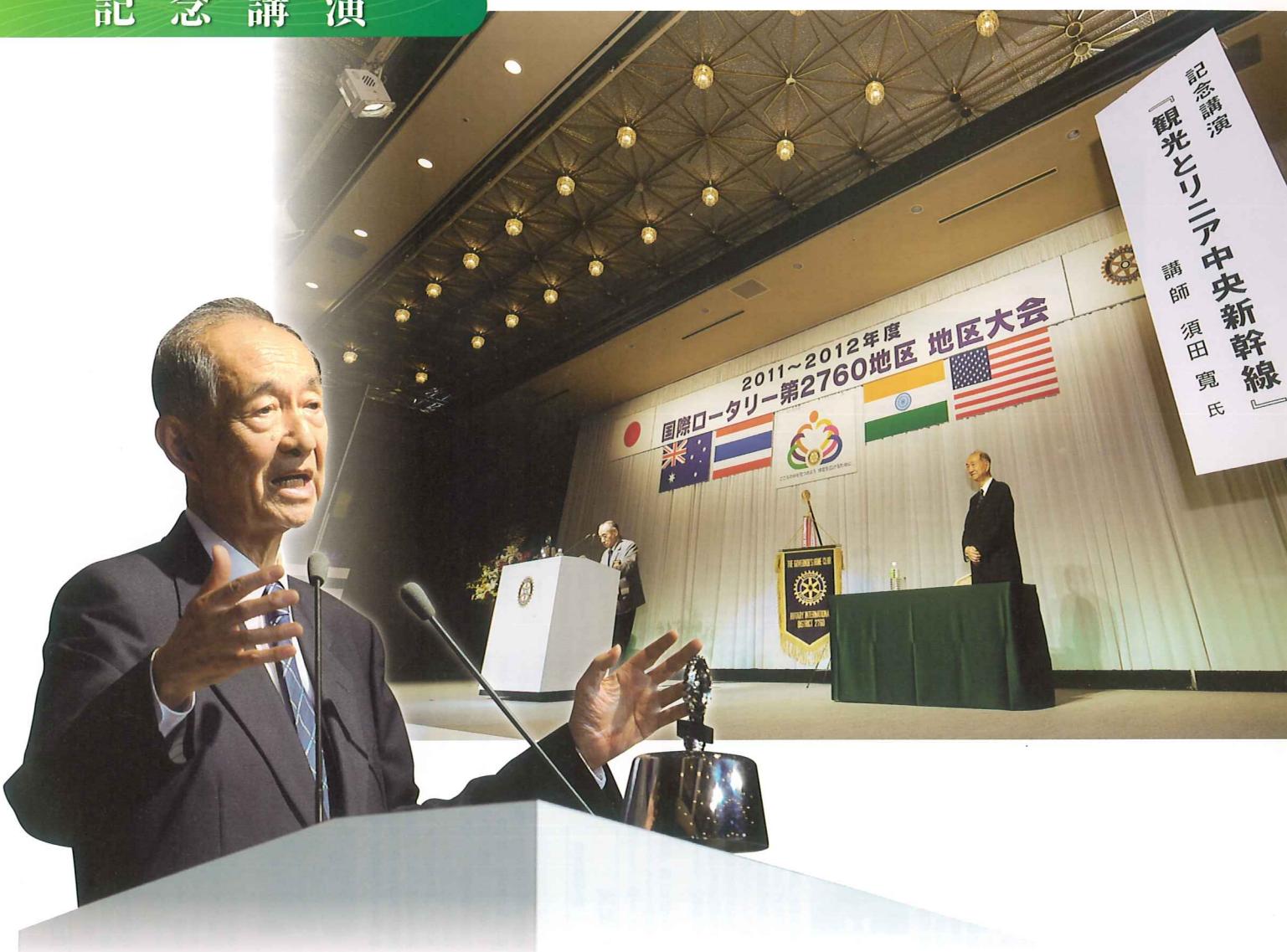
野村重彦大会決議委員長による報告



沓名俊裕 次年度地区大会実行委員長
(安城RC) 挨拶



記念講演



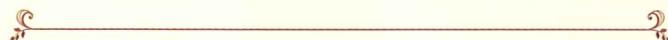
記念講演講師を務められた須田寛 東海旅客鉄道(株)相談役(名古屋RC所属)







2011-2012 RI DISTRICT 2760 CONFERENCE

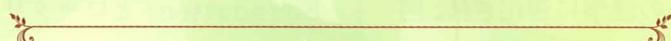


[第1日目]

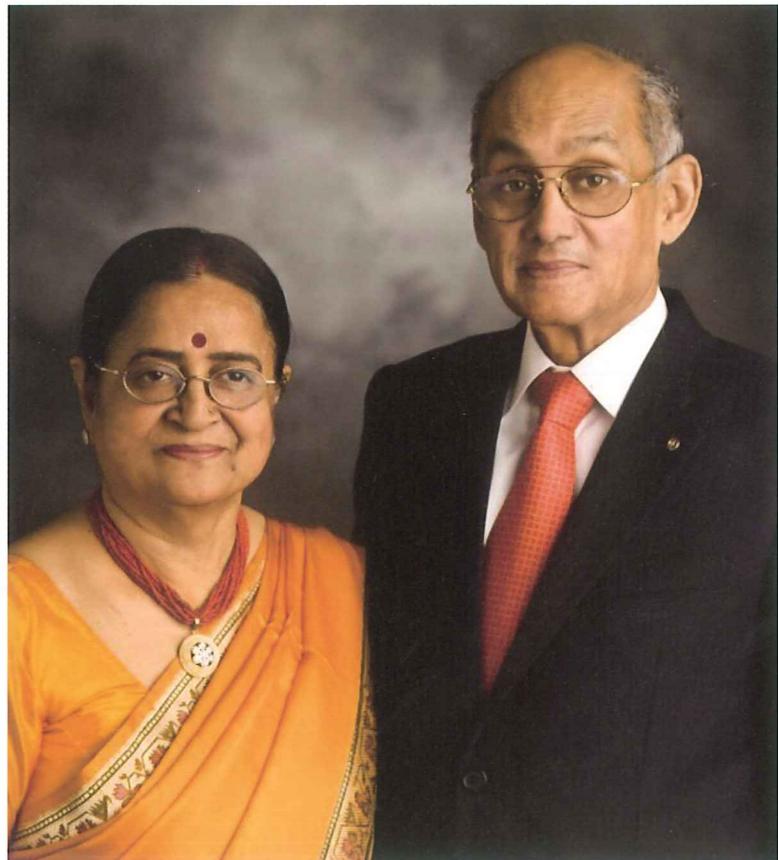
- RI会長 プロフィール 32
- RI会長 メッセージ 33
- 開会のことば 34
- 主催者挨拶 35
- RI会長代理挨拶 36
- 大会議事 39
- 特別講演 41
- 謝辞 51

[第2日目]

- 開会のことば 52
- 主催者挨拶並びに現況報告 53
- RI会長メッセージ並びに現況報告 56
- 祝辞 58
- ガバナーエレクト挨拶 60
- ガバナーノミニー紹介 61
- 次年度地区大会ホストクラブ挨拶 62
- 記念講演 63
- 謝辞 68
- 講評 69



RI会長 プロフィール



2011-2012 年度
国際ロータリー会長
カルヤン・バネルジー
(インド・グジャラート)

ロータリー歴

2011～12年度	国際ロータリー会長
2008～09年度	ロータリアン行動グループ委員会委員長
2001～05年度	ロータリー財団管理委員
1995～97年度	国際ロータリー理事
1980～81年度	地区ガバナー

カルヤン・バネルジー氏は、Uniphos Agro Industries Limitedの国内最大の農薬メーカーである United Phosphorus Limited社の理事、ならびに同社バングラデシュ支社の会長を務めています。1942年、インドのカルカッタで生まれたバネルジー氏は、インド工科大学カラグプ校で化学工学を専門に学び、1964年に卒業しました。現在はインド最大規模の工業都市であるグジャラート州のバピに居住し、これまでに保健と教育の分野におけるインフラ整備に深く関与して発展に大きく貢献してきました。

1972年にバピ・ロータリー・クラブ会員となって以来、ロータリーのありとあらゆるレベルで活躍してきました。1975年に同クラブの会長となり、1980年には地区ガバナーを務めました。

1995年には国際ロータリーの理事に選出され、国際レベルで活躍し始めました。1997年に貧困および飢餓緩和グループでゼネラル・コーディネーターに任命され、2001年にはロータリー財団の管理委員を務めました。その後、インターナショナル・ポリオ・プラス委員会委員（2008-09）、東南アジア・ポリオ・プラ

ス委員会委員長（2009-10）、アフリカ支援委員会委員（2009-10）、リーダーシップ教育・研修委員会委員（2009-10）、インド恒久基金委員会委員（2008-09）、子供の死亡率低下強調委員会委員（2008-09）などに加え、その他さまざまな委員会を通じて経験を積んできました。

バネルジー氏はまた、アメリカ化学会（American Chemical Society）やインド化学工学会（Indian Institute of Chemical Engineers）で活躍し、ヴィシュヴァ・バーラティ大学では評議員を務めています。また、バピ工業協会（Vapi Industries Association）の会長を2回、インド産業同盟（Confederation of Indian Industry）のグジャラート支部長を務めた経歴もあります。さらに、ジャイ研究財団（Jai Research Foundation）とロータリー人道賞基金（Rotary Awards for Humanity Trust）などの団体の管理委員を務めています。

配偶者のビノタ夫人は活発に社会活動を行っており、夫婦には2人のお子さんと4人のお孫さんがいます。

RI 会長 メッセージ

2011-2012 年度
国際ロータリー会長

カルヤン・バネルジー

地区大会にご出席の皆さんへ

2011-12 年度地区大会のご開催を心よりお祝い申し上げます。今年は世界で500以上の地区大会が開催される予定です。そのすべてに、夫婦そろって出席できれば本望なのですが、残念ながら物理的にはそれが適いません。直接皆さまにお目にかかることはできませんが、地区ガバナーと地区大会委員会をはじめ、優秀な指導者陣の下、生涯忘却がない、特別な大会となりますよう遠方よりお祈り申し上げます。

地区大会は、素晴らしい伝統行事であり、地区をはじめ世界中の奉仕プロジェクトについて学ぶ絶好的の機会となります。ロータリーの中心はクラブですが、世界をよりよい場所とするために、会員が広い知識を得る場となるのが地区大会です。

私がクラブに入会したとき、他者に奉仕したいと願う気持ちからどのような未来が開かれるか、まったく予想していませんでした。これはほかのロータリアンにとっても同じことでしょう。奉仕活動からどの

ような可能性が導かれるか、誰にも予想はつきません。ロータリーはこれまで多くを成し遂げてきましたが、世界はこれまで以上に私たちを必要としています。この機会に、クラブ、地区、そしてロータリーにおける活動への決意を新たにし、「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために」のテーマを実践していただけることを願っております。国際協議会で、私は次のように申し上げました。「何か成し遂げようと思うなら、ありとあらゆる知恵を振り絞らなければならぬ。それには、まず自分自身の内側から始めるしかない」地区大会にご出席の皆さんには、なぜロータリーを選んだのかを今一度思い起こし、他者への奉仕の思いを日々の活動の原動力としてください。

実り多い大会となりますよう、ご成功をお祈りしています。

カルヤン・バネルジー



開会のことば（1日目）

ホストクラブ会長

高須 洋志



残念ながら雨の一日になりました。本来快晴であれば、里に降りてくる紅葉を名古屋城とともにお楽しみいただけるはずでしたが、この空模様です。しかしこの雨の中にもかかわらず、ご参集いただきました皆様、本当にありがとうございます。感謝申し上げます。

「恵みの雨」といわれるよう、生き物にとって雨は、必要欠かざるべきものです。しかし一方において、洪水を引き起こしたり、家屋に浸水したりする災害をもたらすものもあります。「黄河を制するものが国を制する」と昔の中国で言われたように、人々と水のかかわりは大変長い歴史をもっています。暮らしには、本日のように不便がかかるものではありますが、視点を少し変えて雨ではなく、水という観点で見ると、人々にとっても生命にとっても大変に大

事なものであり、水や飢餓の問題は、RIのテーマでもあります。我々もこの観点を失ってはいけないと思っています。

今年の10月、地球の人口は70億人を突破しました。70億人の人口を養うために水と食料は、今後もますます問題になってきますが、それは我々のテーマとリンクしていく、最重要課題の一つだと思っています。

本日は今井RI会長代理をお迎え致しまして、カルヤン・バネルジー RI会長の思いを代弁していただきます。講演には、田母神元航空幕僚長に日本の将来の進路について示唆をいただきます。ご参集・ご来会いただいた皆様にとって、有意義な一日となりますように心から歓迎を申し上げ、開会のご挨拶とさせていただきます。



主催者挨拶



国際ロータリー第 2760 地区
2011-2012 年度ガバナー

松前 憲典

【プロフィール】

1931年1月3日生まれ
一宮中央ロータリークラブ

ロータリー歴

1967年9月	一宮北ロータリークラブ入会
1984~85年	一宮北ロータリークラブ会長
1990年10月	一宮中央ロータリークラブに移籍
1990~92年	一宮中央ロータリークラブ初代会長
1990~95年	地区IA委員長
1995~96年	西尾張分区代理
1997~99年	地区GSE委員長
2003~07年	ロータリーの友地区委員
2009~10年	ガバナーノミニー
2010~11年	ガバナーエレクト

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー
ベネファクター
大口寄付者
米山功労者

経歴

1956年	大阪歯科大学卒業
1956年	岐阜大学医学部歯科口腔外科研究科
1965年2月	岐阜大学医学部より医学博士
1965年	松前歯科医院長
2005年	(有)さくらハーティーケアさくら苑 (介護付有料老人ホーム) 代表取締役社長
2008年	医療法人愛礼会副理事長 松前内科医院
	小規模多機能ホーム花梨
	有料老人ホーム花みづき苑
	小規模多機能ホーム金木犀
[公職]	
1993年	岐阜県立岐阜工業高等学校同窓会長
2009年	一宮歯科医師会監事

第 2760 地区大会に、今井鎮雄 RI 会長代理をお迎えして盛大に開催できることは、誠に喜びにたえません。また本日は日本国内各地より本年度ガバナーをはじめ、パストガバナーの皆様にもご臨席賜り、そして地区内ロータリアンにも多数ご参加いただき厚く御礼申し上げます。

国際ロータリー元理事、国際ロータリー第 2680 地区パストガバナー今井鎮雄氏は、1920 年生まれで、91 歳で毎日元気でロータリー活動と YMCA 最高顧問として活躍されております。

本年 9 月 5 日(月)に高村地区大会実行委員長と遠山幹事、小生が、神戸へごあいさつに行き、親しくお目にかかることが出来ました。バネルジー RI 会長とは、ご一緒に RI 理事を務められ、御懇意の仲であるとおっしゃられて、次のように述べられました。

バネルジー RI 会長は、今年度の国際ロータリーのテーマとして "Reach within to Embrace Humanity" 「ここの中を見つめよう 博愛を広げるために」を掲げられました。これはバネルジー RI 会長がロータリーの運動に長く携わられた中で描いてこられたロータリアンの信念であります。

「心の中をみつめよう」とは、人間としてどのように生きるかを真剣に考え、地球上の人々が共に仲良く暮らしていく方法を具体的に考えることであります。多くの人と友情を持ち、仲間や他の国の人々と共に生きる世界を創ろ

うではないかという意味と理解いたしました。これはバネルジー RI 会長の深い人間愛に根ざした、ロータリーの指導者としてのビジョンであり、ロータリーの夢であり、それを達成するために皆が自身のあり方を再び考えようではないかという呼びかけを感じます。

今、ロータリーの変革のときがきました。特に日本では近年会員の減少の傾向が続いております。新年度は、「RI 戦略計画」と「ロータリー財団未来の夢計画」の実践年度であります。

今井 RI 会長代理から、「これからのロータリーの進むべき道」についてご指導を賜ることと思っております。

さて、公式訪問の折には、各クラブの計画書を拝見致しました。各クラブの皆様が大変素晴らしい社会貢献の事業を展開していただいていることを知りました。各クラブが「会員増強とクラブの活性化」を真剣に取り上げていただいております。私は 5,000 名の突破を確信しております。リーダーの条件は、使命感と洞察力に情熱が必要であると思っております。

公式訪問で、皆様から温かい歓迎をしていただき、感動の連続でございました。厚く御礼を申し上げます。

公式訪問は、私が皆様方にお伝えすることよりも、皆様方から教えたことの多さを、心から感謝致してお礼を申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。

RI 会長代理挨拶



RI 会長代理
国際ロータリー元理事
国際ロータリー第 2680 地区
パストガバナー

今井 鎮雄

【プロフィール】

1920年11月18日生まれ
神戸西ロータリークラブ
神戸YMCA名誉顧問

ロータリー歴

1961年11月	神戸西ロータリークラブ入会	財団メジャードナー
1980~81年	RI第2680地区ガバナー	マルチプル・ポール・ハリス・フェロー
1982年5月ならびに1983年5月	国際協議会グループリーダー	ベネファクター
1983~85年	RI 会員増強委員会委員	米山功労者
1984~89年	RI 青少年委員会委員	[公職]
1989~92年	RI 広報委員会委員	兵庫県青少年愛護審議会会長
1995~97年	国際ロータリー理事	神戸市青少年育成協議会会長
1999年	RI会長主催アジア会議委員長	(社福) 神戸市社会福祉協議会理事長
1999~2000年	RI RYLA委員会委員	(公財) PHD協会理事長 等
2003年	プリスペーン国際大会副委員長	
2004年	大阪国際大会副委員長	
2003~07年	ポリオプラスパートナー タスクフォースグループ 委員長補佐 (ゾーン1,2,3)	

国際ロータリー第 2760 地区の地区大会に会長代理としてお招きいただきましたことを光栄に思います。

カルヤン・バネルジー RI 会長・ビノタ夫人のことについてお話をさせていただきたいと思います。バネルジー会長と私は、ガバナーになった年がご一緒で、1980~81 年に彼もインドから出てきた、若いガバナーの一人でした。1980 年の国際協議会でアジアの仲間として、比較的顔を合わせる機会が多くありました。そして 2 年後、国際協議会のグループリーダーとしてガバナーノミニーのトレーニングをするよう言われ、82 年、83 年と 2 年に渡ってアメリカへ出掛けてまいりました。カルヤンさんもリーダーであり、リーダーが集まって話し合う機会がたくさんありました。そして 95 年、私が RI 理事になると、バネルジー会長もこの 95 ~ 97 年の理事を務めていて、いろんな話をしたことを覚えています。

彼はインド人であり、化学会社の理事でエンジニアであります。しかし話をしていると、哲学者かと思うような大変真面目で、高い理想を持っている方だと感心致しました。彼はムンバイにもアパートがあり、

そこに時々行かせていただき、話をする機会がありました。私たちが話し合ったことは、100 年の歴史を持つロータリーが、次の 100 年を一体どうするのかということでした。

今からおよそ 100 年前のアメリカには大勢のヨーロッパの人々が移住してきて、ここで一生懸命働いて稼ぎ、(中には働かないで稼ごうというアル・カポネみたいな人たちもいた時代でした。)自分たちの正義や信仰、目的を高く持って、新しい世界をつくっていこうとパイオニア精神で集まってきた人もたくさんいました。当時のシカゴには、新天地を求めてヨーロッパの様々な国から大勢の人たちがやって来ていました。やがて産業社会が、少しずつ人間の欲望を中心とするようになってきました。一生懸命働いて新しい国をつくっていこうとする人の中に、やがて自分が儲かればよいと考える人も出てきました。ロータリーは、ポール・ハリスを中心に若い 4 人が集まり「このままでは自分たちが生きている甲斐がないじゃないか」というところから始まりました。そしてロータリーが、一番大事にしたものは、互いの間

に信用や仕事の関係をつくって、自分たちの正義にのっとって仕事をしていくということでした。100年の間に、ロータリーは大きな力を持ちました。例えば第一次世界大戦が終わった時、ばらばらになつた世界をもう一度自分たちの「住処としての地球」を考えてみる必要があるのではないか。自分たちの主張だけを声高に叫ぶようなことであつてはならない。そう考えた時に、ロータリアンは、新しい時代や平和について取り組み、世界の人たちが仲良くすることについて考えてきました。

第一次世界大戦は“*The War to End All Wars*”、世界の争いをやめさせるための最後の戦争とも呼ばれました。私たちが今、戦争をするのは世界中の人人が争いをやめて平和な社会をつくるためだ。第一次世界大戦中にロシア革命が起き、旧ソビエトや中国の考え方である共産主義が生まれました。ヨーロッパ諸国はデモクラシーで自由で民主的な心構えの中から、何が正しいか、正しくないのかを考えて発展していきました。

その頃、もうすでにロータリアンは、自分たち同志の助け合いからは脱皮し、互いに協力し世界の人たちにできることをしていこうじゃないかという奉仕の気持ちを持ち始めました。言い換えれば、その時初めてロータリーは、ロータリーとしての夢を持つことができるようになつたのです。私たちの世界を豊かでみんなが手をとり合って、正しい仕事をしながら、世界を一つにまとめていこうとなりました。しかし残念ながら、歴史は必ずしもそのようにうまくは進みませんでした。2008年に起きたリーマンショックで、株の暴落でアメリカが経済的に苦しみ、ヨーロッパにおいては、ギリシャ、イタリアのような長い歴史と文化を持った国も、それぞれ問題を抱える時代になりました。こういう時代になり、100年の歴史を持った私たちロータリーは、もう一度そのあり方を考え直さなければならない時がきました。私たちロータリーは、122万の会員がいます。その会員の力が何かに使えないかと考えました。

巨大化したロータリーは、何ができるのか。私たち異なる社会や国にいる、いろんな違った考え方を持ち、違った生活スタイルを持っている若い人たちと、友人になれるということを広めていこうじゃないか。2004年が過ぎた頃に、ロータリーは100年たつたけれど、これから100年も同じようなあり方で

良いのだろうか、新しい時代にふさわしい新しいあり方を模索するべきではないだろうかと考えました。その結果、しばらく戦略を練って、次の1世紀に向かって、私たちの変化する世界を新たな社会にする努力をしていこうと決めたのです。

従つて、現在、新しいガバナー、現ガバナーに出されている宿題は、どんどん大きくなつていて、去年、おととしのガバナーの真似をしていては、いけなくなりました。戦略にかけても、何においても新しく考え直そうとしています。パネルジー会長のテーマは「こころの中を見つめよう、博愛を広げるために」という難しいテーマです。

パネルジー会長は、昨年1月の国際協議会で「私たちの心の中には一つは欲望、もう一つは愛の二つがある。そして欲望を制限して、愛の心を大きくすることで世界をつなぐことが必要なのだ」と述べています。インドには「ナマステ」という言葉があり、手を合わせて、相手を拝みます。私は「こんにちは」、「さようなら」の意味だと思っていましたが、パネルジー会長は「ナマステ」は「私はあなたの心の中にある神様にごきげんよう、いかがですかと聞くのだ」とおっしゃいました。心の中を見つめる時には、自分の心だけでなく、相手の心の中、相手が何を望み、苦境や問題を持っているのかということを考えながら、その人のために自分に何ができるのかを考えながら、心の中を見つめるということです。心の中を互いに見つめる時に、互いの愛情が加わって、相手の心の中に深く入って、自分の心の中にある深い心と一緒になれば今、世界が一つになれるということです。

すでに世界は、新しい時代に入ったと言う学者がいます。アメリカのフランシス・フクヤマという日系三世の政治学者が、3年ほど前に「歴史の終わり “The End of History and the Last Man”」という本を書きました。その中に「互いの価値観を認める民主主義による政治体制の中では、戦争は基本的におかしく、そういう意味ではもうこれ以上争う必要がないような体系に世界はなるだろう」とあります。ところが続いて「アメリカの終わり “America at the Crossroads”」という本を出しました。「十字路に立つアメリカは、どちらに行けば良いのか分からず、どんな形を取って世界と一緒になつたら良いのか考える時代になった」と書いています。まさに私たち

の世界が、曲がり角をたどろうとする時に、このように言っているのです。

大事なことは、お金でも体面でも地位でもなく、心の中にあるものを他人の心の中にある神様に捧げ合いながら、新しい時代をつくっていくことだと考えるならば、私たちはそれに即してロータリーの歩むべき方向をもう一度、見つめ直さなければなりません。ロータリーは、今や人間の問題、すなわち健康や水、病気の人たちへの支援をテーマに掲げています。1985年に始められたポリオ・プラスのプログラムは、すでに25年以上も続いています。

世界の子どもたちのために「ポリオ」をなくそうという運動は人類の悲願であり、もうひとふんばりです。ロータリー財団が大きくなりましたが、「The Rotaly Foundation of the Rotaly International」とありますように、ロータリアンが考える平和と愛とに満ちた理想の世界を築くための、RIの財団というこ

とを思い出しましょう。ロータリーは、片方では長期戦略計画を立てながら、もう一方では、ロータリー財団が、新しくいくつかの夢を持って行動するようになってきました。こういうことから考えると、私たちは今、バネルジー会長と一緒に大切な曲がり角に立っています。インドという国から選ばれたバネルジー会長が心の中で搾り出したターゲットに沿うような運動や奉仕のプログラムについて考え、努力している最中です。会長の思いを踏まえて、私たちからいろんな発言をしながら何かができるれば、大変ありがたいと思っております。

日本もアメリカも会員数を減らしております。ロータリーの夢を叶えるために大きく貢献しているこの二つの国のロータリアンが減少するのはゆゆしい現象です。私たちがしっかりとビジョンを持ち、その中から新しい計画を立てていかなければいけないと思います。



大会議事

地区指名委員会 委員長

片山 主水



大会登録委員会 委員長

高村 博三



当委員会は、直近のパストガバナー 5 名をもって構成していますが、現在のメンバーは、斎藤直美パストガバナー、江崎柳節パストガバナー、大澤輝秀パストガバナー、田嶋好博パストガバナー、私の 5 名です。

2013 年 - 2014 年度のガバナーノミニーの選出につきまして、前年度の地区指名委員が各クラブからの候補者の推薦を求めてきましたが、期限までに推薦がありませんでした。よって前年度指名委員会は、国際ロータリー細則の定めるところにより、ガバナーノミニーとして田中正規君（西尾ロータリークラブ）を指名することとし、その選任は即日確定することとなり、その旨を 2011 年 1 月 14 日付で田嶋前年度ガバナーより国際ロータリーに届けられました。

田中君は 5 月にタイのバンコクで開催される国際大会でガバナーエレクトに推挙され、1 年の任期を務めた後、2013 年 7 月 1 日からガバナーに就任することになります。

2014 - 2015 年のガバナーノミニーの選出については、同様に国際ロータリー細則によると、就任前 36 ヶ月から 24 ヶ月前までの期間に行うことになっていますので、当年度の委員会は、今年度早々から地区内各クラブに対して、ガバナーノミニーの候補者の推薦を求めてきました。その推薦期限が本年の 9 月 30 日までに一名もありませんでした。そこで当委員会は、細則の定めるところにより、現在鋭意選考中です。ただし今日の情報によると、来月までには指名選出の見込みであるという報告です。

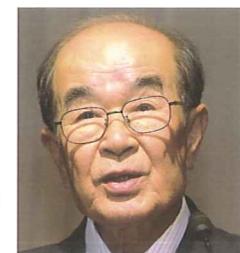
近年ノミニー候補の推薦が少なくなっています。各クラブとも長期のガバナーの推薦、輩出をしていただきたいという長期計画を立てていただき、その推薦法をお願いします。以上です。ありがとうございました。

それではご指名により、登録委員会を代表して、登録数を申し上げます。地区外からの登録数は会員 12 名、同伴者 4 名、次いで地区内の登録数は会員 2605 名、同伴者 30 名、合計 2651 名の多くの参加をいただいています。

そのほか、ロータリーファミリーの 181 名のご参加をいただいています。総合計は 2832 名の多数にいたっています。多くのご参加いただき、誠にありがとうございました。心から感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。

大会信任状委員会 委員

斎藤 直美



それでは大会信任状委員会から報告申し上げます。大会信任状委員会の任務は、各ロータリークラブから会員数に応じて選出され、地区大会に送られた選挙人の資格について審査することです。本委員会は委員長高橋治朗、委員江崎柳節、そして私斎藤直美の 3 名で構成されています。本日、当ホテルにおいて、午前 10 時からその資格を審査致しました。当 2760 地区は国際ロータリー細則第 15 条第 5 節第一項に基づき、2011 年 7 月半期人頭分担金支払期日現在、クラブ数 82、会員数は 4809 名。各クラブは一名の選挙人を有し、会員数が 25 名以上のクラブは、25 名ごとに 1 名の割合で選挙人を有することになっております。それによる選挙人の合計は 192 名です。本日、選挙人全員の出席をいただき、審査の結果は、規定されている資格を満たしていることを確認しました。以上ご報告申し上げます。ありがとうございました。

2010 – 2011 年度 地区 決算の承認に関する件

決算報告
前年度地区会計長
上田 圭祐



それでは 2010 – 2011 年度の決算についてご報告申し上げます。一般資金の部は、時節柄、下期の皆様方のご負担を少なくするという意味から前年に比べて半額ということで頂戴いたしました。その結果、予算資金が約 1 千万減少しています。特別会計については、地区大会協力金、地球事業費などをいただいているが、地区大会協力金に満額支出しています。地区大会については、いろんな意味で経費の節約をしていただいた結果、約 940 万円弱の剰余金が出ましたので、一般会計に戻し入れています。事業についても 210 万円強の剰余金が出ましたので一般会計として戻し入れています。

支出の部は、予算と大きく違う点は、雑費です。これは東日本大震災に伴う支援事業や物資の輸送などを行い、これに対して約 1 千万円支出をしています。その結果、次年度繰越金が 953 万 7063 円になっています。以上です。ありがとうございました。

監査報告
前年度地区監事
中川 正美



平成 23 年 8 月 19 日、ガバナー事務所において 2011 – 12 年田嶋ガバナー前年度の監査を行いました。会計は的確に運用されており、帳簿、通帳、現金は正確に管理されていたことを確認しました。以上ご報告申し上げます。ありがとうございました。

地区大会決議に関する件

委員長
野村 重彦



大会決議委員会からご報告を申し上げます。この委員会は福田清成パストガバナー、そして豊島徳三パストガバナー、そして私の 3 名で構成されています。

これまで大会決議の内容につき、検討を加えてきた事項について、決議案の要約のみ申し上げます。

第 1 号カルヤン・パネルジー RI 会長テーマ推進の件。当地区のロータリアンは、奉仕に一層力を入れ、情熱を持ってこのテーマを推進することを決議します。第 2 号ロータリー・リーダーシップ研究会 (RLI) 国際ロータリーの正規プログラムとする決議案の提案に参加する件。RLI を RI の正規プログラムにするための決議案を規定審議会に速やかに提案することを決議します。第 3 号 RI 会長代理今井鎮雄氏に対する感謝の件。会長代理今井氏のご苦労に対し、深い感謝の意を表することを決議します。第 4 号 2010 年度国際ロータリー第 2760 地区ガバナー田嶋好博君に対する感謝の件。田嶋ガバナーに深い感謝の意を表することを決議します。第 5 号会員増強推進の件。各クラブは会員増強に努力し、地区はそれらの推進を支援することを決議します。第 6 号ロータリー財団並びに米山奨学事業に対する理解と寄付協力並びに各プログラム推進の件。誇りを持って寄付協力とともにそれらのプログラムの推進を決議します。第 7 号地区大会記念行事採択の件。愛知県及び名古屋市に寄付することを決議します。第 8 号地区大会ホストクラブに対する感謝の件。ホストクラブである名古屋瑞穂ロータリークラブに心から感謝の意を表することを決議します。第 9 号国際ロータリー 2011 年度国際大会へ参加の件。2012 年 5 月 6 日から 9 日までの 4 日間タイ・バンコクで開催される国際大会にござって協力することを決議します。第 10 号次年度地区大会開催の件。次年度は安城ロータリークラブをホストとし、2012 年 10 月に開催することを決議します。

以上です。松前ガバナーの下、ご採決をお願い申し上げます。ありがとうございました。

特別講演

「世界の諸情勢と日本の進む道」



第29代 航空幕僚長 田母神 俊雄 氏

【プロフィール】

1948年7月生まれ。福島県郡山市出身。

防衛大卒業後、航空自衛隊に入隊。若い時分は地対空ミサイルの運用幹部として約10年の部隊勤務を経験。その後、統合幕僚学校長、航空総隊司令官などを歴任。2007年航空幕僚長に就任。2008年民間の懸賞論文への応募作品が政府見解と対立するものであるとして問題視され幕僚長を更迭、同年11月3日付をもって定年退職。同年11月11日参議院防衛委員会に参考人招致されたが、論文内容を否定するつもりはないことを改めて強調した。2009年2月以降、渡米講演の他、全国各地での講演と執筆活動に従事。

著書

2008年

「自らの身は顧みず」(ワック)

2009年

「田母神塾 これが誇りある日本の教科書だ」(双葉社)

「真・国防論」(宝島社)

「自衛隊風雲録」(飛鳥新社)

「田母神流 ブしない生き方」(主婦と生活社)

「田母神式戦力になる人材づくり」(日本文芸社)

2010年

「田母神大学校」(徳間書店)

「田母神俊雄の人生論」(高木書房)

「田母神国軍」(産経新聞出版)

「新たなる日中戦争」(徳間書店)他

その他情報

「田母神塾」(日本文化チャンネル桜)

隔週金曜日 21:00~21:30 放送中

自国を守る軍事力の重要性

皆さんこんにちは。ご紹介をいただきました危険人物の田母神でございます。

アメリカは自分の利益や国益にかなわなければ、敵も味方も次々に入れ替えていく国です。第二次世界大戦までのアメリカは、日本やドイツを敵として、旧ソ連や中国を同盟国として戦いました。しかし第二次世界大戦が終わって、共産国の脅威を認識したら、旧ソ連や中国はアメリカの敵に回り、日本やドイツは同盟国になりました。中東で言えば、イランイラク戦争の当初アメリカは、イランのパーレビ王朝を支持していました。しかしイランが、アメリカの利益にならないと分かると、イラクにつきました。イラクも言うことを聞かないとなると、攻撃してつぶそうとなりました。

台湾と中国で言えば、アメリカは1960年代の半ばまでは台湾支持です。しかし1965年、中国が核の開発を終えると、中国を敵にしておくとアメリカの利益にならないと台湾を捨て、中国支持に回りました。

た。このようにアメリカは国益に叶わなければ、敵も味方もどんどん入れ替えていく国です。幸い、日本はアメリカにとって使い勝手がいいわけです。何でも言うことを聞き、金を出す。捨てられずに済んでいますが、アメリカの気が変わると簡単に捨てられます。ですから、日米安保で日本がアメリカによって守られていると盛んに宣伝し、日本もアメリカに守られているとしていますが、アメリカは日本が攻撃を受けた時に、本当に守ってくれるかというと、大変危なっかしいものです。日米安保は、自動的にアメリカが戦争に参加するだけで、守ってくれるとは保障してはいません。日本を守るか、守らないかはアメリカの自由意志に任されているのが、日米安全保障条約です。アメリカの大統領が日本を守ると決め、アメリカ軍に行動を命じなければ、日本を守るために行動ができません。大統領が決心をしても有効期間は、2ヶ月です。その後は議会が同意をしなければ、大統領といえども軍を行動させることはできません。ではアメリカの議会が、日本を守ることをいつでも議決してくれるのか。はっきり言ってしてくれません。ご存知

のようにアメリカ議会は、反日法案が年中通っている状況です。尖閣諸島で仮に、日本と中国がぶつかったときに日米安保に基づいて、日本を助けると言つたら中国はどう出るか。中国は多分「じゃあアメリカの国債をすべて売るぞ」となるわけです。アメリカの経済は、相当混乱することになります。中国は核武装国ですから、もしアメリカが日本を助けるのであれば「ワシントンに一発、核ミサイルをお見舞いするぞ」と核の恫喝に出る可能性もあります。その時にアメリカの大統領や議会が、アメリカ国民の生活を犠牲にして、国民を核の脅威にさらしながら、日本の無人島を守る決心ができるか。それはできるわけがありません。尖閣諸島は国際海洋法条約があって、200海里の経済水域を持ち、日本にとっては海洋権益上、大変重要な島です。しかしアメリカから見れば、單なるよその無人島です。そんなものを守るために、アメリカの青年の血を流したり、アメリカ国民の生活を犠牲にしたりするわけがありません。

では日本はどうするのかといえば、自民党が目指したように一歩ずつ、日本の国は自分たちが守る方向に行くべきです。これは10年、20年掛ければできることですが、日本政府は、全くその方向に行きません。国際社会には、世界中の人が豊かに暮らすだけの富や資源は準備されてはいません。

国際政治の本質は、富と資源の分捕り合戦です。第二次世界大戦までの世界は軍事力を直接使い、富や資源を分捕りに行ったのです。しかし今はそういう時代ではなくなり、軍事力を直接使わない代わりに、嘘やデマなど捏造の情報を流したり、自分の国に有利な国際システムを作ったりすることによって、自分の国に富や資源が還流させるのが、国際政治の本質です。

自分の国が自分で守れなければ、自己主張はできません。日本は、強く主張するのを望まない国民性があります。戦前の日本は、教育されたリーダーが、国際社会で国家や国民を背負って頑張っていましたが戦後、リーダー教育がなくなってしまいました。戦前は、旧制高校と帝国大学の定員が全く一緒で、旧制高校へ入れば、どこかの帝国大学へ絶対に入りました。これは、国のリーダーを育てるためでした。帝国大学のカリキュラムは、学部にかかわらず3分の1以上は、リーダー教育に関するもので共通のリーダー教育が行われていました。日本はもともと、国

際的にレベルが高い国民性です。東日本大震災に見られるように、あんな困難な状態が起きても秩序が維持されます。よその国だったら、暴動が起きます。日本国民は、食料を持っていくと「うちはまだ間に合うから、隣へ持っていくてくれ」と断り、隣に持っていくと「うちよりもっと向こうが困っている」と言います。この困難な状況下でも、他人に対する思いやりを失わない素晴らしい国民性だと思います。

軍事力は外交の手段

国民性のレベルは高いですが、リーダーのレベルは低く、志も情熱も、愛国心も足りないリーダーが国の政治を牛耳っているのが、日本の状況です。軍事力は、今や戦争をするためのものではありませんが、軍事的なバランスの取れていないと、相手の国が話し合いに応じてくれません。軍事力で対等でないと、話し合いによる外交交渉で物事の解決ができないのです。前原前々外務大臣がモスクワに行き「北方領土は日本のものだ」と言いましたが、無視されて終わりです。菅前総理がメドベージェフ大統領の北方領土訪問を「許せない暴挙だ」と言いました。これも無視されて終わりです。

なぜこんなことになるのかといえば、日本がロシアに比べて、軍事力が弱いからです。核武装しているロシアに対して、核武装していないからです。国際社会は、子どもの社会と一緒にけんかの弱い国は、相手にされません。けんかが強くなつて初めて話し合いに参加できるのです。軍事力は話し合いに参加するための道具であり、外交交渉は、どこの国でも軍事力をバックにやるわけです。「ふざけたことばかり言っていると、ぶん殴るぞ」という態勢で外交交渉に臨むから、相手の国が動くわけです。日本の場合は「ふざけたことばかり言っていると話し合うぞ」というわけです。これでは相手の国は、動いてはくれません。

防衛費は冷戦崩壊までの高度成長期、予算の論理だけで伸びてきて、自衛隊にも相当のお金が投入されてきました。20年前の日本の海軍力や空軍力、航空自衛隊の戦力は、中国軍を相手にしていませんでした。私が防衛省にいたころも冷戦崩壊以前は、中国は眼中にありませんでした。防衛白書の中に、中国の戦闘機は5000機で日本は350機でしたが、

中国の動く戦闘機は50機であとは、使えない戦闘機ばかりだということが分かっているので、相手にしていませんでした。それだけ日本は軍事力が強かつたのですが、20年間中国は2桁以上の拡張を遂げてきました。一方日本は、ずっと自衛隊の縮小です。20年経ったら、中国の物理的戦闘力が、日本の自衛隊を追い越し、中国が日本周辺で軍事的な活動をしているのが、現実です。日本もこれに対して負けない態勢を取ることが必要です。軍事力を整備しなければ、外交交渉で今後中国の言うことをすべて飲まされます。中国は核武装国なので、この件についても今後のことを考える必要があります。

核武装をすでに完了している国は、これ以上核武装国を増やしたくないです。それは、国際政治を動かしているのは核武装国だからです。核武装国が増えれば、それだけ現在、核武装国をしている国の発言力は相対的に低下します。そのために情報戦争が起きます。日本は核武装国が決めた通り、お金を出させられ、国際社会で行動させられているだけです。どうして日本も核武装をして国際政治を動かす努力をしないのかと思います。核兵器は二度と使われていることのない兵器で、使われる可能性は限りなくゼロに近いです。しかし持っているか持っていないかによって、国際政治を動かす発言力は、天と地ほども違うのです。しかしこの事実を核武装国は、隠そうとし、日本の政治家はだまされています。核武装しない方が安全だと言う政治家が日本には多く「日本が核武装すれば、世界中がすることになり、人類の破滅だ」と言う政治家がいますが、低いレベルの意見です。

「国際社会を動かすのは、軍事力で核武装国だ」という認識がないと、国際政治に参加できず、国際政治が歪んで見えます。

グローバルスタンダードが日本を変える

アメリカが1991年に戦略計画の見直しをしました。冷戦が終わり、これからアメリカにとって最大の驚異は、旧ソ連の軍事的脅威ではなく、日本とドイツの経済的驚異だと書きました。そしてすでに経済戦争で日本とドイツをやっつけるという考えの下に、1980年代後半から日米構造協議が始まりました。1993年に宮沢・クリントン会談が開かれ、年

に一度日米間で構造改革要求書の交換をすることが決定しました。1994年から2009年まで毎年一度、行われました。アメリカの要求は、具体的で実現するまで執拗に要求しています。まずNTTの分割の推進、郵政民営化や会社の株主や社外取締役制度の導入、談合の摘発、建築基準法の改正など具体的です。小泉構造改革の5年間で日本のGDPは、580兆円から480兆円まで落ちていますが、株主配当の総額だけがこの間、4倍以上になり、格差社会に近づきました。日本はアメリカやヨーロッパに比べれば、超均質社会です。社長と新入社員の給料差は、今も昔も10倍です。アメリカは冷戦時代が100倍です。クリントン政権の末期に200倍になり、ブッシュ政権末期には500倍になりました。今さらに開いています。日本も最近は、日産やソニーなど外国人社長が現れ、この格差が開く方向です。

日本の会社経営者が欧米と違うのは、従業員の生活を考えていることです。面倒を見るのは、経営者の責任だという感覚が日本の経営者にありますが、欧米にはありません。労働条件が決まれば、従業員の生活など知ったことではないというのが、欧米の考え方です。

日本は安定した社会でしたが、アメリカからの年次改革要望書で崩れてきました。談合も今は法律までできて、談合が悪の権化で競争入札が絶対正義です。しかし談合システムも競争入札も長所、短所があり、日本の生活安全システムである談合は、新規参入がしにくく、話し合うから汚職の構造ができやすくなります。競争入札は、一つずつの値段が下がり、新規参入ができるのは長所ですが、一方で必ず落ちこぼれる会社ができる生活不安定システムです。談合を20年前に悪だと思った人はいなくて、値段が無限に上がるというのも、アメリカ発の情報戦争で嘘です。予算額以上に値段が上がることはあり得ません。役人や政治家が悪いことをすると言いますが、ごく限られた人です。外国の企業も日本の企業も同じ立場で事業を落札するようになり、国土地理院の日本の地図を作っているのは中国の企業、郵便局の顧客名簿を管理し、法務省の出入国名簿を管理するのを落札しているのもアメリカの企業です。こんなことが現実になると、いかに競争入札が絶対正義でも明らかに行き過ぎです。中国の企業に日本の地図を作らせれば、日本の国土の隅々の情報を与



えて、侵略してくださいと言っているようなものです。日本の国民や政治は自信を失い、日本的なやり方がすべて悪で、グローバルスタンダードにしなければだめだという強迫観念にとらわれています。日本をぶち壊すというわけです。菅前総理に至っては「平成の開国だ」と言いますが、日本ほど開かれている国はありません。関税も平均したらアメリカより低く、この関税も米が何100%で高いと象徴的に宣伝されますが、工業製品の関税率はすべてゼロです。アメリカは自動車2.5%、家電に5%をかけています。

日本が戦後ずっと開かれた国だったので、日本の穀物自給率は下がり、今は3割を切っています。よその国は戦後自給率が上がっています。こういうことも日本が開かれている一つの証拠です。また日本は規制制度改革委員会が答申して、菅前政権は135項目の決定をし、その一つは中国人の短期ビザです。従来15日なのが90日に伸ばされ、90日ごとに1日外国に出れば、3年間滞在できます。おととしの自民党政権で中国人は340万円の年収がないと日本に訪問できなかったのが、鳩山さんは80万円の年収にしました。中国人は旅行して金を落とすのではなく、仕事を奪いに来ます。中国人が滞在する場合の両親帯同も自由になり、一人の研究者が来ると、妻、夫の両親も合わせてついてきます。生活できなくなると、面倒を見るのは我々の税金です。中国はパスポート偽造をする国なので、年下の両親なんか

も付いてくる。さらに投資家の日本在留の自由が大幅に緩和され、従来500万円投資する中国人でないと日本に住めなかつたのが、300万円に下がり、共同出資でも良くなりました。使用人の帯同が無限に許され、短期ビザの緩和は7月1日から実行されました。

メリットのない TPP 加盟

今日本はデフレで仕事がないのに、外国人が仕事をしやすい状況をどんどんつくっています。TPPに加入して、何か日本にメリットがあるのか。オバマ大統領はTPPで「アメリカ国民の200万人以上の雇用を確保する」と言っています。アメリカの輸出は弁護士や証券マン、金融、医療、介護、保険などの会社が出てきて、アメリカ人が日本人の仕事を奪います。今年も大学を卒業して7割に満たない就職率の中、外国人に仕事を与えることはないと思います。TPPに加入すると、国の政策の自由が奪われ、治外法権や関税自主権など先人が血と汗と涙で、明治維新以降取り返したこれらを失くしてしまうことになります。労働力も移動が自由になるので、東南アジアの労働力が入り、日本国民の賃金はさらに下がります。これは経営者にとっては有利かもしれません、日本国民にとって幸せでしょうか。将来的に中国がTPPに加盟すれば、何億人が来るか想像ができません。日本人の仕事がなくなり、移民大国になり、日本の伝統文化や国柄が維持できない可能性があり、天皇制さえ危なくなると思います。いたずらに期待を抱かせず、入り口で参加しないと言えばいいのです。TPP参加には、経団連やマスコミは全部賛成で推進論者は、対米配慮です。

自由貿易が世界を発展させてきたと言っていますが、自由貿易と保護貿易の組み合わせが世界を発展させてきたのです。自由貿易だけだったら、独自の政策を維持したい国はできなくなります。国の自主性を持つためには、加盟すべきではないと思います。ISD条項というのは、アメリカの会社が「日本の政策がおかしい、損害を受けた」とすれば、日本

政府を訴えることができ、日本側が賠償金を払わなくてはならなくなります。現実に北米のカナダとアメリカとメキシコが自由貿易協定を結び、カナダとメキシコはアメリカの企業から訴えられ、両国とも賠償金を何度も払っています。今回 TPP には、カナダもメキシコも加盟していません。アメリカの狙いは、農業ビジネスです。除草剤メーカーのモンサント社は、遺伝子組み換えの大豆に飛行機からまける効果的な除草剤を開発しました。この除草剤をまくと、雑草はすべて絶え、さらに普通の大豆はだめになるそうです。種はすべてモンサント社が管理し、ここから買わなければならぬ状況になります。

インドは遺伝子組み換え綿花が入り、インド従来の綿花が絶え、4倍もする遺伝子組み換えの種を買わされている状況です。メキシコではトウモロコシが遺伝子組み換えになり、日本も米が危なくなる可能性があります。TPP は国の自主性を維持する上で、何のメリットもありません。加盟しないと何が困るか答えられませんが結局、対米配慮です。

日本の政治状況を見ると、親中派といわれる政治家と保守派の大半は、アメリカ派です。日本経済は、中国なしでは成り立たないといわれますが、これも嘘です。GDP に占める中国貿易の割合は、2.7%以下で、困るのは逆に中国です。日本の企業は、中国に進出しているというのも嘘です。進出より、引き揚げている企業の方が多いのです。経済産業省が数値で出していますが、それを見ないでムードで情報にだまされていることが多いです。日本は貿易立国、輸出大国と言われていますが、これも嘘です。GDP に占める日本の輸出貿易の割合は 10% 超えるくらいで韓国は 50%、中国は 30% です。日本は貿易立国というのは誤りです。日本は十分内需が拡大され、世界的に見れば輸出依存度が低い国です。

中国が海上保安庁の巡視船に体当たりをし、この時にレアアースを輸出しないと言いました。あんまり日本が騒がないので、中国は自分が損するのが分かるため、取り下げました。中国はレアアースの生産量を 98% で一番多く使うのは、日本です。そして中国がダンピング輸出をして、よその国の鉱山を閉山させ、結果として独占販売しています。もし中国がやめれば、よその国からレアアースが来るだけで、日本の工作機械や工業用原料が中国に輸出できません。これがないと中国の輸出貿易は成り立ちません。

経済的な立場としては、日本の方が圧倒的に強いです。こうしたことを頭に入れて交渉すれば、日本は十分に中国と渡り合えるのですが、日本には親中派の政治家がたくさんいて「中国との関係が悪くなると大変だ」、「日米関係を良くしなければならない」と言います。アメリカも中国も自分の国の利益だけで動く国なので、日本の総理大臣も腹黒く行動しないといけません。

国際法で動けない自衛隊

昨年、中国の漁船の体当たり事案が起きましたが、日本の自衛隊が唯一国際法で動けない軍隊だからです。世界の国の軍は、国際法で動きます。禁止規定以外なら、何でもできるというのが世界の軍です。日本の自衛隊は、一般の官公庁の行政事務と同じ扱いで自衛隊法に任務が定められ、実際は動けません。他の軍は、政府の命令がその都度なくとも領土、領海、領空に他の飛行機が侵入すれば、対敵行動を取ることが国際法上合法です。世界中で領土や領海を守るため、銃撃戦があり、亡くなる人もたくさんいます。でも日本の場合は、動けないので刑法上の正当防衛や緊急避難に該当する場合以外は、海上自衛隊も保安庁も武器を使えず、監視して報告することしかできません。ですからあのような事件が起きるのです。海上保安庁がビデオを公開しましたが、後で殺人罪に問われないために海上保安官が声を上げながら「正当防衛射撃」と銃を撃ちました。国際法上は、沈めても何ら問われることはありません。沈めると、中国と戦争が始まるといわれますが、中央政府が決めないと戦争にはなりません。

4ヶ月前に韓国の警備艇が、領海に入った中国の漁船を銃撃して沈めました。一人漁師が亡くなりました。中国は、もともと人権無視の国なので政治的な目的がある場合は、文句を言いますが、漁師が 50 人や 100 人殺されても文句は言いません。国際政治として國を守ることを考えて行動すべきですが、その観点が日本の政治家には欠けています。今は、軍事力で直接侵略されるというよりは、法律や国際システムを作つて嘘やデマなどの捏造の情報を流して、合法的に日本人が働いたお金を持ち出そうとしています。例えば日

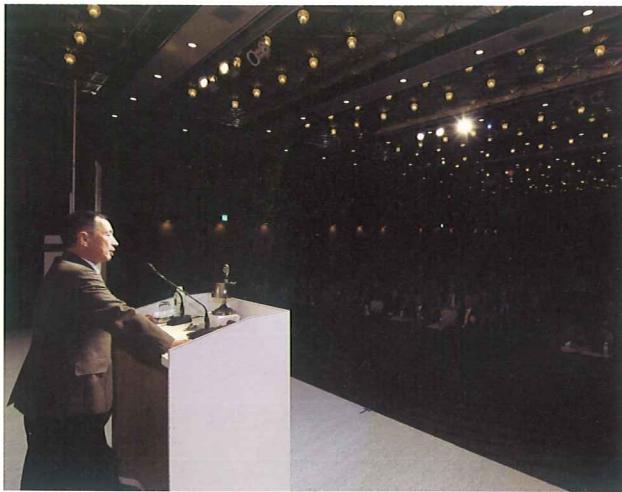
本は今、外国人が土地を買うのは自由です。こんなことは法律で規制しなければ、気が付いたらすべて外国人に土地を買われていたことが起こりうるわけです。マスコミの株も放送法で20%まで外国人が持てることになり、迂回をすれば、いくらでも持つ可能性があります。外国人株主が増えれば、中国や韓国の意を介した報道になるわけで、日本の放送局であるにもかかわらず、日本国民の立場に立った報道がされなくなります。そのほかにもいろんなことが国を守る観点から見ると、放置されています。軍事力で直接国益が犯されない代わりに、嘘やデマの捏造の情報戦争でどんどんやられます。日本は10年以上、デフレの状況が続いています。日本はデフレから脱却し、景気を良くするために事業仕分けや公務員を減らすなど政府支出を減らして、財政を立て直して、景気回復の方向を探っています。このためデフレが続いている。しかし事業仕分けや支出減額の方向で国の財政が立ち直ったというのは、人類の歴史上一度もありません。日本政府は、成功例がないことに国を挙げて果敢にチャレンジを続けています。その結果借金は減ったかといえば、増えるばかりでデフレ脱却の糸口は、全く見えません。10年以上も国を挙げて、国家的な実験をやって解決の糸口が見えない政策は、方向が間違っているのだとそろそろ気が付くべきです。やはり一時的にインフレの方向に触れ、景気が良くなり、税収が増え、国が立ち直っていくというのが、人類の歴史です。日本のような経済大国がデフレの状況を続けているのは、アメリカや中国にとては大歓迎です。日本の優良企業の買収がしやすく、銀行に眠る日本国民の貯めたお金は、国債を買うぐらいしか銀行も方策がなく、外国にお金が行き、外国人の生活を豊かにするために使われます。デフレの状況を米中は、日本に続けさせたいわけです。従って情報戦争が仕掛けられます。「改革が不十分だから景気回復しない」それが嘘です。日本は冷戦崩壊以降、自民党が緩やかに日本のぶち壊しをしてきました。20年間で日本政府が作ってきた法律は、日本の経営者が手足を縛られるようなことばかりです。この法律を廃止すれば、日本が回復する可能性は十分あります。おととしの衆議院選挙の前に「日教組は、がんだ」と言って中山前国道交通大臣が更迭されました。直後に「日本は良い国だ」と書いた私がクビになりました。これで日

本の保守派の国民党が自民党を見限り、民主党に政権を与えてみましたが、3ヶ月もすると、いやいやもつとだめだということが明らかになりました。自民党が緩やかに日本のぶち壊しをしてきたのを民主党は、ぶち壊しの総仕上げを迅速・急激にやろうとしています。本当に日本が壊れてしまいます。

民主党の外国人の地方参政権を与える法案に加え、一番危ない外国人基本法という法律が準備されています。日本に来て5年経つと、すべての外国人に日本人と同じ権利が得られるものです。日本にいる5年が、密入国でも不法滞在でも監獄にぶち込まれていても構わないわけです。こんな法律は監視していないと危ないです。今日本政府がやっているのは、日本人に対する規制強化、外国人に対する規制緩和です。

デフレ対策は、国債を発行するしかないと思います。税率を上げても税収は上がりません。税収は名目GDPに税率をかけたものです。税率を上げても名目GDPが落ちてしまいます。デフレの状況下なので、税率アップ分を企業は上乗せできません。上乗せすれば、競争に負けるので飲み込むしかなく、行えば賃金カットやリストラで街に失業者があふれます。お金を使う人がいなくなり、景気が回復するはずがありません。その間は、結局国債を発行するしかありません。日本は国の借金は1000兆円になるといわれ、これ以上借金を増やせば日本がつぶれるという情報戦争が仕掛けられます。日本はつぶれません。昨年WTOの総会があり、各国ともGDPに対して赤字国債を抑えることが決議されたが、日本は例外扱いです。それは借金の95%を日本国民が持っているからです。つぶれたギリシャは7割以上を外国人が持っています。他国は半分以上を外国人が持っているのが普通です。ギリシャは固定相場制であり、変動相場制の国がつぶれたことは歴史上一度もありません。日本の借金は家の中で夫が妻から借りて無駄使いしているようなものです。その家がつぶれるかといえば、隣の家から借りていないのでつぶれません。でも日本人は借金が嫌いな国民性なので、うまく情報戦争で利用されています。個人の借金と国の借金は意味が違い、個人は寿命がありますが、国は毎年少しづつでもお金を返す態勢があれば、国はつぶれません。

子どもや孫につけを残すなと言いますが、政府の



借金は、国債を持つ国民の資産です。国の借金分、国民の資産が積み上がっていくので、国がつぶれることは絶対にありません。安心して赤字国債を出し、まず50兆円の国債を出し、東日本大震災の復興でお金が必要なので日本銀行が全部それを買い取るわけです。これを繰り返せば、必ずインフレの傾向になります。インフレが加熱しそうであれば、税率を上げ、日本銀行が買っている国債を手放せば良いのです。今増税をしたら、またデフレが10年続くだけです。

東日本大震災も政府の復興のやり方が間違っています。地震と津波であれだけの被害を受けた時に、エコタウンや安全構想など言っているから、少しも復興しません。とりあえず元通りに復興すれば、どんどん進みます。しかしそれを言わず、ゆっくりと復興構想会議が立ち上がりました。この間も現地の人には、そこで生活をしなければならず、将来が不安で生活が成り立ちません。福島や宮城、岩手から人が流出し、福島では特に放射能の問題で230万人の人口は、200万人を切ってしまいました。

航空自衛隊の作戦に基地防衛があります。その航空基地を守る中に、被害復旧があります。まず元の形に戻す応急復旧と数ヶ月後の復旧計画を立てる本格復旧に分けます。元に戻さないと議論している間に基地が使えない状況が続いてしまいます。福島もまずは、応急復旧が大事です。これは目の前の血を流している患者に対して、医者を10人集めよう、どんな治療が良いか議論しようといっているようなものです。政府の本格復旧を考えるやり方よりも、応急復旧を考えなければいけません。東北の人が、普通に仕事ができるようになるためには、まず公務員と

して雇い、仮に20万人を一時的に雇い、30万円の月給を払えば、一年間で7200億です。これは、子どもも手当ての3分の1くらいで済み、金を与えて避難所で暮らすのでは、人間をだめにしてしまいます。

放射能の科学的根拠を分析

放射能騒ぎですが、福島原発の周辺の放射能の状況は、危ないとは言えません。防護服を着ている作業員は、現場が危ないわけではなく、万が一原子炉の燃料が爆発した時のためです。そんなに福島原発が危なければ、カラスも落ちてくるはずです。高濃度汚染された海岸で、魚が浮かび上がっていますか。周囲は野生の動物が走り回り、雑草が育っています。もともと放射能がゼロでは、人間も動物も生きられません。人体の健康にとって、有益な程度の放射線で騒いでいるのが日本政府です。政府の放射能の基準は、1950年代のICRP国際放射線防御委員会が決めた60年前の基準に従っています。かつて放射能は、累積でたまって危ないといわれていましたが、すでに医学的に証明され、累積ではなく、瞬間にどれくらい浴びるかが問題なのです。

最初はアメリカの遺伝学者ハーマン・J・マラー博士が、ショウジョウバエのオスに1時間当たり100—500ミリシーベルトの強い放射線を当て、メスと交配させて、2代、3代目がどうなるかの実験をしました。放射線は弱くても累積で危なくなることが証明され、1946年にノーベル生理学・医学賞を受賞しました。この仮説を元にICRPが世界に向けて、放射線管理の勧告をして各国の判断で基準を決めて管理をしたのが20世紀です。しかし1982年にアメリカのミズーリ大学でアポロ計画に参画していたトマス・ラッキー博士が、宇宙飛行士の身体検査をしました。宇宙飛行士は宇宙で毎日1ミリシーベルト以上の放射線を受け、半年で200ミリシーベルトを受けて帰ってきます。しかし帰ってきて生態を調べると、免疫体系が非常に強くなり、がん抑制遺伝子のP53も良く働くようになり、中性脂肪やコレステロール値や成人病が改善されるのはなぜか。10年以上追跡調査しました。その結果、1982年に論文を発表しました。人間は、自然放射線の100倍くらいの放射線強度の環境下で生活するのが健康に良く、1万倍くらいは人体の健康にとって、有益なことはあっても

がんになることは全くないと言いました。自然放射線は年平均 2.4 ミリシーベルトなので年間 240 ミリシーベルトくらいの状況で生活するのが健康に良いという論文を発表しました。これで世界中が大騒ぎになりました。

これを証明するかのように昨年、世田谷区で家の下でラジウムの放射線が出ていたという話がありました。1 時間当たり、660 マイクロシーベルトページです。24 時間で 14.4 ミリシーベルトです。その上で何 10 年も生活するおばあさんは、92 歳で元気だということです。八幡山のスーパーでも 170 マイクロシーベルトページの放射能が出ていました。これだけの放射線を浴びても問題がなかったのです。放射能が危ないと言うのは、原子力工学をやっていた人か、左翼です。この半年間、出身地である福島に何とか協力できないかと放射線医学の専門家を尋ねましたが、福島の現状が危ないといっている専門家は一人もいません。現実に放射線の障害を受けた人はなく、亡くなった人もいません。何も起きないのに騒いでいるのは儲かる人たちがいるからで、本や新聞が売れ、テレビの視聴率が上がり、薬が売れ、防護服やマスク、ゴーグル、線量率計が何万台も売れます。何千万円もする医療機材の 8 割以上はアメリカ製なので、ほろもうけです。

ビジネスチャンスでよその国から儲けられているのです。アメリカ軍が逃げたのは、やらせでアメリカも恐怖をあおっておけば、日本が核武装の道から遠ざかるだろうという国際政治的な判断で狙われているのです。飯館村は年間 20 ミリシーベルトを受けます。ICRP は 2007 年の勧告基準で年間 20—100 ミリシーベルトを受ける地域に住んでいる人は避難させた方が良いという勧告です。勧告に従うのは、国の自由なので、日本は一番厳しい 20 ミリシーベルトに従って避難させています。真ん中の 50 ミリシーベルトにすれば、福島県民は皆、故郷に帰れます。CT スキャンを 1 回が 6.9 ミリシーベルトなので、3 回やれば 20 ミリシーベルト。胸部レントゲンは 0・1 秒で 50—60 マイクロシーベルト、胃カメラが 1000 マイクロシーベルトです。

日本政府は 1 リットル当たり、300 ベクレルの放射能を含む水を飲み、農作物は 1 キロ当たり 2000 ベクレルの放射能を含むと危険と言います。土を水で流しただけで 10 分の 1 になり、食べる時にはさらに

10 分の 1。人体そのものの筋肉にはセシウムが入っているので、常時 7000 ベクレルの内部被爆を続けていることになるのです。1k 当たり 565 ベクレルで出荷停止は、ばかげています。

イギリスでは権威のある放射線学者でオックスフォード大学のウイード・アリソン教授が来日しましたが、彼によれば 1 ヶ月当たり 100 ミリシーベルトを受けても大丈夫と述べています。がんの治療には、放射線を 1 分間に 200 ミリシーベルト、15 分当てるので 300 ミリシーベルトは当たります。がん細胞だけを消滅させ、8 週間行うのが、がんの放射線治療です。髪が抜けるのは、抗がん剤の影響で放射線ではありません。実際いろんなことに放射線は使われています。くしの消毒やがん検診の PET 検査も体に放射能を入れます。体重が 40 キロの人で 9 億ベクレルの放射能を入れますが、何ともありません。

日本では電力中央研究所の服部禎男博士が、1985 年にトーマス博士の論文に対し、アメリカ政府に質問状を出しました。そこには、「トーマス・ラッキー博士の研究は昆虫などの小動物であり、これを哺乳動物まで拡大し、なお検証を継続する必要がある」という答えでした。そのため服部博士は、岡山大学で 1988 年から 3 年間、マウスの実験をやり、1 時間当たり 100—500 ミリシーベルトの強い放射線を当てました。そこで確かに死にそうになったマウスが元気になることが分かり、1994 年にアメリカで講演をしました。翌年にアメリカで世界原子力医学会が開かれ、結果を公表し、世界中で評判になりました。

カリフォルニア大学の放射線医学の大御所であるマイロン・ポリコープ博士とドイツの分子生物学の第一人者といわれるユーリッヒ研究所長のルードツィッヒ・ファインデンデーゲン博士の二人は、世界中の人たちの放射能の認識を変える必要があると、アメリカ政府に入り、マイロン博士は原子力規制委員会で、ルードツィッヒ博士はエネルギー省に入り「低線量率の放射線はむしろ人体の健康にとってプラスで、弱い放射線でも浴び続けると危ないというのは嘘だ」ということを世界中に広めて回りました。アメリカ原子力規制委員会の提唱で 1997 年にスペインで WHO と IAEA の共催で世界原子力会議が開かれました。放射線医学の権威が 600 人参加し、微量でも浴びると危険という政治サイド側と放射線医学の専門家の大激論がありましたが、放射線医学の意見が優

位になり、世界中が動き出しました。

会議に参加したフランスの医科学研究所でDNAやがんの研究の第一人者のモーリス・チュビアナ博士は、3年間にわたり、大きな哺乳動物を使った実験を繰り返しました。そして2001年にアイルランドの放射線医学学会で講演し「1時間当たり10ミリシーベルトの放射線は、24時間、1年間受け続けても健康に有益はあっても、害することは全くない」という論文を発表しました。

DNAの研究が進み、修復の構造が解明され「細胞は原子爆弾のような強い放射線で壊されると修復できないが、低線量の放射線で壊された場合は、常時修復作業が行われている。これが生命維持活動そのものだ」と発表しました。これで欧米は再び検証作業に入り、2006年にモーリス博士の論文が世界の放射線医学学会で確認され、2007年に放射線の最高権威であるマリー・キュリー賞を受賞しています。2007年にこの受賞記念講演で「DNA修復が行われる放射線強度の上限は、毎時6000ミリシーベルトを超えていた」と述べています。日本で危険といわれる数値の100万倍です。

茨城県のJCOの職員が亡くなりましたが、あれは3秒間で18000シーベルト、1秒間で6000シーベルトです。モーリス博士が言っている数値の3600倍の強さの放射能を受けると、亡くなるということです。

放射能の認識は、第二の歴史認識のように日本をだめにしてしまいます。日本政府はこれを克服する必要があります。放射能の恐怖をおおられ、福島県民が逃げ出し、政府は中国人を住まわせようとしています。事実、8月24日に尖閣諸島に中国の監視船が領海侵犯し、同日、中国大使館の経済商業担当行使が、中国の最大手重機械メーカー、ズームライオンの社長を連れて200万円の見舞金を持って福島県知事に面会に行きました。「中国政府は復興にいかなる協力もするから、中国の企業を呼んでくれ」と伝え、その2ヵ月後、同社が福島県の会津若松市に事務所を開くことが決定しました。日本国民が放射能の恐怖をおおられた福島の太平洋側に住み着かなくなると、中国人がどんどん住み着き、日本が開放政策を取り続ければ、中国に乗っ取られる可能性は十分あります。いったん住み続ければ、追い払うことは極めて難しくなります。

誤った歴史認識に縛られる日本

「日本が強くなると必ず侵略戦争を始めるから、自衛隊は強くない方が良く、国際法で動けない方がいい」という誤った歴史観があります。戦前の日本が好戦的なわけでも、日本軍が残虐だったわけではなく、戦後の情報戦争でそうされているだけです。国際法を一番きちんと守ったのが日本軍で、アメリカは原子爆弾を落とし、東京大空襲や大阪・名古屋など大都市を空襲し、旧ソ連のシベリア抑留などなんでもない国です。日本だけがとんでもない国だと、戦後の情報戦争でそう思われているのです。大臣になるような人でもそう思っている人が多く、この歴史観の誤りが日本政府の現在の政策の手足を縛ります。他国の歴史認識は、過去の問題で日本でだけが現在進行形です。日本が強硬に主張すると、いつか来た道を行くとか、戦争になると言いますが、ばかげたことです。

中国や韓国が「日本は侵略国家だ。残虐行為をした」というのは、あくまでも情報戦争の手段です。日本人は、何となくそう思われていますが、そんなことは決してありません。アメリカが真珠湾攻撃をしたから第二次世界大戦が始まったと言いますが、日本人が好戦的なわけではありません。アメリカに締め上げられ続け、日本はアメリカを殴ったのです。

1917年にロシア革命が起り、モスクワに共産主義政権ができ、世界を共産化するための共産主義インターナショナル「コミニテルン」という組織がつくれられ、20世紀全般に猛威を振りました。中国もコミニテルンに動かされ、蒋介石が日本軍に繰り返しテロ攻撃を仕掛け、日本を戦争に引きずり込んでいきます。アメリカは、1933年にフランクリン・ルーズベルト政権の中に300人以上もコミニテルンのスパイがいて、日本を戦争に追い込んでいきました。アメリカ財務省の財務次官補になったハリー・デクスター・ホワイトもスパイの代表格で、絶対に飲めない最後通牒「ハル・ノート」を書いた張本人です。ルーズベルト大統領は「ハル・ノート」のような侮辱的なものを日本にぶつけているということは、知らされていなかったと、戦後書いているくらいです。

日本が侵略国家で戦争を始めたわけではありません。第二次世界大戦までの人権は、白人にしか認められていませんでした。白人以外は人間ではなく、



15世紀から白人国家は、有色人種の国家を次々に植民地化し、奴隸同然の扱いをしていました。鎖で足をつながれ、地面に投げたパンを拾わされることはごく普通でした。第二次世界大戦が始まるまでの時点では独立国は、日本とタイだけです。タイはイギリスとフランスの植民地の緩衝地帯として意図的に残され、自力で残っていたのは日本だけです。日本が植民地になれば、白人国家の全世界植民地化計画が完成し、何百年その状態が続くか分かりません。しかし最後に日本が立ち上がって戦いました。結果として戦争に敗れ、国土が焼け野原になり、多くの人が亡くなり、散々な目に遭いましたが、第二次世界大戦の当初半年くらい日本は、フィリピンでアメリカをやっつけ、敵国の総大将マッカーサーはオーストラリアに逃げ、ビルマやインドでイギリス、インドネシアでオランダをやっつけ、次々に白人国家を駆逐して行ったわけです。これをアジアの人たちが目前で見て、次々に独立戦争起こすことになり、ついに白人国家も無視することができなくなり、人種平等の世界がきたのが、世界史の大きな流れです。歐米の歴史学者の大勢がこう言っています。

戦争後、アジアの首脳は日本に感謝する言葉を

残しています。タイの元首相ククリット・プラモートは「我々がこうして白人国家と対等な口を開けるのは、身を賭して仁を成した日本というお母さんがいたおかげである。日本は難産をして身を損なったが、生まれた子どもすなわち、我々東南アジアはすぐ育った。1941年12月、真珠湾攻撃は日本というお母さんが、子どもを守るために重大な決心をした日である。我々はこの日を忘れてはならない」というコメントを出しています。そのほかにもインド、フィリピン、インドネシアなど多くのアジアの首脳が日本に感謝する言葉を残しています。

中国もそうです。日本が侵略国家で残虐国家というのではなく、つくられた情報戦の嘘です。歴史は戦勝国が作ります。戦勝国・アメリカが作った歴史観を一時、日本は強制されました。正義の国、民主主義国家アメリカに対して、極悪非道の独裁国家日本という構図の歴史です。しかし独立をしたら、どこかの時点でアメリカの歴史観から解き放たれ、我々日本国民が考える、誇りある歴史を取り戻さなければ、日本はどんどん衰退をするだけです。日本はまだアメリカの歴史観にとりつかれています。アメリカはそういう仕掛けをし、政治家や役人、元軍人、大学教授、

財界の指導者など女性も含め、全国で20万人以上の公職追放をしました。中でも大学の学長や総長に左翼が充てられたことが、戦後の日本の傷を深くしました。大学は、将来の日本のリーダーを育てる所ですが、日本ぶち壊しの左翼教育が徹底的に行われました。我々が学生だった40年前は、大学で勉強するほど悪い子になりました。大学に行けば、大きなマスクで顔を隠し、ヘルメットをかぶり、ゲバ棒を持って走り回るのが定番でした。そういった全共闘世代が、日本社会の中核にたくさん残っています。何とかこれを我々が克服する必要があります。

今まで日本でデモや集会を行うのは、左翼ばかりです。今私は「頑張れ日本全国行動委員会」の会長をしています。保守派である我々が集会やデモをし、政治に保守派の意思を届けなければいけないと繰り返していますが、マスコミは取り上げてくれません。東京では2000～5000人参加し、一人ひとり日の丸を持って行っています。しかし中国の反日暴動は、50人でも報道するくせに全くマスコミは報道をしません。しかし頑張って保守派がやり返そうと思っています。自民党が割れれば政界再編が起こり、保守の政党ができ、民主党からも保守派の政治家が出てくる可能性があります。今民主と自民に分断され、そこを左翼に突かれている状況だと思いますが、我々も頑張るしかないと思っています。

今日はどうもご清聴ありがとうございました。

謝辞

国際ロータリー第2760地区
2011-2012年度ガバナー

松前憲典

ご静聴ありがとうございました。“立て板に水のごとく”と言いますが、先生は原稿らしい原稿を見ず、よくもあれだけ次々に言葉が出てくることに本当に驚きました。

「自分の国は自分で守るべきである」、「軍事力が大切だ」、「リーダー教育がなくなっている」、「核武装すべきである」。福島の現状を憂い、放射線医学についてもすいぶん研究され、世界的な話が次々に出てきて、素晴らしい意見でした。

「アメリカは日本をアメリカ化しようとしている」、「歴史は戦勝国が作る」、「日本は頑張って、左翼思想をなくして、保守派が頑張らねばならない」というお考えでした。先生の講演とともに世界の諸情勢と日本の進むべき道について考え、ロータリーとともにこれからますます日本を発展する方向へ持っていくたいと思っています。

先生ありがとうございました。

開会のことば（2日目）

大会実行委員長
高村 博三



国際ロータリー第2760地区の大会は、RI会長代理の今井鎮雄ご夫妻をお迎えし、昨日から開催しています。私たちホストクラブは初めてのことでもあり全員が汗を流して手作りの大会にしようと、この日を迎えました。

3月11日に発生した東日本大震災の大きな後遺症が残り、経済環境は厳しいものがあります。この状況下で開催される地区大会は、カルヤン・バネルジー RI会長のテーマ「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために」これを念頭に置きました。当地区的松前ガバナーの年度方針は「会員増強とクラブ活性化、社会貢献、そしてゆったりとおおらかに生

きる」です。これらのテーマを理解し、これからのロータリー活動のあり方を模索できる企画を致しました。私たち実行委員会は全員が一丸となり、地区内外のロータリアンの皆さんをお迎えし、楽しく意義ある大会に致したいと願っています。

昨日の特別講演には、元航空幕僚長田母神俊雄氏、本日の記念講演にはJR東海相談役の須田寛氏をお迎えしています。変革が激しい現代の世界に即したお話をさせていただけるものと思っております。この大会が実り多いこと、そして皆さん方の友情の輪が大きく広がることを祈念致し、心ゆくまでこの大会をお楽しみいただければ幸いです。



主催者挨拶並びに現況報告



国際ロータリー第 2760 地区
2011-2012 年度ガバナー

松前 憲典

皆様 こんにちは！

ご紹介いただきました松前憲典でございます。

まずもって、本日、この 2760 地区・地区大会に今井鎮雄 RI 会長代理ご夫妻をお迎えして開催出来ますことは誠に喜びにたえません。会員一同心より歓迎申し上げます。

また、日本国内各地より本年度ガバナーをはじめ、パストガバナーの皆々様にご参加いただき、本当にありがとうございます。

そして 2760 地区ロータリアン皆様、本年度地区大会に多くのご参加をいただき、誠に有り難く、心より厚く御礼申し上げます。

本日は申すまでもなく地区内・外のロータリアンとその家族が一堂に会する大会であり、地区大会は、ロータリーに関する情報交換が行われる場であるとともに、親睦の場でもあります。どうかこの地区大会を思う存分楽しんでいただきたく思っております。

さて、カルヤン RI 会長は“ここの中を見つめよう、博愛を広げるために”を RI テーマにされ、世界平和を語る前にまず、自分自身を見つめなおそう、深く自分を省みることによって世界の人々が理解し合おうと説いています。

私はこの理念をかみしめ、地区テーマ【会員増強とクラブの活性化】を掲げさせていただきました。このテーマ“会員増強”については、日本のロータリークラブに誇れる 2760 地区となるためにもと願い、皆様にお願いいたしたところでございます。

この会員増強については地区委員会委員長を中心としての強力な後押しをいただき、あわせて、地区内ロータリアンすべての方々の熱い思いが既に表れております。

当該委員会の活動資料によりますと、今年度各分区の増員目標数値の合計は 182 名となっており、今年 10 月末現在 4927 人となり、今年度 4 カ月経過の時点において 118 人の会員を増強していただきました。

特に西名古屋分区におかれましては 10 月末現在純粋増加 47 名と素晴らしい増強をしていただいております。各分区ガバナー補佐のご尽力による順調な会員増強により、私が目標とする 5000 名を達成するものと確信しております。しかしながら引き続き皆様方のご協力とご支援をお願い致すところでございます。

また、この折、パストガバナー豊島委員長率いる地区拡大委員会からは、盛田パストガバナー・田嶋直前ガバナーを中心に皆様のご尽力により新しいクラブ発足の兆しが見え始めているようでございます。

その他にも地区においては各委員長を中心に 7 月より様々な活動に取り組んでいただいています。クラブ奉仕委員会ではクラブの活性化のために地区クラブ奉仕委員会のテーマを「魅力あるロータリークラブを作るためには」と定め活動をしていただいております。そのためには、まず、地区クラブ奉仕委員会の活動の要点を各クラブの委員長さんに深く理解を願うために会議を開催したり、合わせて地区内全会員に知つもらうための方法として、クラブ奉仕委員長会議の資料をガバナー事務所のホームページにて閲覧できるように手続きをされております。

研修委員会では本年度より当地区が RLI、すなわちロータリーリーダーシップ研究会日本支部に加盟したことを受け、ディスカッション形式の研修方法を地区内で広く理解いただけるよう委員会メンバーの皆様にご尽力いただいております。またこの RLI に関しては本日ご臨席いただいている RI 研修リーダーの中村靖治パストガバナーにも度々当地区へお出でいただき多大なるご指導を賜っております。この場を借りてお礼申し上げます。

職業奉仕委員会においては今期 8 月に 82 クラブの参加のもと、委員長会議を実施いただき、地区研修委員長の指導のもと、今申し上げました R L I の方式を活用いただき、有益な研修会を実施いただき



ております。また、10月の職業奉仕月間には地区内40のクラブにそれぞれの委員が出向き、アーサー・F・シェルトンの理念のもと、卓話を実施していただきました。

社会奉仕委員会は、先月委員長会議を開催され、各クラブからの素晴らしい活動実績が発表されております。なかでも東北地方の災害支援の活動状況が発表されており、今後の更なる奉仕活動の進捗が期待されております。

国際奉仕委員会では世界社会奉仕委員会のグローバル補助金を活用したプロジェクトである3360地区とのマッチンググラントで、タイ国サワナゲート保健短期大学寮の増築プロジェクトが進められております。また、本件に関して、9月28日から10月2日にかけて台湾・ラオス・チェンマイなどのパス・トガバナーや関係者との打ち合わせのため、渡航いただいております。

2010年規定審議会においてロータリーの五大奉仕のひとつとなった新世代奉仕委員会では、9月、インター・アクト・ローター・アクト・RYLA・そして青少年交換委員会総合での地区新世代サミットが開催されております。この会議には青少年交換学生の親御さんも出席され、総勢300名を超える大きな会議がありました。インター・ローター・RYLA・青少年交換委員会のクラブ活動に参加した青少年からの活動報告や海外研修の感想を聞き入ったところですが、ロータリーの青少年に向けた熱い思いが伝わってきており、脈々と続く青少年へ向けての奉仕活動の大切さを感じております。

ロータリー財団においては、当地区は未来の夢計画に基づくパイロット地区として田嶋年度より始動い

たしておりますが、地区内全クラブ様はこの内容を十分ご理解いただき、立派な活動を実践いただいております。財団委員会としてはグローバル補助金を使用しての東日本大震災先の岩手県の病院機材支援を10万ドル、同じくグローバル補助金による職業研修チームのオーストラリアへの6名の派遣・同じく、ウガンダの学校改修支援・タイ・チェンマイ地方の衛生支援ほか、ラオスの学校改修支援などが予定されております。

また、継続しているポリオワクチン投与活動は来春2月にインドへ赴くとのことで、皆様の参加を募っております。

米山奨学委員会では9月にクラブ米山奨学委員長会議を開催いただき、ロータリアンと奨学生、学友が一丸となって米山奨学事業の理解を深める有意義な会議となりました。先月には奨学生と学友の合同研修会、カウンセラー研修会を実施いただき、ロータリアンと奨学生が交流を深めるとともに、それぞれの情報交換の場として、ロータリーの誇れる日本最大の奨学事業の発展につながる非常に中身の濃い研修会となりました。

このほか環境保全・RCC・広報・識字率向上の各委員会からも素晴らしい委員会活動報告をいただいておりますが、限られた時間でありますて、これらの内容につきましてはガバナー月信やホームページにて掲載させていただきますので、是非ご覧いただきたくお願い申し上げます。

さて、今年度ガバナーを務めさせていただき、私の第一の楽しみは各クラブを訪問させていただくガバナー公式訪問でございました。

本年度ガバナー就任後、32回に分けて地区内8分区の82クラブの皆様とまことに熱い交歓会がもてました。また、訪問に際しては、いずれも温かい歓迎を頂き、深く感謝申し上げておりますと共に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

私はこの訪問の機会を頂き、正直な気持ち、ビックリいたしました。どこのクラブを訪問してもロータリアン皆様からロータリアンとしての熱い思いが伝わってくるからです。1967年(昭和42年)このロータリークラブに入会以来44年、先輩の教えをいただき、超我の奉仕を旨として長期間にわたりロータリー活動をさせていただきましたが、地区内多くの皆様と久しくお話しする機会を頂戴して今さらに2760

地区・ロータリアン皆様の素晴らしい情熱に感激しているところでございます。と合わせて、自分の学習の不足を痛感いたしているところであります。

どうか、今後とも熱い情熱でご支援賜りますようお願い申し上げます。

さて、ここで東日本大震災復興支援につきまして皆様へご報告とお願いを申し上げます。3月の震災後、昨年度（田嶋年度）には地区内会員の皆様より多額の義援金のご寄付を賜り、その寄付金は昨年度ガバナー事務所よりガバナー会へ送金されました。その使途について当地区は昨年度ガバナー会の東日本大震災支援委員会において計画された震災遺児奨学金プログラムへの参加を決定致しました。皆様より賜りましたご寄付は不幸にも震災で親御さんを亡くしてしまった子どもたちの支援に有効に活用されるものであります。この震災遺児奨学金プログラムの詳細については既にガバナー事務所より連絡させていただいたウェブサイトに掲載されております。

また今年度の支援につきましては、既に皆様へお

願い申し上げていますが、ロータリー東日本震災復興基金へ1人5000円以上のご寄付をお願い致します。小沢元RI理事を筆頭とするこの基金へ送られた寄付金は全額が多岐にわたる復興プロジェクトへ使われるものであります、一日も早い被災地復興に役立てられます。

また、この度地区内に東日本大震災復興支援プロジェクトチームを発足することとなりました。地区ロータリー財団委員会と連携をはかり、地区内クラブ会員で支援活動を実施されている方にもワーキンググループに加わっていただき、有効な復興支援活動を行ってまいりたいと考えております。

末尾となりましたが、地区大会ホストをお引き受けいただいた高村博三実行委員長・遠山堯郎大会幹事はじめ名古屋瑞穂ロータリークラブ会員各位には本当にすばらしい大会を企画して実行いただいております。松前心より厚く御礼申し上げ、ガバナー挨拶および現況報告とさせていただきます。



RI 会長メッセージ並びに現況報告

RI 会長代理
国際ロータリー元理事
国際ロータリー第 2680 地区
パストガバナー

今井 鎮雄



私たちはカルヤン・バネルジー RI 会長、ビノタ夫人の代理として 2760 地区の地区大会へ派遣されてまいりました。

RI の現状とバネルジー会長が考えている大切なことをご報告致します。ロータリーが生き馬の目を抜くようなシカゴで始まってから 100 年以上が経ちました。ポール・ハリスら 4 人の若い実業家が友情を交わし、自分たちの持っているいろんな職業の機能を正当な値段で互いに融通し合おうと、ロータリークラブが発足しました。「一人よがりをグループにしただけ」、「この社会にとって意味はあるのか」と反論する人がありました。ポール・ハリスは人々が職業を通して仲良くなり、同時にロータリーの善意や社会的

な役割を地域社会や世界の人々に知らせていくことが大事だと考えました。こうしてロータリーは 100 年の歴史の中で、時代の変化の中で常に自ら反省し、時代に問うてきました。100 年を経た現在、私たちはもう一度ゆっくり考える 3 年間の準備を置いたことは、皆さんご存知の通りです。

この 2760 地区は日本で一番多い 4993 人のロータリアンを抱える立派な地区です。今、私たちが直面している「時代の中でロータリーが何をすべきか」の研究会が 3 年間続きます。その間にこれからの時代に応えられるもの、力点を置かなければならないものの、平和のために地域社会に発信していくべきもの、世界のための問題をもう一度考えてみなければなり

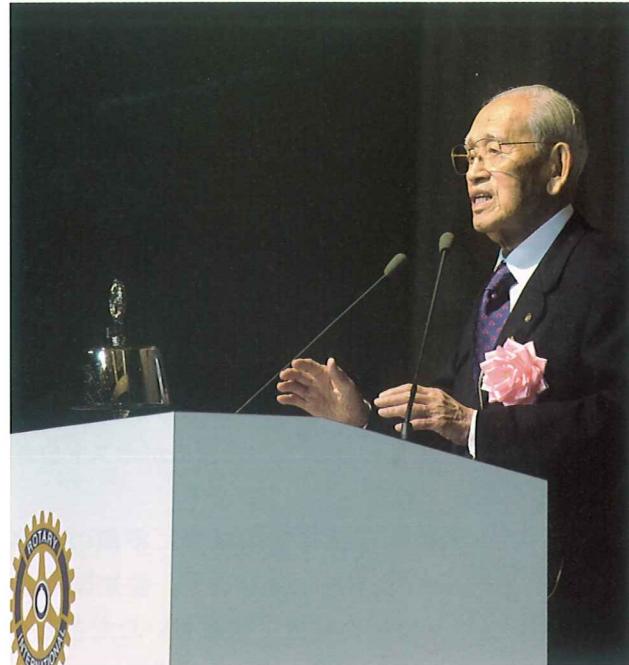


ません。いろんなモデルをつくり、実践し、深く省みて、新しいロータリーの中心と方向を決めていくための3年間です。長期計画ではなく、戦略を考えるためにあります。すでに2年間を過ぎています。次の新しい夢に向かって進めなければいけません。

世界のロータリーの状況についてご報告致します。ロータリアンは122万3083人、3万4049クラブ、532地区に分かれています。200以上の世界の国々、地域がロータリーのつながりの中にあり、サービスを提供し、受けております。この数字に若いローター・アクト、インターラクトの方々を含めると、多くの若者が関心を持ち、ロータリーとは何かを考えながら、将来ロータリアンになりたいという人が増えております。今までこのロータリーのムーブメントを大きく支えたのはアメリカであり、その次は日本です。しかしその両国でロータリアンの数は減ってきました。日本は多い時は、13万人のロータリアンがいましたが、今は9万を切りました。ロータリーの大事な目標を担う私たちの仲間が減っていくことは、重大な問題で、改めて考えなければなりません。

バネルジー会長は「私たちは世界平和のために隣人や近隣の国と仲良くなり、世界の平和をつくっていく大事な役割をロータリアン一人ひとりに担っていただきたい」とおっしゃっています。バネルジー会長の戦略計画の中で中心に考えられているのは、クラブの問題です。会員の分析をすると、65歳以上は36%、40歳以下が11%です。ロータリークラブは、世界を平和にする大事なビジョンを100年もつなぎ、ロータリーは良い仕事をすると評価されながら、実態は老人クラブになっているのではないか。これを反省し、若者を入れてクラブを活性化してほしいとバネルジー会長は願い、「私たちが住んでいる世界と若者が住んでいる世界は違う、若者はツイッターで集まり、情報によってつながっているが、私たちはその人たちに触れていない。若者はメールの中やパソコン、フェイスブックの中にいるかもしれない。そういう若者をクラブに入れた時に、彼らは今までと同じ状態のクラブに興味を持つだろうか。持てないならば、若者と一緒に食事や話ができる場をつくってはどうか」とおっしゃり、クラブが新しい人たちを迎えることに積極的な努力をする必要性を唱えておられます。

ご存じのように東京大学の福祉にかかる学部



が、2030年に日本はどうなるかという分析をしています。今、日本に100歳を越えた人は5万人ほどいます。2030年は27万人、2050年は、50万人になるそうです。日本は世界一の高齢社会を迎え、実際に働く人の人数や子どもの数は反対に減る現実が迫っています。

新しく新世代委員会ができましたが、新世代の人々がロータリーに入って、一緒に手を組んでいけるような会を持たなければ、ロータリーのイメージは、変わりません。バネルジー会長は、新しい世紀を担う若者を迎えるため、一緒にできるプログラムを考えています。平和のために努力をし、若者とともにロータリーの考えを語り合い、新しい時代を自らつくるなければいけません。そのためにロータリーの公共イメージを高めていく必要があります。ある時は職業訓練や途上国での水の浄化など、今の世界が必要としている人道的なプログラムが戦略計画の中に取り上げられているのです。国際ロータリーが行おうとするプログラムをロータリー財団が応援し、そのためのお金を集め、クラブを通して世界の人たちにプログラムを提供する。そのことによって平和の意味を考え実践しているのが、RIの現状です。

新しい未来に向かい、日本で一番大きな地区であり、世界のモデル100地区にも選ばれているこの地区的皆さんのがこのことを理解し、先頭に立つだけだとありがたく、バネルジー会長も私自身も期待をしていることを申し上げます。

祝辞



愛知県知事

大村 秀章

本日は、国際ロータリー第 2760 地区大会のご盛会おめでとうございます。皆様のご尽力そして今回、名古屋瑞穂ロータリークラブの皆さんのがホストをされ、心から敬意と感謝を申し上げます。

先ほどは、愛知県社会福祉協議会に多額のご寄附をいただき、厚く御礼申し上げます。愛知県内の福祉の増進にしっかりと役立てさせていただきますので、なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

皆様には常日頃、県政全般にわたり、ご支援・ご指導をいただき、厚く御礼申し上げます。拝見しておりますと、いろんな場所でお会いする方ばかりで、まさに愛知を支えていただいている皆様でござります。これからもロータリーを中心にし、地域を支えていただきますとともに、それぞれの社業や地域の経済産業も支えていただきますよう、心からお願ひ申し上げます。

愛知県はいろんな産物があり、もちろん工業は 34 年連続日本一、平成 22 年の工業出荷額は、38 兆円、第 2 位の神奈川が 17 兆円、静岡は 15 兆円ですから、ダントツです。日本一の産業県ということで、自動車産業、航空機産業、エネルギーなどもっと前向きに進めていく所存です。農業は 1 位に 1 兆円の売り上げの北海道、2 番手は 4000 億の茨城、千葉、鹿児島、3 番手に 3000 億円の愛知、宮崎、熊本です。日本酒も多く、蔵出し量は 1 位の兵庫、2 位の京都、3 位は新潟、4 位が愛知です。40 を越える蔵元があり、今年金賞を 5 つ受賞した蔵元もあります。

これからも我が愛知を支えていただきたいと思います。愛知が頑張れば日本が元気になるということです。今日は、この大会が大成功に終わることをご祈念申し上げます。ロータリークラブのますますの発展をご祈念申し上げ、ご挨拶と致します。



祝辞

名古屋市長
河村 たかし



2011～2012年度の地区大会がこのように盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

さて、ロータリーのモットーに自分を超えた奉仕をするということがあります、特にアメリカやイギリスは、国際的なNGOへの寄付が多いです。日本人に気持ちがないわけではなく、外国人には減税があるからです。アメリカは30兆円以上の減税、イギリスは今年は戻っていますが、数年前には消費税を1%下げました。税金が世のため、人のためのお金だとすると、減税して戻さなければいけません。しかし、日本では、減税はなかなかうまいこといきません。日本の財政危機は嘘で、銀行には多額が余っています。普通は預金した金は、投資されますが、日本はお金を借りる人がいませんので、政府が借ります。日本の国債は皆さんの貯金であり、ギリシャやイタリアと違います。税金を払う方は苦労していますが、税金で食っている人にとっては楽な国です。税金で食っている人は、基本的に民間よりも多く給料を取ってはいけません。特に市長や議員はいけません。

ロータリーの皆さんに寄付をしていただきましたが、世のため、人のためにお金を出すには、減税をすると効果的です。自分の意思で選択税金を行うための減税です。地方の減税は平成18年までは、できませんでしたが、総務省は自治体の競争を促すために減税制度を始めました。しかし減税するためには、総務大臣の許可が必要でさらに減税のための財源の全額を行財政改革で行い、市債を充てられない厳しい条件があります。ですから、減税しようとする都市は、日本で名古屋市だけです。行財政改革は、公務員の給料を減らさなければなりません。私は3分の2カットし、800万円です。外国の首長は、ボランティアか市民並みの給料です。名古屋市は、市長の退職金は4年ごとに4220万円もらえます。私はそれもカットしました。名古屋市職員の総人件費も1割カットしました。2万6千人から190億円をカットし、

外郭団体も半分近く減らし、競争化しました。大改革をしたから、名古屋で減税ができるのです。それを皆さんにお返しし、いろんな団体に寄付し、役所ではなく、みんなで社会をつくろうというのが名古屋のチャレンジです。

良い公共サービスをより安く提供する政治は、できないでしょうか。60年間無競争の独占が役所です。税金はGDPが増えれば、多く入りますが、それに比例して人件費がかかる訳ではありません。競争がない役所こそ、減税をしなければいけません。是非応援をしてほしいと思います。税金で食っている人たちの反対する気持ちは、分かります。減税は嫌ですから。是非、納税者に立ち上がってもらい、そこからみんなの寄付や力で地元のことを解決していく寄付型の市民市役所、お年寄りの孤立死や児童虐待などの民間の取り組みを日本で初めて名古屋から打ち立てようとしています。私は、より一層寄付が進むよう減税をがんばります。皆さんも引き続き誇り高きロータリー精神のもと、幸せな社会づくりを担っていただきたいと思います。皆さんの活動に心から敬意を表するとともに、ますますのご発展を祈念いたしまして私の挨拶とさせていただきます。本日はお招きいただき、ありがとうございました。



ガバナーエレクト挨拶



国際ロータリー第 2760 地区
ガバナーエレクト

千田 肇

【プロフィール】

1936年8月8日生まれ
名古屋東ロータリークラブ

ロータリー歴

1973年12月 名古屋東ロータリークラブ入会
1984年 名古屋東ロータリークラブ幹事
1996年 名古屋東ロータリークラブ会長
2000年 地区社会奉仕委員会委員長
2006年 東名古屋分区ガバナー補佐
2010年 ガバナーノミニー

経歴

1960年 慶應義塾大学卒業
1962年 名古屋建商(株)代表取締役社長
1984年 (資) 千田地所代表社員
1995年 メイケンビルド(株)代表取締役社長

[公職]

1989年 愛知県高等学校PTA連合会会长

「まだサンディエゴに行っておりません」と申し上げようと思ったのですが、今朝、今井RI会長代理にみつりと勉強させていただき、サンディエゴへ行く以上のご教授を賜りました。中村研修リーダーにそう申し上げましたら「非常に名誉であり得ないこと」と言われ、「今井代理は、千田がよほど心配か」ということでした。ご心配かけないように一生懸命頑張りたいと思います。

今井 RI 会長代理は「クラブを若くしなくてはならない」とおっしゃいましたが、私も若い人が加入し、クラブが活性化することが一番であり、今井 RI 会長代理の恩に報いるには、それしかないと思っています。本日は松前ガバナーのご指導の下、地区大会が開催されることを心から喜んでいます。また名古屋瑞穂ロータリークラブの皆様方のホストクラブとしてのご努力に謝意を表します。松前ガバナーは、持ち前の推進力でこの地区をご指導賜り、特に会員増強について地区の皆様のご協力とガバナーのご指導に感謝しています。この松前年度の勢いに乗じて衰えることなく、地区の方針に従って地区運営をしたいと思っています。

3月11日の東日本大震災は、人知を超える文明のはかなさでしたが、それにもかかわらず一緒に立ち上がりうとする東北の皆さん的心に打たれました。私も東北に行きましたが現状を見て、言葉も

なく、心を痛めました。もしできるなら、少しでもお役に立てるようなプロジェクトを考えたいと思っています。

いま一つの課題は、地区的クラブ活性化に取り組んでいきたいと思います。1年間お世話になりますが、よろしくお願い申し上げます。この地区を明るく、楽しく、朗らかに運営したいと思っています。ありがとうございました。



ガバナーのミニープロフィール

国際ロータリー第 2760 地区
ガバナーのミニー

田中 正規



【プロフィール】

1948年7月25日生まれ
西尾ロータリークラブ

ロータリー歴

1991年4月	西尾ロータリークラブ入会
2000~01年	第43代 クラブ幹事
2007~08年	第50代 クラブ会長
2002~05年	地区財団奨学委員会委員
2005~06年	地区財団奨学委員会副委員長
2010~11年	西三河分区I.M.実行委員長
2011年	ガバナーのミニー

ポール・ハリス・フェロー
ベネファクター
米山功労者
米山功労法人

経歴

1973年	久留米大学医学部卒業
	名古屋大学医学部第2外科入局
1980年	医学博士
	聖霊病院 外科勤務
1983年	医療法人田中会西尾病院外科勤務
1986年	医療法人田中会西尾病院院长
1992年	医療法人田中会西尾病院理事長
2009年	社会福祉法人誠正会理事長

[公職]

2006年	西尾幡豆医師会会长
-------	-----------

次年度地区大会ホストクラブ挨拶

安城ロータリークラブ
次年度地区大会実行委員長

沓名 俊裕



皆様こんにちは。次年度千田ガバナーの方針のもと、安城ロータリークラブが2012-2013年度地区大会をホストクラブとして開催させていただきます。

まず、来年度の地区大会会場は、本来ホストクラブの本拠地で行うのが通例で、私どもも安城の地で開催することを願っておりましたが、会場の都合で今年と同じこのウェスティンナゴヤキャッスルで開催することを決定しました。

日時は2012年10月27日28日です。例年より1ヶ月早い10月開催にいたしますので、今から皆様のスケジュールに組み込んでいただければ幸いに思います。

そして、『強く生きる』というテーマを掲げ、今

不景気な世界から抜け出し一歩も二歩も先に進んでいこうという強い気持ちで臨んでいきたいと思っています。

安城ロータリークラブは55年の歴史がありますが、まだまだ微力であります。皆様の多大なる協力のもと、参加してよかったです、ロータリークラブの会員でよかったですと思ってもらえるような、素晴らしい素敵なかいをを目指して準備を進めています。

来年10月27日28日はこのウェスティンナゴヤキャッスルでお待ちしております。ぜひご参加ください。よろしくお願ひいたします。ありがとうございました。



記念講演

「観光とリニア中央新幹線」



東海旅客鉄道相談役 須田 寛氏

【プロフィール】

1931年 京都府生まれ。

1954年 京都大学法学部卒業、同年 日本国有鉄道入社。1979年 名古屋鉄道管理局長。1981年 旅客局長。1984年 理事(常務理事)。1987年 東海旅客鉄道(株)代表取締役社長。1995年 同会長。2004年 同相談役、現在に至る。(社)日本観光協会中部支部長、全国産業観光推進協議会副会長。日本商工会議所観光共同委員長、ほか多数。安村克己・徳田耕一氏との共著で『新・産業観光論—近代化産業遺産の活用と「交流の世紀」への歩み』すばる舎、2002年、単著『観光 新しい地域づくり』学芸出版社、2009年、『昭和の鉄道』交通新聞社、2011年、ほか多数。
名古屋ロータリークラブ会員。

著 書
産業観光読本(交通新聞社)
新・観光資源論(交通新聞社)
観光の新分野 産業観光(交通新聞社)
新しい観光(交通新聞社)

新産業観光(交通新聞社)
東海道新幹線II 改定新版
(JTBパブリッシング)
観光—新しい地域づくり(学芸出版社)

競争力がなくなった日本の観光

今、これからの日本にとって、国づくり、ないしは地域づくりに、町づくりに、非常に大きな効果をもたらす大きなプロジェクトが、中部地域を中心に進行しかけております。一つは観光、今一つはリニアです。

日本は今、転換期に直面しております。それは人口の減少です。その中で、どのように日本の文化を維持発展させるか、という課題が一つございます。もう一つはエネルギー問題です。今一つは環境問題であろうかと思います。このような中で、豊かで実りのある国にするべく、どのように国づくりをしていったらいいか、私どもの大きな課題ではないかと存じます。

人間の文化は、人ととの交流によって生じ、かつ発展し生成します。人相互の交流のチャンスを増やす。円滑な交流を行う。これらのことが、これから社会経済づくりにとって、非常に重要だと存じますが、観光はそのような交流を促進する、最も端的

な方法ではないかと思います。

その観光に関して今、政府は「観光立国」ということを掲げております。しかし、残念ながらここ数年日本では観光客は増えていません。それは日本の観光が、ややマンネリになってきていて、世界の人々を呼ぶための魅力にいさか乏しく、また日本人が国内の観光を敬遠して海外に行ったり、観光以外のアミューズメントを求めたりして、観光の国際競争力が弱くなってしまっていると考えざるを得ないからです。そこで、私どもは三つの提案をしております。

まず観光に関わるいろいろな産業がありますが、それらを活性化すると同時に、経営改革をし、コストダウンを図ることです。日本の観光物価は若干の誤解もありますが、国際的に見て高いと言われております。旅館が高い、ホテル代が高い、ということは絶えず聞くところです。それには旅館、ホテル、旅行業が経営の効率化を図り、コストを下げる、これをまずやらないと観光の競争力は増さない、と考えています。

次に、新しい手法の観光を開発する、案内をしていく、情報発信をする、ということではないかと思います。従来の観光とは、景色のいい所や由緒のあるお寺や神社を巡る、あるいは温泉に入るなど、「物見遊山」という言葉に代表される、見物型が中心です。しかし、それだけではリピーターがなかなか来ません。

そこで、今ある日本の観光資源について新しい見方を提案することによって、多角的にそれらを生かしていく。見方を変えて、新しい観光資源ができたのと同じような効果をそこにもたらすようなことを、工夫していかなくてはいけない、と考えるわけあります。

新しい観光を開発する

今私どもが提案をしておりますのは、テーマ別の観光。例えば産業観光、街道観光すなわち道の観光、都市観光（まちの観光）等々。あるいは、全く新しい手法の観光も必要かと思います。

例えば、日本の医療関係の非常に優れた技術を生かし、海外の人々に日本に来てもらい例えば人間ドックを受けていただく。その傍ら、日本の観光もしてもらう「メディカル・ツーリズム」。あるいは、森林浴とかバードウォッチングというような「エコ・ツーリズム」。このような新しいジャンルの観光の様式があると思います。

もう一つは、これまでの観光のやり方の中から、新しい手法を考えることです。今、話題になっておりますのは「食の観光」。これまで食べ物の観光は、地域の観光に付帯しておりました。有名な所に行き、おいしいものを食べ、名産の食べ物を買って帰るということです。

今は違います。新しい食べ物、おいしい食べ物がそこにある、という情報が発信されると、食べ物を食べるためだけにそこに行きます。例えば甲府のモツ煮がB級グルメの第1位になった。宇都宮にはギョーザがある。そうなると、人々は甲府や宇都宮に行きます。従来、付帯的なものであった食べ物が独立して、一つの新しい観光のジャンルが生まれてきました。

これまでとは別の観光、例えば、その地域の得意なモノづくりに関係のあるものを選び出して観光していただく「産業観光」も提案したいと思います。海。皆さんは景色を見に海へ行きますが、海は漁業の場です。どういう魚がいるのか、どういう捕り方をするのか。海は交通の場です。そこにクルーズ船があるとか、どういう船が通っているのか、どういう楽しみができるのかということが出てきます。このように考えると、海が立体的に見えてきて、海というものの見方が変わってきます。それを、テーマ別の観光とも言っているわけです。

日本でも、観光で経済を成り立たせている町はたくさんあります。世界的に見ますと一つの国の財政、経済を観光で支えている国も少なからずあります。日本の観光の生産高は日本のGDPの5%ですが、世界平均では10%になります。まだまだ日本は割合が低い。ということは、まだまだ伸ばす可能性がある、ということだと考えられます。

産業としての観光は、交流を促進するという、一つの大好きな命題に沿うことができ、日本経済を支える大きな牽引車ともなることが、期待できると存じます。今まで、日本の経済は主として重厚長大型の産業で支えられてきました。しかし、それらが成熟状態に入ってきてすることは、否定できないところだと思います。

そうなりますと、これから日本経済を支えるためには、牽引車は一つや二つでは具合が悪い。いろいろなものが日本経済を牽引しなければなりません。その中に、観光産業が一つの大好きな牽引車として、これから浮かび上がってくるものと存じます。観光は第三次産業に分類されておりますが、一次産業も、二次産業も、三次産業も全部含まれており、総合的な効果のある大きな産業ではないかと考えます。

観光は、文化事業であり、大きな経済効果を持つ経済行動だという原点に、もう一遍立ち返って、皆さんとともに観光を伸ばすことを考えなければいけないと、私は感じます。

リニアモーターカーへの移行

リニアモーターカーの話に移ります。リニアとは浮

記念講演 ■

上式の交通機関です。これまでのレール上の粘着式運転とは違った動力方式を使い、従来の交通機関に対する一つの大きな革命、新しい技術的な提案をするものです。地上を走る交通機関としては最高の時速500km、飛行機並みの速度を出すことができます。これにより、交流はさらに盛んになります。

これから日本は、交流国家として生きていかねばなりませんが、観光のようなソフトの面で、交流を盛んにすることが大事であると同時に、ハードの面でこれを支えていくためには、リニアがこれから日本の国づくりに大きな力を尽くすものと思います。同時に、リニアが開通することによって新しい町づくり、国づくりの大きなきっかけになると存じます。

まず今、交通機関に対してどういう要請があるのか。日本が人口減少の中にあって、高齢者を中心に雇用を盛んにしなければならない。エネルギー問題、環境問題が深刻さを増す中で、それらに大きな影

響を与えずに、またプラスの影響を与えるような交通機関が望まれていることは、申し上げるまでもないところであります。粘着式の交通機関から、浮上式の交通機関へ移ることによって大きい効果が期待できます。

粘着式というのは、摩擦の力を使って地上を走るこれまでの交通機関です。摩擦の力を利用する交通機関は、一定の速度を超えると、車輪は空転しがちになってしまいます。通常の条件では、時速400kmを超えると摩擦の限界をオーバーします。空転をするということは、それだけエネルギーに大量のロスが出てくるということです。騒音、振動問題もあります。

対する浮上式の交通機関・リニアモーターカーの原理ですが、ごく簡単に申し上げますと、ある種の物質が一定の温度以下になると、その物質が超電導現象を起こします。例えばマイナス269度になると、





銅とニオブ、チタンという三つの金属の合金で作られた電磁石の電気抵抗が、ゼロになります。電気抵抗がゼロということは、一回送電すると電源を切っても、マイナス 269 度である限りにおいては、永遠に電気が流れ続ける、永久磁石になることを意味しています。

リニアはそれを車輪の位置に積んでいます。要するに、車両が強力な電磁石をもって走るとお考えになればいいかと存じます。その磁石の極が、NかSかによって、地上の方の磁極に誘導現象が起こります。ガイドウェイの壁に、地上の電磁石が据えつけてあり、周波数を変えることによってN極、S極を変化させ、車体の磁石に対しての押し合う力と引っ張り合う力をを利用して車体が前に進む。これが進行の原理です。

次に、車体を浮かせなければなりませんが、ガイドウェイにある、押し上げ用のコイルに車載のものと同極の磁極が来るようになると反発しますから、上へ浮き上がります。車体は浮いていて、空気抵抗だけしかありませんから、摩擦の原理とは関係なく前に進んでいきます。これが、リニアモーターカーの原

理です。

この原理を使うと、時速 800km も可能だそうですが、時速 500km を超えると、エネルギー効率が悪くなるそうです。従って、私どもはエネルギー効率の限界を念頭に置き、時速 500km で計画をしています。それで、東京—大阪間がおよそ一時間になるわけです。

リニアモーターカーの研究・開発は、1962(昭和 37)年、国鉄時代から始まっています。1972 年、ちょうど鉄道開通 100 周年の時、ML 100 というカプセルのような乗り物ですが、東京の鉄道技術研究所の構内で、時速 7km の有人運転に成功しました。世界で初めて、超電導現象を応用した人間の乗るクルマが動いた瞬間とされています。

その後、宮崎県の実験線で時速

500km を超える実験に成功、技術の基本はだいたい国鉄時代にできていました。実用化されなかったのは、国鉄の財政難によります。しかし、ここまで研究が進んでいるから、研究だけは絶対閉ざしてはいけない、ということで、わずかでしたが国から研究費の補助をもらって、毎年細々と研究だけは続けておりましたので、JRができるときに、技術開発はおおむね完成の域に近いところまで、来ておりました。

JRになってから、山梨県に大規模な実験設備をつくり、これが一つの大きな前進になりました。1997 年に最初の走行実験が行われました。18.4km の実験線を今度、42.8km に延伸しますが、将来、中央新幹線に使う場所を念頭に置いてつくりましたので、これがそのまま中央新幹線として使えます。

東海道新幹線のバイパスとして

では、なぜリニアなのか。東海道新幹線のバイパスが必要だということが、リニアを運行しようとしている、一番大きな要因です。東海道新幹線が開通

記念講演 ■

したのは、1964（昭和39）年です。既に40数年が経過しております。開通したときから現在に至るまでに、車両も、レールも、架線も、全部、取り変わっていて当時のものは、残っておりません。

しかし、当時からそのまま使っているものがあります。トンネルとコンクリートの高架橋、それに鉄橋です。専門の学者に検討いただいた結果、今から20～30年間くらいは、補修をきちんとやれば、安全上問題はないというお墨付きができました。ただし、その後においては、取り替えを考えざるを得ない時期がいずれ到来するから、今からその方法をよく考えておくように、という示唆もございました。

鉄橋を取り替える場合、従来はその横に鉄橋をつくり、線路を少しひねってカーブを付けて、隣の新しい鉄橋を使っていました。しかし、新幹線は高速ですから、急カーブの線路をつくるわけにもいかずこれができません。そうなりますと、横に新しい鉄橋をつくっておいて、夜、列車を止めて前の鉄橋を落として、その後新しい橋を横にずらして置き換える。そういうやり方しかとれないだろう、ということになります。コンクリートの高架橋も、それに近いことをやらなければいけません。

このような工法を取るとなれば、列車をかなり長い時間止めなくてはいけません。その後も、線路が安定するまでの間、相当期間、速度を落として徐行運転をしなければいけないだろう、ということを考えられるようになりました。

しかし、現在約40万人近いお客さまに毎日、利用いただいている大動脈ですから、長時間止めるということは国のためにも損害が大きいし、私どもも責任を果たすことができない。そのためにどうしてもバイパスがいる、ということになったわけです。

輸送力の点では今のところまだ深刻な問題はございません。しかし、将来、まだ利用者が増える可能性がありますし、また増えなければ、私どもの会社は成長がないわけでございますから、増やさなければいけない。いつでも乗っていただけるような新幹線にしなければいけない。そのためにはやはりバイパスをつくって、需要を満たせるようにしておかなければなりません。

リダンダンシー（Redundancy）。災害に対するゆ

とり、と申し上げるべきだと思いますが、阪神・淡路大震災が起こった時に、山陽新幹線、在来の山陽線、国道二号線、山陽自動車道が、神戸でほとんど同じ所を通っていた関係で、交通機関が一斉にまひしました。その結果、西日本の経済がまひ状態になって、二か月ほどの間、大変深刻な事態が起こったことは記憶に新しいところです。国の動脈をお預かりする者としては、災害の影響が同時に起こらないような所に、バイパスをつくっておかなければならぬ。これが三つ目の理由でした。

また、われわれがここまで口幅つたいたことを申し上げるのはどうかとも思いますが、今、東海道ベルト地帯は、経済の集積が相当進んでおります。従つて、高速の交通機関で東京—大阪間を結ぶことにより、一つの都市圏として融合させた方がいいのではないか。東京、名古屋、大阪という三つの都市圏の役割分担を再編成するという見方でございます。そこで、東海道には、より高速交通機関が必要だ、という国家的なニーズもあると思います。

以上が、私どもがバイパスを必要としている理由です。バイパスをつくるのであるならば、リニア技術が国鉄時代から開発されてここまで進んできているわ�ですから、それを使わない手はないと。「中央新幹線」という構想が出た時に、ここはリニアで行くことについての、暗黙の了解が以前からあったのは事実ですが、それをもう一度ここで、最近の技術開発の成果を見ながら、確認することができたというのが、私どもがリニア新幹線に踏み切った大きな理由です。

これからリニアの工事計画をつくるわけですが、工事計画をつくるに先立ち、環境アセスメントの手続きに入っています。着工は2014年ごろになろうか、と思っております。東京—名古屋間が2027年、東京—大阪間が全線開通するのが2045年の予定です。

東京—名古屋間で、費用が約5.4兆円かかります。大阪まで行くとさらに約3.6兆円かかります。名古屋までのところで数年間、間を置いて工事をやりますのは、プロジェクト推進の前提として健全経営を維持し、安定配当を継続するという命題があるからです。私どもは、この工事を自前でやることにして

記念講演 ■

謝辞

おります。

観光で町づくり、そして観光の交流促進効果と、経済効果がフルに生かせるようとする。一方リニアで新しい町づくり、これはむしろ国づくりと申すべきでしょうが、それをやっていく。そしてその効果を十分に發揮すると同時に、皆さまの努力によってまたリニアを使って、大きな経済効果を全国にもたらしていただく。同時に、人口減少下における、エネルギー問題、環境の厳しい中における日本の新しい国づくりをする。そのための大きなきっかけになる、観光とリニアという二つのプロジェクトが、中部地方を中心としてこれから力強く推進されるところにきているということを、今日は皆さんにご報告申し上げたいと存じます。

口幅ったいことをいろいろ申し上げましたけれども、官民共同、地域の皆さん挙げてのご支援がないと、また皆さん方にも町づくりへのお取り組みをいただかないと、これは実現しませんので、皆さん方のこれから温かいご指導とご支援を切にお願いをして、二一世紀の新しい国づくりに、私どもはまい進をしてまいりたいと存じます。

「ロータリーの友」2012年4月号より転載

国際ロータリー第2760地区
2011-2012年度ガバナー

松前憲典

須田先生、観光とリニア中央新幹線について新しい情報をもとにご講演ください、ありがとうございました。

昨日、今日とともに“立て板に水のごとく”的話でした。日本の観光客は今、東日本大震災の影響でがた落ちであると申されました。観光について競争力をつけ、日本の経済を支える観光産業を伸ばすことの重要性や観光は文化事業であり、国内観光を盛んにして、日本経済や中部を伸ばしていきたいという話もありました。

「超伝導リニアモーターカー」の夜明けだと話され、リニアができることが、国づくりとなり、名古屋を立派な都市にし、大阪に通じるようにすることが重要だと申されました。観光で21世紀の国づくりをし、官民共同で立派な日本をつくっていきたいということが結論でした。先生、今日は貴重なお話をありがとうございました。大変勉強になりました。最後までご静聴ありがとうございました。

講評

RI 会長代理
国際ロータリー元理事
国際ロータリー第 2680 地区
パストガバナー

今井 鎮雄

まず最初に、国際ロータリー第 2760 地区の地区大会のためにいろいろご尽力いただきましたガバナーをはじめ、お付き合いいただいた皆様に心からお礼を申し上げたいと思います。

第 2760 地区は日本で一番大きな、会員の多い地区です。この地域をうかがいますと、ガバナーとその属するクラブ、地区大会をホストするクラブが異なっていました。私はそれが、どんなふうに連携されるのか心配していましたが、見事なものです。この中にかもし出される雰囲気がロータリー的で、一人ひとりが信頼し合っておられることが分かりました。互い同士が「来て良かった」、中には「来年も来たい」という人がたくさんいると思います。私も感じました。「来年また来てもよろしいか」。懐かしい地区になったことをお礼申し上げます。

カルヤン・バネルジー RI 会長は、来週大阪に来られます。パストガバナーのロータリー研究会があり、また新しいことを聞かせてくれると思います。私は会長に「2760 地区の皆さんのが親切にしてください、あなたが会長代理に任命して下さったおかげで大変いい思い出ができた。家内もお世話になって恐縮をし

ている」と伝えようと思います。

温かい雰囲気の地区大会であり、ロータリアンだとしみじみ感じます。ひとえに松前ガバナーのお人柄でもあると思います。皆さん、松前ガバナーが壇上に上がられるとニコニコしていらっしゃいます。いいですね。あれだけ仲の良い雰囲気があると。一番大事なことは、その気持ちが皆の中に伝わるということでしょう。それがどんどん広がって日本の輪になる。そして世界の人たちと一緒に手をとり合うことができる。その時に本当の平和が来るのではないかと思います。私たちは何千年と続けてきた人類の歴史の中で、どこの人とも争いをしないで仲良くなれるのではないか。そんな夢を持っています。それが未来の夢計画の一つの大きな課題です。その夢を追い続けるのが、ロータリアンだと思います。みんながこうして共に歩むところに、本当のロータリーの姿が出てくるのだと思います。これを示していただいた松前ガバナーをはじめ、担当の方々にはお世話になり、感謝を致します。こんな地区大会が開催できる素晴らしい地区が日本にあることを、改めてバネルジー会長に申し上げます。ありがとうございました。







2011-2012 RI DISTRICT 2760 CONFERENCE

● 大会第1日目プログラム	72
● 大会第2日目プログラム	74
● 決算書	76
● 大会議事	76
● 地区大会決議	77
● 感謝状・表彰	78
● 新ポール・ハリス・フェロー	79
● マルチプル・ポール・ハリス・フェロー	80
● ベネファクター	81
● 新米山功労者	81
● 来賓・特別出席者	82
● 出席クラブ	83
● 地区登録者	84
● 奨学生・交換学生・他	96
● ロータリー地域社会共同体 (RCC)	97
● インターアクトクラブ	97
● ローター アクトクラブ	98
● 物故会員	98
● 地区大会役員及び委員	99
● 大会実行委員会	99
● ホストクラブ紹介	99
● 第4回 地区指導者育成セミナー	100
● あとがき	108
● 次期地区大会のご案内	109

大会第1日目 プログラム

11/19 sat

会場：ウェスティンナゴヤキャッスル

9:30	地区指導者育成セミナー受付開始	
10:00	地区指導者育成セミナー	[於：2階青雲の間]
11:00	地区諮問委員会	[於：2階ル・パレ]
12:00	RI会長代理を囲む昼食会	[於：2階 金の間]

12:00	本会議受付開始 (ロビー)	[於：2階天守の間]
13:15	本会議第1日目開会	司会者 加納 裕 佐野 瑛厘
RI会長代理ご夫妻入場		
RI会長代理ご夫妻 今井鎮雄・幸子夫人		
東日本大震災犠牲者への黙祷 司会者 加納 裕		
オープニングアトラクション		
『コール・ロータリーナゴヤ』合唱		
指揮 加藤 典子 ピアノ 中村 容子		
13:45	点鐘	ガバナー 松前 憲典
国歌・ロータリーソング斉唱		
国歌『君が代』		
ロータリーソング『我等の生業』		
指揮 加藤 典子 (コール・ロータリーナゴヤ)		
ピアノ 中村 容子 (コール・ロータリーナゴヤ)		
開会の挨拶 ホストクラブ会長 高須 洋志		
RI会長代理ご夫妻紹介 ガバナー 松前 憲典		
特別出席者紹介 地区幹事 長谷川正己		
出席クラブ紹介 地区幹事 長谷川正己		
14:10	主催者挨拶 ガバナー 松前 憲典	
14:20	RI会長代理挨拶 RI会長代理 今井 鎮雄	
14:50	大会議事 報告事項	
●地区指名委員会 委員長 片山 主水		
<大会関連委員会報告>		
●大会登録委員会 大会実行委員長 高村 博三		
●大会信任状委員会 委員 斎藤 直美		
審議事項		
●2010～2011年度地区決算の承認に関する件		
決算報告 前年度地区会計長 上田 圭祐		
監査報告 前年度地区監事 中川 正美		
●ガバナーノミニー選任方法採択の件		
●地区大会決議に関する件 委員長 野村 重彦		

15:20	特別講演	
	講師紹介	司会 佐野 瑛厘
15:30	特別講演『世界の諸情勢と日本の進む道』	
	講師 第29代 航空幕僚長 田母神 俊雄氏	
17:00	謝辞	ガバナー 松前 憲典
17:10	点鐘	ガバナー 松前 憲典
	諸事お知らせ	司会 加納 裕
		佐野 瑛厘

RI会長代理ご夫妻歓迎晩餐会

17:30	受付開始 (ロビー)	
18:00	オープニング	司会者 加納 裕 佐野 瑛厘
RI会長代理ご夫妻入場		
RI会長代理ご夫妻 今井鎮雄・幸子夫人		
18:05	オープニングアトラクション	
	下垣真希ソプラノコンサート	
		ソプラノ歌手 下垣 真希
18:30	開会のことば	大会実行委員長 高村 博三
	歓迎の挨拶	ガバナー 松前 憲典
	特別出席者の紹介	地区幹事 長谷川正己
	RI会長代理挨拶	RI会長代理 今井 鎮雄
18:50	乾杯	バストガバナー 田嶋 好博
	会食・歓談	
20:00	ロータリーソング『手に手つないで』斉唱	ソプラノ歌手 下垣 真希
20:10	閉会のことば	大会幹事 遠山 勇郎
	諸事お知らせ	司会 加納 裕 佐野 瑛厘

記念講演

演題

「世界の諸情勢と日本の進む道」

時間・場所／15：20～17：00 2階 天守の間



講 師

た も がみ とし お
田母神 俊雄 氏
第29代 航空幕僚長

[プロフィール]

1948年7月生まれ。福島県郡山市出身。
防衛大卒業後、航空自衛隊に入隊。若い時分は地対空ミサイルの運用幹部として約10年の部隊勤務を経験。その後、統合幕僚学校長、航空総隊司令官などを歴任。2007年航空幕僚長に就任。2008年民間の懸賞論文への応募作品が政府見解と対立するものであるとして問題視され幕僚長を更迭、同年11月3日付をもって定年退職。同年11月11日参議院防衛委員会に参考人招致されたが、論文内容を否定するつもりはないことを改めて強調した。2009年2月以降、渡米講演の他、全国各地での講演と執筆活動に従事。

著書

2008年
「自らの身は頼みす」(ワック)
2009年
「田母神塾 これが誇りある日本の教科書だ」(双葉社)
「真・国防論」(宝島社)
「自衛隊風雲録」(飛鳥新社)
「田母神流 ブレない生き方」(主婦と生活社)
「田母神式戦力になる人材づくり」(日本文芸社)
2010年
「田母神大学校」(徳間書店)
「田母神俊雄の人生論」(高木書房)
「田母神国軍」(産経新聞出版)
「新たなる日中戦争」(徳間書店) 他

その他情報

「田母神塾」(日本文化チャンネル) 隔週金曜日 21:00～21:30 放送中

アトラクション

コール・ロータリー名古屋

出演者／ロータリー合唱団 45名 指揮：加藤典子
ピアノ伴奏：中村容子



[プロフィール]

コール・ロータリー名古屋は、『自然の叡智』(自然の仕組みに学ぶ)をテーマに開催された愛・地球博のロータリー館建設協賛チャリティーコンサートの為に、名古屋RCの呼びかけに応じた20数クラブのロータリアンとその家族が参加し結成されたコール・ロータリーEXPOが前身です。その後再結成し、地区の多くの皆様の友情に支えられ、活動を続けております。男性部員が少ないのが悩みでありますが、男女を問わざご参加をお待ちしております。

アトラクション (RI会長代理ご夫妻歓迎晩餐会)



ソプラノ歌手
しも がき ま き
下垣 真希 氏

[プロフィール]

- ◇愛知県芸術文化選奨文化賞受賞
- ◇アジア代表としてドイツ・ハノーバー万博の閉幕式で独唱
- ◇ドイツ国際ラジオ局で DJ として活躍
- ◇FM愛知で「下垣真希のSKOアワー」を担当

主な活動

- 愛知県立芸術大学卒業後、国際ロータリー財団奨学生としてケルン国立音楽大学に入学。ドイツ国家声楽教授資格を取得し、同大学卒業。コンサート活動のかたわら5年半にわたり、ドイツ国際ラジオ局でDJとして活躍し、帰国。
- 国内や海外のオーケストラと共に演。一人オペラ「女はすてき」を全国で20回以上にわたり再演するほか、「モーツアルト物語」といった音楽劇などを自ら書き下ろし、クラシック音楽の普及に努める。
- 2000年ドイツ・ハノーバー万博閉幕式でアジア代表として独唱。同年の「ドイツにおける日本年」、2004年の「ドイツの日本年」で独唱し「カリスマ的」「非凡な声の芸術」と絶賛される。2005年の愛・地球博でもソロコンサートを開催。
- 近年は、命と平和の尊さをテーマにした「平和のリサイタル」、日本の唱歌などを中心にした「日本の歌シリーズ」や「講演会」(コンサート付き)を全国で開催し、感動の輪を広げている。中でも「長崎の鐘」の原作者、永井隆博士の平和への祈りを歌と語りでつづった「わが心の歌・長崎の鐘」は大きな反響を呼び、博士生誕100年の記念式典に長崎市平和会館で公演。
- 2008年「愛知県芸術文化選奨文化賞」、1998年「第20回都市文化奨励賞」、2001年「第16回大衆文化賞」を受賞。
- 2011年に6枚目のCD「平和を」をリリース。CDジャーナル誌で「深い感動を覚える至誠の歌唱」と絶賛される。その他、代表作「わが心の歌・長崎の鐘」を収録したCD「命の賛歌」や、日本の唱歌を中心としたCD「じゃぱねすく」、世界の名曲を集めたCD「メモリアル・ソング」などがある。
- 文化庁や愛知県、認定NPO法人「きらめき未来塾」などが派遣する講師として、若い世代に、平和と命の尊さ、音楽のすばらしさを伝える授業を継続。医学部や多くの大学で特別講義も行うほか、企業の研修や総会、市民大学講座などで、歌を交え講演し、絶妙の語り口と温かい歌声で絶賛されている。名城大学大学院などで文化論やドイツ語の教鞭をとっている。
- FM愛知の「下垣真希のSKOアワー」は毎週土曜日18:00から30分間、好評放送中。
- コンサートのプロデュース、著名人のフォーラムや対談、新聞・雑誌への執筆など、その活動は多岐にわたる。国や行政などの委員を多数歴任。公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団評議員、認定NPO法人「きらめき未来塾」理事、島根県 遺島使、下呂温泉ふるさと観光大使、ふるさとテレビ顧問、CBCクラブ会員。

大会第2日目 プログラム

11/20 sun

会場：ウェスティンナゴヤキャッスル

9:30	ファミリープログラム出発	
10:30	本会議受付開始（ロビー）	
11:00	RI会長代理主催顕彰昼食会 [於：11階クラウン]	
11:30	開場 [於：2階天守の間]	
12:00	本会議第2日目開会 司会者 加納 裕、佐野瑛厘 RI会長代理ご夫妻入場 RI会長代理ご夫妻 今井鎮雄・幸子夫人	
	東日本大震災犠牲者への黙祷 司会 加納 裕	
	オープニングアトラクション	
	聖霊中学校・高等学校聖歌隊	
12:30	点鐘 ガバナー 松前 憲典 国歌・ロータリーソングの斉唱	
	国歌『君が代』 指揮 近藤 直樹 (コール・ロータリー名古屋)	
	ロータリーソング『奉仕の理想』 伴奏 山田 愛子	
	物故会員紹介	
	物故会員へ向けて黙祷 司会 加納 裕	
	ホストクラブ紹介 DVD上映	
12:50	開会のことば 大会実行委員長 高村 博三 RI会長代理ご夫妻紹介 ガバナー 松前 憲典	
	特別出席者紹介 地区幹事 長谷川正己	
	出席クラブ紹介 地区幹事 長谷川正己 (各分区、VTT、ロータリー財団学友会、	
	米山奨学生、米山学友会、インタークト、 ロータークト、青少年交換学生、RCC)	
13:15	主催者挨拶ならびに現況報告 ガバナー 松前 憲典	
13:30	RI会長メッセージならびに現況報告 RI会長代理 今井 鎮雄	
13:50	記念事業発表・目録贈呈 ガバナー 松前 憲典	
14:00	来賓祝辞 愛知県知事 大村 秀章 名古屋市長 河村たかし	
14:10	感謝状・記念品贈呈 今井鎮雄 RI会長代理 田嶋好博 2010-2011年度ガバナー 前年度地区大会ホスト あまRC ガバナー 松前 憲典	

2010-2011年度に関する表彰

- ◆ RI 表彰関連 RI会長代理 今井 鎇雄
RI意義ある業績賞、RI職業奉仕モデルプロジェクト賞、
RI会員増強推進計画の表彰、RI特別会長賞、
RI会長賞、RI会員増強・拡大賞
- ◆財団・米山寄付表彰関連 ガバナー 松前 憲典
ロータリー財団大口寄付者
ロータリー財団年次寄付優秀クラブ
米山寄付優秀クラブ、米山寄付達成クラブ
- ◆ガバナー賞

2011-2012年度に関する表彰

- ◆ロータリークラブ創立50周年表彰
- ◆ロータリー50年在籍表彰
- 14:35 大会決議報告 委員長 野村 重彦
地区委員会活動報告（ロビー展示の案内）
司会 加納 裕
ガバナーエレクト紹介 ガバナー 松前 憲典
千田エレクトによる挨拶
ガバナーエレクト 千田 毅
- 15:00 次年度地区大会ホストクラブ紹介 ガバナー 松前 憲典
次年度地区大会ホストクラブ挨拶
安城RC 普名 俊裕
記念講演
- 16:00 講師紹介 ガバナー 松前 憲典
16:10 記念講演『観光とリニア中央新幹線』
講師 東海旅客鉄道㈱相談役 須田 寛氏
謝辞 ガバナー 松前 憲典
講評 RI会長代理 今井 鎇雄
閉会・点鐘 ガバナー 松前 憲典

記念講演

演題

「観光とリニア中央新幹線」

時間・場所／15:00～16:00 2階 天守の間



講師

須田 寛氏
ひろし
東海旅客鉄道株式会社
相談役

[プロフィール]

1931年1月28日生まれ

京都府出身

名古屋ロータリークラブ所属

[学歴]

1954年3月 京都大学法学部卒業

[職歴]

1954年4月	日本国有鉄道 入社
1979年5月	日本国有鉄道 名古屋鉄道管理局長
1981年7月	日本国有鉄道 旅客局長
1984年1月	日本国有鉄道 理事(常務理事)
1987年4月	東海旅客鉄道株式会社 代表取締役社長
1995年6月	東海旅客鉄道株式会社 代表取締役会長
2004年6月	東海旅客鉄道株式会社 相談役

[公職]

(社)日本観光協会 中部支部長	
同 全国産業観光推進協議会 副会長	
名古屋商工会議所 文化・観光委員長	他

著書

産業観光読本(交通新聞社)
新・観光資源論(交通新聞社)
観光の新分野 産業観光(交通新聞社)
新しい観光(交通新聞社)
新産業観光(交通新聞社)
東海道新幹線II 改定新版(JTBパブリッシング)
観光—新しい地域づくり(学芸出版社)

アトラクション

聖霊中学校・高等学校聖歌隊



[プロフィール]

聖霊中学校・高等学校聖歌隊には現在約80名の部員がいます。学校内の式典や宗教行事での奉仕、病院慰問、刑務所慰問、卒業コンサート、チャリティ・コンサートなどの活動を行っています。過去に3回、春休みに10日間の日程でヨーロッパ演奏旅行を行い、現地のコーラスグループの家庭にホームステイをしながら合同演奏会を開催しました。そして、オーストリアの世界遺産シュテファン寺院、ザルツブルク大聖堂で歌い、ザンクトフローリアン聖歌隊と合同演奏を行いました。また、学校全体をあげてのイベントとして、毎年12月24日に栄のセントラルパークもちのき広場にて総勢600名によるクリスマス・コンサート「イヴマイ青春」を行っています。

主な活動

- アフリカの飢餓の子供たちの支援コンサート(南山小学校聖歌隊と共に)
- 名古屋刑務所慰問コンサート(20回)
- 高齢者施設、病院訪問コンサート
- イヴマイ青春(30回目)
- ヨーロッパ演奏旅行(3回)

ファミリープログラム

リニア・鉄道館 見学

時間・場所／9:15～14:00

リニア・鉄道館 蓬莱軒 神宮店



決算書 [2010～2011年度]

大會議事

● 総合会計・一般会計 [単位:円]

科 目		予 算	決 算
収入	前 年 度 繰 越 金	0	16,390,264
	一般 資 金	地区資金 前期	24,650,000 24,205,000
		地区資金 後期	19,720,000 9,830,000
	雜 収 入	20,000	13,684
	地 区 大 会 協 力 金	24,650,000	24,205,000
	特 別 資 金	地区事業費	25,882,500 25,603,950
		ガバナー月信等協力金	9,860,000 9,756,000
支出	継 戻 金 (特別会計・地区大会より)	0	9,388,661
		継 戻 金 (特別会計・事業行事より)	0 2,181,000
	合 計	104,782,500	121,573,559
	国際ロータリー行事費	1,300,000	1,300,000
	地区事業・行事費	56,432,500	53,508,950
	地区運営費	37,875,000	40,139,540
	地区委員会費	7,375,000	6,030,870
支出	特別活動事業・行事費	1,700,000	900,000
	雜 費	100,000	10,157,136
	予 備 費	0	0
	次 年 度 繰 越 金	0	9,537,063
	合 計	104,782,500	121,573,559

● 特別会計 [単位:円]

地区大会協力金

科 目		予 算	決 算
収入	地 区 大 会 協 力 金	24,650,000	24,205,000
	地区大会費(一般会計より)	2,000,000	0
	合 計	26,650,000	24,205,000
支出	補 助 金	26,650,000	14,816,339
	継 戻 金(一般会計へ)	0	9,388,661
	合 計	26,650,000	24,205,000

事業・行事費

科 目		予 算	決 算
収入	継 越 金	0	0
	地 区 事 業 費	25,882,500	25,603,950
	ガバナー月信等協力金	9,860,000	9,756,000
	継入金(一般会計より)	1,700,000	900,000
	合 計	37,442,500	36,259,950
	青少年交換事業資金	10,353,000	10,243,800
	青少年活動事業資金	12,325,000	9,910,000
支出	ボリオプラス活動支援金	1,479,000	1,463,400
	職業研修チーム(VTT)協力金	986,000	975,600
	RIJYEC協力金(保険料)	493,000	484,100
	世界社会奉仕事業資金	246,500	242,050
	RYLA国際大会補助金	800,000	0
	ボリオプラス追加(億ドル)地区負担金	900,000	900,000
	ガバナー月信等協力金	9,860,000	9,860,000
積立金	継 戻 金	0	2,181,000
	合 計	37,442,500	36,259,950

積立金・基金

科 目		予 算	決 算
1. RI規定審議会補助金積立金			
支 出	次 年 度 積 立 金	300,000	300,000
	合 計	300,000	300,000
2. 特別事業基金			
支 出	次 年 度 基 金	10,000,000	10,000,000
	合 計	10,000,000	10,000,000

■議長／松前憲典ガバナー

報告事項

[第1号]

地区指名委員会報告

地区指名委員会 委員長 片山 主水

[第2号]

大会関連委員会報告

①大会登録委員会報告

大会登録委員会

委員長 高村 博三

②大会信任状委員会報告

大会信任状委員会

委員 斎藤 直美

審議事項

[第1号] 議案

議案 2010-2011年度地区決算の承認に関する件

決算報告 前年度地区会計長 上田 圭祐

監査報告 前年度地区監事 中川 正美

[第2号] 議案

議案 ガバナーノミニー選任方法採択の件

2014-2015年度ガバナーノミニー選任については、指名委員会手続き方法を採択する。

2014-2015年度ガバナーノミニー指名委員会委員に、片山主水君、大澤輝秀君、斎藤直美君、江崎柳節君、田嶋好博君を選任する。

2015-2016年度ガバナーノミニー選任については、指名委員会手続き方法を採択する。

2015-2016年度ガバナーノミニー指名委員会委員に、江崎柳節君、片山主水君、大澤輝秀君、田嶋好博君、松前憲典君を選任する。

[第3号] 議案

議案 地区大会決議に関する件

大会決議委員会報告 委員長 野村 重彦

地区大会決議

[第1号] 決議案

カルヤン・バネルジーRI会長テーマ推進の件

カルヤン・バネルジーRI会長は、本年度のロータリーのテーマとして、“Reach Within to Embrace Humanity (ここの中を見つめよう 博愛を広げるために)” を掲げられ、全世界のロータリアンに対する行動指針を示されました。当地区のロータリアンは、奉仕に一層力をいれ、情熱を持ってこのテーマを推進することを決議します。

[第2号] 決議案

ロータリー・リーダーシップ研究会 (RLI) を国際ロータリーの正規プログラムとする決議案の提案に参加する件

RLIをRIの正規プログラムにするための決議案を規定審議会に速やかに提出することを決議します。

[第3号] 決議案

RI会長代理 今井鎮雄氏に対する感謝の件

カルヤン・バネルジーRI会長は、本年度の当地区大会に際し、会長代理として今井鎮雄氏を派遣されました。同氏は、本年度RI会長計画及び現況につき、会長メッセージと共に報告され、参加者一同に深い感銘を与えられました。
本大会は、カルヤン・バネルジーRI会長のご高配と、会長代理今井鎮雄氏のご苦労に対し、深い感謝の意を表することを決議します。

[第4号] 決議案

2010年度国際ロータリー第2760地区ガバナー田嶋好博君に対する感謝の件

地区ガバナー在任中の田嶋好博君は、豊かな経験と卓越した見識を持って、地区発展に多大な貢献をされました。
よって、ここにその功績を称え、深い感謝の意を表することを決議します。

[第5号] 決議案

会員増強推進の件

地区内各クラブは、会員増強のためクラブ奉仕に徹し、クラブ主体の増強目標設定及びその達成に努力し、地区はそれらの推進を支援することを決議します。

[第6号] 決議案

ロータリー財団並びに米山奨学事業に対する理解と寄付協力並びに各プログラム推進の件

ロータリー財団活動及び米山奨学事業活動の意義を考え、それに誇りを持って寄付協力すると共にそれらのプログラム推進を決議します。

[第7号] 決議案

地区大会記念行事の採択の件

本大会と名古屋瑞穂ロータリークラブは、本大会を記念して愛知県に金100万円、名古屋市に金100万円を寄贈することを決議します。

[第8号] 決議案

地区大会ホストクラブに対する感謝の件

本大会の成功は、ホストクラブである名古屋瑞穂ロータリークラブの会員とそのご家族の一方ならぬご尽力の賜物であります。ここに心から感謝の意を表することを決議します。

[第9号] 決議案

国際ロータリー2011年度国際大会への参加の件

「ここの中を見つめよう 博愛を広げるために」のテーマのもと、本年度国際ロータリ一年次大会は、2012年5月6日から9日までの4日間、タイ・バンコクで、カルヤン・バネルジーRI会長主催のもと開催されます。本年度のテーマを具現化するものとして、当地区ロータリアンは、こぞって協力することを決議します。

[第10号] 決議案

次年度地区大会開催の件

2012~2013年度地区大会は、安城ロータリークラブをホストとして、2012年10月に開催することを決議します。

感謝状・表彰 [順不同]

感謝状

RI会長代理

・今井 鎮雄 RI会長代理

前年度ガバナー

・田嶋 好博 10-11年度ガバナー

前年度地区大会ホストクラブ

・あまRC

2010~2011年度に関する表彰

〈RI表彰関連〉

RI意義ある業績賞

・犬山RC

RI職業奉仕モデルプロジェクト賞

・犬山RC ・瀬戸北RC ・豊川宝飯RC

RI会員増強推進計画の表彰

【会員の維持】

・名古屋名駅RC

【資格ある新会員の勧誘】

・名古屋名東RC

RI特別会長賞

・名古屋名駅RC

RI会長賞

・一宮RC ・一宮北RC ・尾張中央RC ・瀬戸北RC
 ・名古屋RC ・名古屋みなどRC ・名古屋瑞穂RC
 ・名古屋大須RC ・名古屋栄RC ・名古屋北RC
 ・名古屋和合RC ・豊橋ゴールデンRC ・西尾KIRARARC

RI会員増強・拡大賞

【全般的な増加】(純増加率)

・名古屋名東RC

【勧誘】(最多入会者数)

・名古屋名東RC

【維持】(退会者ゼロ)

・知多RC ・津島RC ・尾張中央RC ・犬山RC ・江南RC
 ・名古屋城北RC ・愛知長久手RC ・名古屋瑞穂RC
 ・名古屋名南RC ・中部名古屋みらいRC ・名古屋錦RC
 ・蒲郡RC ・奥三河RC ・豊橋ゴールデンRC ・一色RC
 ・三河安城RC

〈財団・米山寄付表彰関連〉

ロータリー財団大口寄付者

・松前 憲典 (一宮中央RC) ・斎藤 直美 (豊田RC)
 ・佐藤 明 (あまRC) ・堀田 徹 (名古屋城北RC)
 ・岡本伊三雄 (名古屋守山RC)
 ・三浦 英二 (名古屋守山RC)

ロータリー財団年次寄付優秀クラブ (総額 上位5RC)

・あまRC ・名古屋RC ・一宮中央RC ・名古屋南RC
 ・刈谷RC

ロータリー財団年次寄付優秀クラブ (会員一人当たり 上位5RC)

・あまRC ・一宮中央RC ・尾張旭RC
 ・中部名古屋みらいRC ・名古屋みなどRC

米山寄付優秀クラブ (米山普通+特別寄付、総額 上位5RC)

・あまRC ・名古屋名駅RC ・名古屋中RC ・半田RC
 ・岡崎RC

米山寄付優秀クラブ (米山普通+特別寄付、会員一人当たり 上位5RC)

・あまRC ・名古屋名駅RC ・半田RC ・一宮中央RC
 ・岡崎RC

米山寄付達成クラブ (米山普通+特別寄付、合計累計額)

・一宮RC 4千万 ・豊川IRC 4千万 ・刈谷RC 4千万

〈ガバナー賞〉

・一宮北RC ・江南RC ・瀬戸北RC ・名古屋南RC
 ・名古屋みなどRC ・名古屋大須RC ・名古屋栄RC
 ・名古屋北RC ・名古屋守山RC ・名古屋昭和RC
 ・豊橋RC ・豊川宝飯RC ・岡崎南RC ・豊田東RC
 ・岡崎城南RC ・刈谷RC ・一色RC ・知立RC
 ・西尾KIRARARC

2011~2012年度に関する表彰

ロータリークラブ創立50周年表彰

・犬山RC(1961年11月6日…RI加盟承認日)

ロータリー50年在籍表彰

・松山 邦夫(犬山RC・1961年8月8日入会)
 ・神野 三男(名古屋西RC・1962年1月4日入会)

新ポール・ハリス・フェロー

●南尾張分区 [11名]

半田RC 石川 正彦、稻葉 民安
常滑RC 森下 豊、竹内 敬二
堀田 和男
東海RC 河合 孝治、北川 修一
坂野 公俊
半田南RC 山本 慎治、岩部 雅人
榎原 英

●西尾張分区 [11名]

一宮RC 林 隆春
津島RC 堀田 力男、伊藤 基
尾西RC 坂口 光雄、清水 稔彥
武田 守正、犬飼万壽男
水谷 豊
あまRC 水谷 安紀、立松 絹久
栗本 裕子

●東尾張分区 [18名]

瀬戸RC 加藤 恵子、松村 晋也
犬山RC 曽比野万喜男、紀藤 政司
河野 周二、宮岡 克年
祖父江寿男、高橋 秀治
吉野 育志
江南RC 澤田 昌久
春日井RC 加藤久仁明、和田 了司
峠 テル子
尾張旭RC 大野 良之、西尾 輝久
桜井 雅博
愛知長久手RC 佐藤 文昭、大島 昭夫

●西名古屋分区 [38名]

名古屋RC 天谷 昭裕、土井 寛己
木下栄一郎、松本 正之
山口 茂樹
名古屋西RC 加藤 渉、寺島 優
水野 嘉子
名古屋南RC 青山 登、平野 京司
加納 昭巨、水野耕太郎
筒井 信之、宮田 理博
名古屋みなとRC 遠藤 武夫、平松 勝
箕浦 靖夫、村田 誠一
岡田 雅、柳澤 講次
名古屋東南RC 堀田 努、岩崎 誠二
名古屋中RC 松原 秀樹、小笠原 晃
小栗 成男、吉田 敬岳
名古屋瑞穂RC 入山 治樹、鈴木 健司
鶴田 浩、梅村 昌孝
高木 元明、西沢 功晋
市岡 正蔵
名古屋栄RC 牧野 博和
名古屋名駅RC 菅垣 建、小酒井比呂志
友田 喜夫
名古屋丸の内RC 石井里恵子

●東名古屋分区 [5名]

名古屋名東RC 藤野 直子
名古屋名北RC 加藤 敦子
名古屋千種RC 伊藤 健文
名古屋東山RC 近藤兼治郎、戸田 勝儀

●東三河分区 [22名]

豊橋RC 青木 良浩、松岡真由美
水野 忠之、中村 捷一
蒲郡RC 仲田 康宏、酒井 勇治
鈴木 岳嗣
豊橋北RC 稲積 秀一、夏目 國弘
豊川IRC 伊藤 文則
豊橋南RC 原 正美、内山 昌久
新城RC 夏目 文男
渥美RC 荒木 茂
豊川宝飯RC 林 博宣、岩瀬 靖宏
豊橋ゴールデンRC 伊藤隆一郎、村田 悟
田原パシフィックRC 小川 高成、河合 成幸
彦坂 敏行
豊橋東RC 松下 泰三

●西三河中分区 [19名]

岡崎RC 有賀 健、加藤 博巳
深津 浩
岡崎南RC 神谷 卓弌、小野 正富
豊田西RC 谷澤 茂樹
豊田東RC 今井 啓介、永野 卓司
大澤 六也、矢頭 功生
岡崎城南RC 蜂須賀喜久好、松永 茂夫
山本 信一、市橋 伸夫
豊田中RC 鈴木 雅量、羽根田邦彦
宇野 修市、本多 幹
横地 朗

●西三河分区 [21名]

刈谷RC 天野 櫻子、伊藤 節夫
久米 博明、南 健
杉浦 文雄
安城RC 神谷 明文
西尾RC 岡田 文雄、杉浦 義浩
犬塚 宣明
碧南RC 杉浦 栄次、永坂 誠司
高浜RC 野々山 光秋
知立RC 早川 高師、野々山和彦
鈴木 民也
三河安城RC 川浦喜久雄、杉山 敏幸
竹内 泰夫、山崎加央里
成田 徹、田村 健

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

●南尾張分区 [10名]

半田RC 小栗 利朗
 東知多RC 山本さゆり、藤澤 健夫
 村瀬 竜雄、加藤 知成
 半田南RC 加藤 裕安、新美 建司
 榎原 邦彦、沢田 信
 都築 利全

●西尾張分区 [28名]

尾西RC 大島 晋作、都倉 吾一
 山内 登、山内 幸夫
 横山 弘、吉田 弘
 吉田 民雄、安藤 巍
 不破惠一郎、岩田 勝義
 金森 安石、加藤 千博
 前田 正和、森 新
 森 信一朗
 あまRC 堀江 承元、田中 正博
 岩島 裕芳、前田 重廣
 後藤 雅光、西川 広樹
 鈴木 正徳、栗木 和夫
 北野 康夫、古川 宏
 西川 広樹
 名古屋清須RC 守野 暢洋、森田 堅一

●東尾張分区 [21名]

犬山RC 青山 佳高、有馬 彰顯
 井川 光雄、野倉 達雄
 小川 宏嗣、小川 逸朗
 小川 征一、武山 勇夫
 山根 雄司、安田 新平
 朱宮 新治
 江南RC 山田 猛
 小牧RC 河村 嘉男
 春日井RC 社本 太郎、小島 啓治
 林 憲正
 尾張旭RC 大嶋一二三
 濑戸北RC 青山 雅彦、中島 英海
 岩倉RC 井上 隆義
 名古屋城北RC 服部 智謙

●西名古屋分区 [18名]

名古屋南RC 渡邊 浩、山路 兼生
 岩田 崇祺、中村 哲郎
 名古屋東南RC 尾本 和弘、久野 博淳
 伊東與有三
 名古屋瑞穂RC 高村 博三
 名古屋名南RC 朝比美和子、三浦 隆
 三浦 和人、佐々木 真
 名古屋名駅RC 青島 邦夫、藤井 圓隆
 日比野三吉彦、池永 秀夫
 隅田 耕市
 中部名古屋みらいRC 川口 豊

●東名古屋分区 [24名]

名古屋北RC	船橋 横光、中川 正美
	小栗 七生、水野 国紹
	堀田 正夫、近藤 和利
名古屋東RC	澤村 広、高橋 巍
	安藤 茂
名古屋守山RC	重富 亮、森藤左工門
	佐藤 良一
名古屋名東RC	奥 佳澄
名古屋名北RC	遠藤 友彦
名古屋千種RC	小林 明、大口 弘和
	小山 雅弘
名古屋昭和RC	河合 勇夫、鈴木 重幸
	上野 広
名古屋錦RC	武田 正典
名古屋東山RC	武儀山勝彦、中島 讓治
	谷村 茂

●東三河分区 [21名]

豊橋北RC	竹内 稔弘、川口 雄三
	匹田 雅久、西村 良彦
	山本 光人
豊川IRC	木下 良夫、竹本 尚美
田原RC	森下 昭造、安田 幸雄
豊橋南RC	関口三千彦、榎原 周造
	神戸 邦夫
豊橋ゴールデンRC	井上 穂、牧野 政雄
	松崎 進、高畠 皓一
	宇藤 信
田原パシフィックRC	磯田 国男、小川 喜一
豊橋東RC	鈴木 薫、杉原 好洋

●西三河中分区 [26名]

岡崎RC	加藤 信吾、小原 瞳
	青木 勇作、古澤 武雄
	菅井 龍一、深田 達彦
	安藤 光淵
豊田RC	横山 真久
岡崎南RC	渡辺 要市、三浦 勝美
	中川修一郎、大久保 武
	鈴木 康之、高橋 正直
豊田西RC	加納 一弘、山形 悅男
	須藤 一郎
岡崎東RC	深田 昭彦
豊田東RC	鈴木 敬一、浦野 朗
	山田 守男
岡崎城南RC	小島 邦男、近藤 敬道
	永田 裕
豊田三好RC	岡田 佳大
豊田中RC	山下 一美

●西三河分区 [8名]

刈谷RC	野村紀代彦、嶋津 孝久
	霜出 俱弘
西尾RC	尾崎 隆爾
碧南RC	石川 春久、犬塚 敦統
知立RC	竹内 博之、近藤 一幸

ベネファクター

●南尾張分区 [2名]

常滑RC 竹内 敬二
知多RC 久野 完治

●西尾張分区 [5名]

一宮RC	日野	正美
一宮北RC	中北	武男
稻沢RC	服部	孝至、横井 定
一宮中央RC	加藤	辰己

●東尾張分区 [4名]

瀬戸RC	佐野	一二
犬山RC	大島	克己
江南RC	山田	猛
名古屋空港RC	中林	正人

●西名古屋分区 [15名]

名古屋RC	岡谷	篤一、社本 光永
名古屋南RC	近藤	禎男
名古屋みなどRC	飯田	秀雄、高田 和裕
	寺本	善雄、山田 豊
名古屋東南RC	南雲	和江
名古屋中RC	高橋公比古	
名古屋大須RC	岩崎	征一
名古屋栄RC	池山	健次
名古屋名南RC	太田	敦士、平沼 里子
名古屋名駅RC	西川	富夫
名古屋丸の内RC	安江	英雄

●東名古屋分区 [2名]

名古屋北RC	田中	正樹
名古屋昭和RC	乃一	稔

●東三河分区 [3名]

豊橋RC	大島	照夫
豊橋南RC	神谷	浩史
豊橋ゴールデンRC	杉原	敏雄

●西三河中分区 [5名]

岡崎RC	有賀	健
豊田RC	杉浦	敏夫
岡崎東RC	杉山	正章
岡崎城南RC	長野	哲也
豊田中RC	中條	善朗

●西三河分区 [5名]

刈谷RC	岡本	巧
安城RC	細井	英治
西尾RC	筒井	兼之
一色RC	山下	民義
高浜RC	野々山貴文	

新米山功労者

●南尾張分区 [2名]

半田RC	古市	晃久
常滑RC	猪飼	盛雄

●西尾張分区 [16名]

一宮RC	梯	國彦、松原 直次
	森	俊夫、関戸 徹
	滝	善蔵
津島RC	加藤	隆朗、佐藤 敬治
	篠田	知生、住田 正幸
	山田	勝弘
一宮北RC	水野	憲司
稻沢RC	成田	幸太郎
あまRC	古川	宏、水谷 安紀
一宮中央RC	永田	正、大森 進

●東尾張分区 [10名]

瀬戸RC	森脇	文直、野田 正治
	山口	育男
江南RC	清野	允中
尾張旭RC	大野	良之
瀬戸北RC	柏本	光之、小澤 修
	梅村	邦雄、山田 隆雄
名古屋城北RC	豊島	将克

●西名古屋分区 [21名]

名古屋西RC	青島	邦人、神野 富三
名古屋南RC	宮田	理博
名古屋東南RC	南雲	和江
名古屋中RC	松原	秀樹、小栗 成男
	榎原	克典、渡邊 樹志
名古屋瑞穂RC	入山	治樹、市岡 正蔵
	西沢	功晋、鈴木 健司
	高木	元明、鶴田 浩
	梅村	昌孝
名古屋名南RC	犬飼	りさ枝、山崎 淳
名古屋名駅RC	遠藤	泰昭、岩崎 光記
	友田	喜夫
名古屋丸の内RC	堀江	俊通

●東名古屋分区 [4名]

名古屋北RC	内藤	秀樹
名古屋守山RC	伊藤	陽介
名古屋昭和RC	鈴木	真司
名古屋錦RC	斎田	康徳

●東三河分区 [24名]

豊橋RC	川村 荒治、松井 孝悦
	高橋 豊彦
蒲郡RC	市川 錠也
豊橋北RC	河合 芳光、夏目 國弘
	佐久間武美、鈴木伊能勢
田原RC	天野英一郎、佐野 朝海
	柴田 登、八木 正光
豊橋南RC	神谷 浩史、梶村 康彦
	住野友次郎、内山 昌久
新城RC	中澤 輝昭、佐藤 泰惇
	竹内臨通夫
豊橋ゴールデンRC	伊藤隆一郎
田原パシフィックRC	彦坂 敏行、河合 喜嗣
豊橋東RC	藤井 宣行、白井 康仁

●西三河中分区 [10名]

岡崎RC	深津 浩、尾崎 篤司
	太田 成紀、同前 仁史
岡崎南RC	深津 篤、小島ミユキ
	奥村 英世、小野 正富
豊田東RC	鈴木 英治
岡崎城南RC	有馬 惟夫

●西三河分区 [20名]

安城RC	稻垣 淳、市川 譲
	加藤 正人
西尾RC	萩原 竜治、石川 哲朗
	岩瀬 正広、金原 健志
	黒田 正志、坂田 吉郎
碧南RC	粟津 康之、黒田 泰弘
	森田 雅也、長田 和徳
	榎原 健、角谷 修
	鈴木 健三
一色RC	小出 道治
知立RC	水野 泰昌
三河安城RC	堀本 保美、犬東 信一

来賓・特別出席者

来賓

愛知県知事 大村 秀章
名古屋市長 河村 たかし

特別出席者

RI会長代理ご夫妻 今井 鎮雄・幸子 [神戸西RC]

地区外

第2770地区RI研修リーダー	中村 靖治・紀子	[吉川RC]
第2530地区パストガバナー	大橋 廣治	[福島南RC]
第2560地区ガバナーエレクト	鈴木 重壱	[長岡RC]
第2630地区ガバナー	石井 憲司・弘子	[四日市RC]
第2660地区ガバナー	岡部 泰鑑	[大阪城南RC]
第2670地区ガバナー	美馬 精一	[鶴島RC]
第2730地区ガバナー	長峯 基	[都城RC]
第2740地区ガバナー	岩永 信昭	[長崎北東RC]
第2770地区ガバナー夫人	三國 栄子	[春日部西RC]
第2800地区ガバナー	細谷 伸夫・政子	[山形西RC]
第2830地区パストガバナー	村井 達	[八戸RC]

地区内

第2760地区ガバナー	松前 憲典・久子	[一宮中央RC]
パストガバナー	松前 裕己・和子	
	福田 浩三	[名古屋空港RC]
	盛田 和昭・純子	[名古屋RC]
	加納 泉・三代子	[名古屋中RC]
	神戸 政治・一子	[あまRC]
	石川 和昌・千恵子	[豊橋RC]
	松本 宏・萬里子	[半田RC]
	内藤 明人	[名古屋西RC]
	野村 重彦・弘子	[刈谷RC]
	福田 清成	[江南RC]
	豊島 徳三・喜世子	[一宮北RC]
	大島 宏彦・貴美代	[名古屋RC]
	斎藤 直美・雅子	[豊田RC]
	江崎 柳節・多喜子	[小牧RC]
	片山 主水・か乃恵	[名古屋東南RC]
	田嶋 好博・邦子	[名古屋北RC]
	千田 穂・弘子	[名古屋東RC]
	田中 正規・靖子	[西尾RC]
ガバナーエレクト		
ガバナーノミニー		

ガバナー補佐 (南尾張分区担当)	山口 誠一	[東知多RC]
ガバナー補佐 (西尾張分区担当)	加藤 勉	[一宮北RC]
ガバナー補佐 (東尾張分区担当)	河村 金明	[岩倉RC]
ガバナー補佐 (西名古屋分区担当)	三浦 和人	[名古屋名南RC]
ガバナー補佐 (東名古屋分区担当)	大口 博和・礼子	[名古屋千種RC]
ガバナー補佐 (東三河分区担当)	岩瀬 淳一郎	[豊川RC]
ガバナー補佐 (西三河分区担当)	横山 真久	[豊田RC]
ガバナー補佐 (西三河分区担当)	細井 英治	[安城RC]

地 区 幹 事	長谷川 正己	[一宮中央RC]
地 区 副 幹 事	松岡 正浩	[一宮中央RC]
	小島 三男	[一宮中央RC]
地 区 副 幹 事	森 俊一郎	[一宮中央RC]
	倉地 伸幸	[一宮中央RC]
	石原 稔久	[一宮中央RC]
	白木 公明	[一宮中央RC]
	鹿島 兼一	[一宮中央RC]
	西岡 則男	[一宮中央RC]
地 区 会 計 長	大森 進	[一宮中央RC]
地 区 監 事	小野木 宏	[一宮中央RC]
ガバナー事務所事務局長	加藤 辰己	[一宮中央RC]
地 区 ス タ ッ フ	高井 光信	[一宮中央RC]
	猪子 裕史	[一宮中央RC]
	長橋 國和	[一宮中央RC]
	森 真	[一宮中央RC]
	谷 進	[一宮中央RC]
	永田 正	[一宮中央RC]

次期地区幹事 柳澤 幸輝 [名古屋東RC]

出席クラブ

恒久基金日本委員会委員	野村 重彦	[刈谷RC]
ロータリー財団地域コーディネーター ragazzi (ARRFC)	田嶋 好博	[名古屋北RC]
R I 日本青少年交換委員会理事長	斎藤 直美	[豊田RC]
R I 日本青少年交換委員会理事	神田 憲	[名古屋大須RC]
R I 日本青少年交換委員会委員	黒田 勝基	[高浜RC]
R I ゾーンチャレンジコーディネーター (ZCC)	江崎 柳節	[小牧RC]
公益財団法人ロータリー日本財団監事	片山 主水	[名古屋東南RC]
地区研修リーダー	片山 主水	[名古屋東南RC]
研修委員会委員長	関口 宗男	[名古屋みなとRC]
地区財務委員会委員長	宮崎 薫	[名古屋東南RC]
ロータリー未来委員会委員長	宮崎 薫	[名古屋東南RC]
拡大委員会委員長	豊島 徳三	[一宮北RC]
I T 委員会委員長	杉浦 令淑	[名古屋大須RC]
会員増強リーダー	伊藤 秀雄	[名古屋東南RC]
会員増強委員会委員長	小山 優介	[名古屋名南RC]
広報委員会委員長	裕 伸夫	[豊田西RC]
クラブ奉仕委員会委員長	重富 亮	[名古屋守山RC]
職業奉仕委員会委員長	國友 昌大	[名古屋中RC]
社会奉仕委員会委員長	長瀬 輝代之	[名古屋守山RC]
R C C 委員会委員長	松崎 美都子	[名古屋守山RC]
環境保全委員会委員長	鈴木 元弘	[豊田RC]
国際奉仕委員会委員長	佐藤 文昭	[愛知長久手RC]
世界社会奉仕委員会委員長	佐藤 文昭	[愛知長久手RC]
識字率向上委員会委員長	鈴木 吉男	[津島RC]
新世代奉仕委員会委員長	秋田 敬治	[豊田RC]
インターネット委員会委員長	大河内 圭一	[一宮北RC]
ローターアクト委員会委員長	秋田 敬治	[豊田RC]
R Y L A 委員会委員長	谷山 芳和	[豊田西RC]
青少年交換委員会委員長	岡田 雅隆	[犬山RC]
ロータリー財団監査委員会委員長	川島 誠	[名古屋西RC]
ロータリー財団委員会委員長	深谷 友尋	[名古屋みなとRC]
資金推進委員会委員長	朱宮 新治	[犬山RC]
年次寄付委員会委員長	中林 正人	[名古屋空港RC]
恒久基金・大口寄付委員会委員長	伊奈 一郎	[常滑RC]
補助金委員会委員長	松尾憲二郎	[小牧RC]
新地区補助金委員会委員長	石田 正城	[名古屋北RC]
グローバル補助金委員会委員長	篠橋 美久	[名古屋中RC]
職業研修チーム委員会委員長	鈴木 文勝	[小牧RC]
奨学基金・学友委員会委員長	満田 稔	[豊橋東RC]
ボリオプラス委員会委員長	増田 盛英	[名古屋瑞穂RC]
ロータリー平和フェローシップ委員会委員長	石川 昌和	[豊橋南RC]
米山済学会委員会委員長	中島 実	[名古屋北RC]
危機管理委員会委員長	高山 光雄	[名古屋空港RC]
地区大会企画委員会委員長	松前 憲典	[一宮中央RC]
米山記念済学会理事	福田 清成	[江南RC]
ロータリーの友地区委員	河村 嘉男	[小牧RC]
オンツーパンコク	松前 憲典	[一宮中央RC]
地区ローターアクト代表	山下 裕	[豊田広域RAC]

地区外クラブ

神戸西ロータリークラブ	鶴島ロータリークラブ
吉川ロータリークラブ	都城ロータリークラブ
福島南ロータリークラブ	長崎北東ロータリークラブ
長岡ロータリークラブ	春日部西ロータリークラブ
四日市ロータリークラブ	山形西ロータリークラブ
大阪城南ロータリークラブ	八戸ロータリークラブ

地区内クラブ

●南尾張分区	●東名古屋分区
半田ロータリークラブ	名古屋北ロータリークラブ
常滑ロータリークラブ	名古屋東ロータリークラブ
東海ロータリークラブ	名古屋守山ロータリークラブ
東知多ロータリークラブ	名古屋和合ロータリークラブ
半田南ロータリークラブ	名古屋名東ロータリークラブ
知多ロータリークラブ	名古屋名北ロータリークラブ
大府ロータリークラブ	名古屋千種ロータリークラブ
名古屋昭和ロータリークラブ	名古屋錦ロータリークラブ
名古屋東山ロータリークラブ	名古屋葵ロータリークラブ
●西尾張分区	●東三河分区
一宮ロータリークラブ	豊橋ロータリークラブ
津島ロータリークラブ	蒲郡ロータリークラブ
尾西ロータリークラブ	豊橋北ロータリークラブ
一宮北ロータリークラブ	豊川ロータリークラブ
稻沢ロータリークラブ	田原ロータリークラブ
あまロータリークラブ	豊橋南ロータリークラブ
名古屋清須ロータリークラブ	新城ロータリークラブ
尾張中央ロータリークラブ	渥美ロータリークラブ
一宮中央ロータリークラブ	奥三河ロータリークラブ
●東尾張分区	豊川宝飯ロータリークラブ
瀬戸ロータリークラブ	豊橋ゴールデンロータリークラブ
犬山ロータリークラブ	田原パシフィックロータリークラブ
江南ロータリークラブ	豊橋東ロータリークラブ
小牧ロータリークラブ	●西三河分区
春日井ロータリークラブ	岡崎ロータリークラブ
尾張旭ロータリークラブ	豊田ロータリークラブ
名古屋空港ロータリークラブ	岡崎南ロータリークラブ
瀬戸北ロータリークラブ	豊田西ロータリークラブ
岩倉ロータリークラブ	岡崎東ロータリークラブ
名古屋城北ロータリークラブ	豊田三好ロータリークラブ
愛知長久手ロータリークラブ	豊田中ロータリークラブ
●西名古屋分区	●西三河分区
名古屋ロータリークラブ	刈谷ロータリークラブ
名古屋西ロータリークラブ	安城ロータリークラブ
名古屋南ロータリークラブ	西尾ロータリークラブ
名古屋みなとロータリークラブ	碧南ロータリークラブ
名古屋東南ロータリークラブ	一色ロータリークラブ
名古屋中ロータリークラブ	高浜ロータリークラブ
名古屋瑞穂ロータリークラブ	知立ロータリークラブ
名古屋大須ロータリークラブ	西尾KIRARAロータリークラブ
名古屋栄ロータリークラブ	三河安城ロータリークラブ
名古屋名南ロータリークラブ	
名古屋名駅ロータリークラブ	
名古屋丸の内ロータリークラブ	
中部名古屋みらいロータリークラブ	

地区登録者

半田RC

会員21名

内田 荣一	杉浦 三郎	山内 和之
榎原 正治	竹内 俊介	川口 新平
伊東 良夫	畠中 雅之	榎原 秀光
松本 順子	鈴村せつ子	手島 寿宏
酒井 良輔	稻葉 民安	鈴木 丈雄
澤田 好伸	山田 豪	乾 浩泰
大原 和也	杉原 修巳	鈴木 裕二

常滑RC

会員9名

伊奈 一郎	牧野 克則	磯部 栄
杉江久三郎	水野 福三	伊奈 正彦
猪飼 昭夫	渡邊 茂央	清水 昭博

東海RC

会員28名

鈴村 昌人	小島 博也	村瀬 秀和
大林香瑞人	森合 久春	中池 聰之
小出 常雄	稲坂 博	河合 孝治
間瀬 保英	久野せつお	小嶋真一郎
加古 恭之	坂野 公俊	早川 式彦
加藤 徳治	井上 正人	佐野 宏樹
織田 和之	板倉 初嗣	杉本 親保
早川 直義	河合 良泰	大久保誠人
浅野 博之	早川 康司	小出 靖晃
寺野 伸一		

東知多RC

会員18名

山口 誠一	安藤 浩詩	藤澤 健夫
高津 忠男	青山 五郎	村瀬 竜雄
加藤 知成	小笠原直樹	戸田 宏和
大橋 正紀	長坂 昭彦	山本さゆり
日高 啓治	竹内 伸哉	熊澤 岩
新美 義博	水野 浩二	前田 吉昭

半田南RC

会員23名

都築 延男	永田 明世	新美 茂
近藤 敏通	石川 信行	間瀬 正
竹内 俊郎	中井 民雄	榎原 肇
榎原 邦彦	都築 利全	新美 建司
岡戸 利直	大岩 信子	鈴木 宏司
岩部 雅人	手島 嘉宏	吉村 比富
岡井 誠	川澄 哲裕	比富 勝己
永崎 重文	杉山 知子	

知多RC

会員17名

坂本 竹敏	中村 泰忠	永井 喜義
久野 完治	村上 茂登	山口 清文
竹内 慎治	木下 勝美	竹内 義将
平松 典保	千賀 貴彦	鈴木 直幸
竹内 功成	早川 佳教	岩崎 征宣
安藤 毅之	佐藤 一志	

大府RC

会員12名

相羽 英人	加藤 正俊	門脇 武
久野 春雄	笛田 栄治	杉江香代子
寺田 諭	中本 和則	野畠 道一
外園 茂	村瀬 和男	渡辺 秀雄

一宮RC

会員89名

飯田 清春	佐々木久直	足立 誠
青木 俊憲	青山 佳裕	浅野 一
江崎 哲	藤原 基弘	船橋 正員
後藤 林一	長谷部敏克	長谷川勝久
林 隆春	日野 正美	平谷 良樹
廣瀬 雅美	星野 充	細野 登敏
猪子 誠兒	石黒 敬康	石川 幸一
石井 宏兒	磯部 茂	伊藤 芳彰
岩田 功	梯 國彥	鎌田 恭平
加藤 昭宏	加藤 数也	加藤 岩男
川松 保夫	木村 実	岸 幹人
小出 和志	光壽 賢一	小島 俊彦
近藤 文彦	近藤 和夫	近藤 晓昌
桑原 英寿	松原 直次	森 初男
松本 和徳	宮田 智司	森 俊夫
森 克彦	森 隆彦	森 力
森 保彦	森島 勝美	森田 寛一
村川 文穂	長尾大八郎	内藤 慎一
中村 巖	中島 幸介	那須 俊介
丹羽 健	野木森 栄	野村 一人
野杺 章夫	則竹 伸也	大森 酒井
大森 輝英	佐分 啓二	酒井 孝潔
坂井田敏行	神原 讓	關戸 義幸
関戸 徹	関谷 眞二	杉山 道久
墨 芳郎	鈴木 洋志	高木 保夫
滝 善藏	豊島 尚彦	土川 仁
牛田 猛	渡辺 哲司	山田 吉山佐人規
山口 元彦	山上 顯信	大藪 浩志
加藤 信貴	大西 克英	
塚原 義成	中桐	

津島RC

会員75名

寺田 晏章	寺田 徳子	鈴木 吉男
八谷 潤一	八谷知恵子	篠田 廣
前田 昭生	児玉 昭	住田 正幸
稻垣 宏高	服部 昭三	日比 一昭
横井 知代	山本 達彦	伊藤 幸蔵
加藤 隆朗	篠田 知生	伊藤 基
宇佐美三郎	宅見 康悦	堀田 力男
加藤 則之	坂井 裕	山田 清三
相羽あつ子	浅井 彦治	浅井 賢次
古川 弘一	後藤 亨	後藤 務
幅 辰雄	服部 貴	堀田 勝
生田 達一	稻川 明俊	伊藤 彰浩
伊藤 文也	伊藤 誠	伊藤 雅昭
伊藤 哲朗	伊藤 祥文	梶浦 興藏
片岡 鉄	加藤 秀人	加藤泰一郎
河西あつ子	小林 啓子	松崎 安孝
三谷 栄一	水野 憲雄	中野 義光
根崎 健一	野々山勝也	小畠 英雄
大河内勝彦	大谷与志弘	岡本 康義
佐藤 栄一	佐藤 敬治	清水 裕之
住田 由純	城 正憲	高木 輝和
滝川 林一	田中 正明	寺田 健一
寺島 淳一	遠山 孝義	鶴見 治貞
矢田 潔	八木 秀雄	山田 勝弘
山本 一之	安江 正博	余郷 利彦

尾西RC

会員22名

森 信一郎	水谷 豊	山内 登
安藤 巍	岩田 勝義	犬飼万壽男
大島 晋作	加藤 千博	金森 安石
坂口 光雄	清水 稔彦	武田 守正
都倉 吾一	不破惠一郎	平松 清美
前田 正和	水谷 紀輔	森 新
山内 幸夫	吉田 弘	横山 弘
吉田 民雄		

一宮北RC

会員37名

藤原 峯忠	福西 久敏	船越 孝
原田 敬生	早川 英司	林 眞成
日野 康司	菱川 弘樹	石黒 三雄
岩田 全功	金森 智博	片山 英孝
加藤 勉	黒木 義公	松原 幹彦
三輪 茂富	水野 憲司	森 正志
森 通保	森田 進	村瀬 圭吾
中北 武男	丹羽喜代次	則武 克彦
大河内圭一	大森 克孝	小澤 正明
佐々木顕彰	竹内 彰	瀧 義孝
角田 隆幸	渡辺 元男	矢田 政弘
山本 基	山内 國雄	矢野 尚彦
吉田 哲夫		

稻沢RC

会員53名

足立三千夫	浅井 耕治	荒尾 元博
遠藤 正昭	後藤 啓行	原 武史
橋本 嗣治	服部 孝根	服部 孝徳
服部 孝至	林 茂夫	樋田 克史
伊串 憲	池田 邦雄	今井 靖隆
伊藤 彰	伊東 功二	伊藤 強平
伊藤 正弘	金森 英夫	加藤 健司
加藤 耐	川合 正剛	児島 秀光
小島 洋一	小森 章平	栗本 貢
箕浦 弘美	三輪 卓生	森 望
永井 伸治	成田幸太郎	西村 郁夫
野島 精二	野々山昭男	大野 邦英
大野 恒夫	岡田 義夫	酒井 兼利
桜木 琢磨	新海 黙	鈴木 程久
鈴木 瞳	田口茂利平	高桑 宏幸
樋田 文裕	塚本 崑男	鵜飼 正巳
山田 信行	山田 典永	山名 敬一
矢野 慎史	横井 定	

あま RC

会員81名

鈴木 正徳	大竹 敬一	伊藤 英毅
山田 謹一	光岡 朗	黒野晃太郎
渡辺 均	鈴村與左衛門	浅野多喜男
紅谷 幸政	藤田 淳士	船原 久尚
古川 宏	後藤袈裟美	後藤 真
後藤 雅光	幅 建介	堀江 承元
家田 安啓	飯田 篤	井村 安雄
稻垣 孝憲	石田 智彦	石川 勉
伊藤 正征	岩島 裕芳	神田 康史
柏子見昌敏	加藤 春視	加藤 憲治
加藤 徹	川口 信義	河瀨 文一
木下 章吉	北林 弘道	北野 庸夫
児玉 憲之	熊沢 登	栗木 和夫
栗本 裕子	黒川 元則	黒野 友之
前田 重廣	眞木 伸一	松井 英治
宮下 忠克	水野 真	水谷 安紀
武藤 正俊	中島 英之	中村 普一
西川 広樹	生沼 克芳	大竹 和美
酒井 和雄	佐藤 明	佐藤 公昭
柴田 雄己	清水 明俊	篠田 正志
鈴木 和彦	高山 敏	田邊 正紀
田中 和之	田中 清隆	田中 正博
谷川 浩司	立松 絹久	富田 喬司
東海 広光	上田 博行	臼井 幹裕
宇津山 弘	渡辺 一弘	渡辺 昌夫
山田 幸治	山田 幹夫	山田 尊久
横井 久雄	吉田 勤	稻垣 秀樹

名古屋清須RC

会員21名

池戸 賢治	伊藤 昇	梅田 慎也
浅田 嘉行	鴨井 敏秋	河合 幹雄
川西 利浩	神田 利雄	後藤 鈴明
桜井 利夫	田邊 辰彦	辻 勇夫
中村 禥	星野 清久	後藤 稔
森田 堅一	守野 暢洋	和田 典之
大久保審也	水野 鉄夫	三輪 隆裕

尾張中央RC

会員34名

赤堀 博宣	魚住 尚三	大野 真一
大野 東秀	尾閑 正美	沖野 満
太田 吉宣	片山 進	熊澤 勝則
鈴木 雅貴	住川 誠一	高柳 美之
瀧本 守	竹本 義明	辻 光範
富田 昭雄	中村 隆文	西村 壽鳳
野田 和正	濱島 昭治	平岩 慎次
平野 弘康	檜吉 真寿	藤岡 重光
堀尾 明史	松尾 晋吉	松浦 正義

水上 恵一	毛利 雅俊	森川 洋司
山下 隆義	安田 基甫	山本 正則
吉田 透		

一宮中央RC

会員47名

森 榮	森 丞	長谷川正己
岩井 豊彦	内田泰潤徳	加藤 辰己
後藤 正雄	春木 和美	服部 隆宏
林 倫子	飯盛 靜男	池見 紘一
猪子 裕史	石原 稔久	石川 正弘
伊藤恒二郎	伊藤 正樹	伊藤 伸一
岩瀬 隆司	鹿島 兼一	加藤 恭章
木全智枝子	小島 三男	倉地 伸幸
松原 隆二	松岡 正浩	森 明美
森 真	森 俊一郎	長橋 國和
永田 正	西岡 則男	大森 進
小野木 宏	大塚 省治	坂田 義一
佐藤 祐造	柴田 裕市	白木 公明
多田 博剛	高井 光信	田宮 均
谷 進	寺本 倫子	鶴飼 俊光
山田 秀代	山中 建策	

瀬戸RC

会員27名

加藤 令吉	山本 英雄	勝谷 哲次
藤井 源成	加藤唐三郎	牧 治
大竹 一義	梶野 輝雄	加藤 定江
青山 稔	刑部 祐介	山田 拓
鈴木 光彦	松本 哲也	玉井 徹
近藤 三博	加藤 恵子	渡辺愛一郎
寺田 悟	加藤 貞言	水野 和郎
戸田 由久	中谷 安伸	中條 元司
牧野 健一	鈴木 良信	金谷 康正

犬山RC

会員20名

安田 新平	大島 克己	井川 光雄
野倉 達雄	山根 雄司	大澤 渡
原 正男	高橋 秀治	板津 英基
田中進一郎	福富 孝弘	宮岡 克年
木村 完	松山 基邦	水間 昌利
谷定 貴之	加藤 浩一	岡田 雅隆
朱宮 新治	小川 宏嗣	

江南RC

会員28名

浅野 安郎	安藤喜代司	伊藤 鶴吉
伊藤 靖祐	岩井 正彦	大池 武徳
尾関 憲市	川崎 良一	倉知 正憲
澤田 昌久	清水たま子	庄田 元久
杉浦 賢二	松本 哲一	鈴木 健治
滝 勝夫	富田 清孝	富永 典夫
中村 耕司	丹羽 雄三	波多野智章
古田 嘉且	松井 智義	真野 琢也
南村 朋幸	森 弘好	山田 猛
脇田 博治		

小牧RC

会員21名

河村 嘉男	五藤 隆夫	松尾憲二郎
鈴木 文勝	平手 昇	水野 聖仁
小栗 正安	山田 政二	大島 賀樹
中村 明	濱口 栄男	飯田 資浩
関谷 弘志	橋本 晃暢	渡邊 敬文
名和 千博	小谷 達也	竹内 友康
久保 秀一	宮川 康政	今村 政宏

春日井RC

会員17名

場々大刀雄	長谷川英輝	早川 八郎
林 鑛三	風岡 保広	北 健司
小島 啓治	名畑 豊	中川 健
志水ひろみ	清水 勲	高橋 理江
峠 テル子	宅間 秀順	山田 治
加知 康之	太田 弘道	

尾張旭RC

会員15名

西尾 輝久	井田 武憲	森 和実
飯田 幸雄	加藤 清久	山田 直樹
大野 良之	伊豆原浩二	古橋 裕志
唐井 仁一	箕輪 良孝	桜井 雅博
勝屋 弘忠	舟橋 龍秀	仲澤 昌容

名古屋空港RC

会員20名

青山 忠	伊勢村道雄	稻吉 將秀
井上 政秋	川上 義明	北園 守生
串田 正克	杉本 敦永	高山 光雄
武田 英昭	田邊 雅彦	土屋 範郎
照井 通夫	中島 俊朗	中林 正人
波多野 真	原田 好展	牧野 正明
溝口 英雄	山北 秀和	

瀬戸北RC

会員33名

本多 敬文	加藤 勝之	青山 弘彦
水野半次郎	須崎 侑三	加藤 充弥
加藤 雅人	波多野寿一	奥田 桂良
平岩 太伸	鈴木 昌子	深谷 隆
和佐田 強	加藤 光枝	梅村 邦雄
谷口良治郎	稻垣 実秋	石渡 世紀
高島 錠郎	荒井 康夫	鈴木 晴季
林 昌宏	成田 一成	杉山 仁朗
片山 郁雄	高阪 和広	久野 茂樹
伊藤 京子	菱田 峰高	平尾 節子
山中 俊博	伊藤 保徳	藤田 音春

岩倉RC

会員15名

有本 裕子	関戸 一雄	河村 金明
浅野 勝美	深見 早恵	長谷川義夫
服部 徹	宮田 浩明	檜木 治幸
井上 隆義	丹羽 規之	山田 照光
大江 秀和	横井 裕志	深石 公彦

名古屋城北RC

会員18名

岩田 貴子	岩田 佳之	太田 達夫
奥村 勝彦	小原 久和	小塚美知子
後藤 訓美	多田 通夫	玉置 政利
津坂 守英	筒井 俊秋	長谷川幸正
秦野 滋	服部 智謙	林 學
舟橋 伸治	堀田 徹	穂積 良治

愛知長久手RC

会員20名

青山 和成	伊藤 広治	大島 昭夫
加藤 猛	金田 宗博	小谷 恒夫
佐藤 文昭	白石政二郎	田中 信子
寺尾 隆	富田 盛義	長江 保明
中川 清子	丹羽 司一	林 正俊
日野 典子	松原 正敏	安田 茂樹
山田 文明	吉田 濱一	

名古屋RC

会員70名

林 左希也	夏目 和良	大島 寅夫
吉田 雅樹	盛田 宏	中野 義久
山口 茂樹	水野 新平	楠 吉邦
井元 明正	加藤 明宏	白木 和夫
正木 利和	松本 圭一	社本 光永
内藤 弘康	滝 茂夫	市川 周作
渡邊 文雄	天野 源之	本多立太郎
丹羽 一友	杉浦 典男	長谷川栄胤
小嶋純二郎	石井 隆一	高松 正敏
藤森 源久	瀧 昌之	藤原 一朗
橋本 渉	秋吉 茂	秋吉美由紀
荒木 高伸	浅野誠一郎	阿波 典久
服部 陽一	久末 裕史	石田 建昭
伊藤 隆	神宮 知茂	徐 浩平
神谷 誠	櫛田 誠希	小菅 栄修
熊本 敏彦	松原 彰雄	宮嶋 晃
中村 克央	西原 哲夫	越智 洋
小川 正人	荻野 浩三	尾崎 聖治
佐々木敏夫	佐藤 邦夫	佐藤 幹夫
渋谷 文平	杉町 真	鈴木 宏昌
鈴木 昌義	鈴木 忠明	谷口 正憲
寺田 修	友廣 康二	山田 佳臣
山本 亜士	安田 正介	天野 信二
佐伯 進		

名古屋西RC

会員46名

足立 邦彦	青島 邦人	藤田 真史
原 典之	長谷川道春	早川 登
林 芳行	一柳 伸	伊藤 彰彦
亀井 茂	神尾 隆	片桐 清志
加藤 憲司	加藤 正和	桂川 成治
川島 誠	近藤多喜男	熊田 正三
熊崎 孝雄	牧ヶ野義雄	松山 吉之
三石 栄司	宮田 紀昭	水谷 博之
望月 宏秋	西山 正直	丹羽 英夫
小椋 保行	大高 恒夫	大石 幼一
大矢 正継	坂井 則夫	佐藤 銀康
傍嶋 誠一	杉浦 啓允	鈴木 和雄
高渕 一幸	田茂井克典	田邊 義幸
谷 重樹	寺島 優	戸谷 紘治
鵜飼 治昭	梅田 克一	梅本 薫
牛嶋 教雄		

名古屋南RC

会員124名

嶺木 昌行	嶺木 恵子	近藤 祯男
大岡 洋三	池 潤	桂 洋司
桂 英子	斎藤 清治	村松 貞夫
岩田 崇祺	浅原 光男	筒井 信之
木村 樹生	西本 一幸	北 登一
櫻井 繁	篠田 美樹	後藤 正憲
伊東万樹也	江口 博寿	伊藤 昌弘
片桐 満	若杉 喬	樋江井貴文
眞野 乘史	内田 安彦	佐分利清信
澤田伊三夫	福山 衛	足立 捷佑
浅井 金三	浅井 保	馬場 研治
馬場 駿吉	藤田 彰男	深貝 広隆
後藤 利建	後藤 保正	長谷川 伸
橋元 幸次	服部 栄三	服部 一郎
服部 伸一	林 幸春	土方 茂
平野 京司	洞山 豊行	飯田 輝彦
異相 武憲	加納 昭巨	柏谷 忠晴
加藤 順造	加藤 慶一	加藤 敏行
木戸長一郎	菊田 宗一	小嶋 仲夫
小森 敦夫	小室 信弘	近藤 雅夫
間宮 敦	丸山 和紀	松田 征雄
宮田 理博	宮田 松英	水野耕太郎
水谷 隆夫	森口 雅文	村上 斎
村瀬 廣芳	長苗 克彦	中川 昭一
中村 哲郎	中野 智夫	鳴川 基訓
西尾 直哉	大場 泰裕	落合 肇
岡田 英彦	奥山 清介	大島喜十郎
太田 和宏	小山 英樹	斎藤 三正
坂井田 勉	榎原 仁作	佐々木康之
佐藤 真基	澤田 壽之	妹尾 淑郎
清水 一郎	鈴木 幹雄	鈴木 輝彦
高橋 浩成	高橋 茂壽	竹内 正
多久田達宏	遠山 孝次	富田外喜彦
豊田正二郎	坪井 良憲	柘植 瑞昭
鶴田 欣也	上田富士男	上田 康雄
浦野 廣高	若山啓太郎	鷺見 弘
渡邊 浩	渡邊 一平	渡邊 將人
山口 貞雄	山口 義浩	山路 兼生
山内 公明	築瀬悠紀夫	横田 昌幸
横山 高司	吉田 明弘	吉田 春樹
吉田 哲人	吉川 公章	吉岡 正人
神原 克浩		

名古屋みなとRC

会員51名

関口 宗男	深谷 友尋	糸井 学
寺本 善雄	才本 清継	高田 和裕
猪子 恭秀	岩佐 信機	梅田 武久
遠藤孝次郎	遠藤 武夫	岡本 善博
岡田 雅	加藤 茂春	加野 治郎
栢森 雅勝	菅 栄	木村 秀夫
小島 清路	斎藤 捷昭	杉浦 弘
杉江 豊文	住田 守	芹澤 謙一
高村 芳行	田島 伸也	内藤 昌裕
中村 吉夫	成田 洋之	西田 篤生
野村 順雄	橋本 修三	長谷川款一
林 順一	平松 勝	福島 靖人
三枝樹明道	村田 誠一	室原 國彥
柳澤 講次	山内 靖雄	山川 克彦
山下 哲男	山田 章博	山田 和男
山田 幸一	山田 豊	吉田 守宏
渡辺 健壱	里地 紀哉	高山 祐一

名古屋東南RC

会員80名

青山 和暁	伴 稔夫	福島 啓氏
浜崎 明	橋爪 務	平井 善明
平松 育夫	廣田 克	菱田美智代
菱川 大祐	堀田 努	石田 晴信
糸魚川浩光	伊藤 秀雄	伊藤素美子
伊東與有三	岩崎 誠二	神保 成章
加地 隆治	各務 芳樹	金井 敏彦
兼子 誠吉	兼松 曜子	片田 益男
川田美代子	河合 幸子	木村 太
吉良 伸一	鬼頭 弘	小林 光子
小玉 秀男	小島しおり	近藤 和雄
近藤 信之	熊谷多津旺	久野 博淳
牧野 弘明	亦野 正雄	松原 邦夫
宮崎 薫	水野 恒平	水浦 弘康
宮田 隆夫	森谷 勝美	長次 修
永谷 英夫	南雲 和江	中村 規脩
中島 美恵	成瀬 和男	野村 延彦
岡田 新	尾本 和弘	大西 弘高
大竹山雄二	坂本 裕孝	佐久間貞介
清家 義雄	閔 孝雄	清水 利男
下郷 卓弥	白木 良彦	杉浦 亘
鋤柄 喜彦	鈴木 雅雄	鈴木 誠吉
社本 信彦	玉木 大介	手塚 幸弘
東枡 泰久	坪内 協致	宇田川一昭
藁谷喜世志	山口 直彦	山口 剛男
山原 武	山ノ内泰央	山内 英人
吉田 哲朗	吉水 正溥	

名古屋中RC

会員57名

國友 昌大	籠橋 美久	荒川 雅義
大矢 裕慈	山口 真	神谷 裕之
渡邊 一平	川島 悅雄	田島 慶雄
高橋公比古	猪飼 秀明	坪井 進悟
阿部 博	小笠原 晓	梶田 知
野口 昌良	永野 光容	佐藤 貞明
長井 芳郎	吉田 敬岳	梁川 誠市
長谷川正親	高間 公平	加藤 政己
岡野 剛久	山内 芳郎	近藤 直樹
渡邊 樹志	小栗 成男	清水 盛幸
杉浦 康晴	古田 昭臣	加瀬英比古
飯田 鳴登	南館 欣也	楠 吉史
白瀧 正人	相羽 康人	塩谷 和久
服部 浩明	平松 久明	原島 正
今泉 宏久	一政 芳晴	北村 栄治
河村 嘉希	川本 浩史	森田 乾嗣
王 偉	柴田裕二郎	瀬木隆一郎
安田 照幸	長谷川 誠	鶴見 俊成
山口 忍	大脇 始	田中 良一

名古屋瑞穂RC

会員68名

天野 正明	馬場 將嘉	江口 金満
平野哲始郎	平野 好道	本多 清治
堀 慎治	市岡 正蔵	稻葉 徹
稻垣 豊	伊藤 豪	岩本 成郎
岩田 修司	岩田 吉廣	泉 憲一
亀井 直人	神田 広一	加納 裕
近藤 茂弘	近藤 雄亮	越原 一郎
増田 盛英	松井 善則	松波 恒彦
松岡 道弘	嶺木 一夫	森 恒夫
長坂 邦雄	長瀬憲八郎	西本 哲
西沢 功晋	野崎 洋二	布目 德
落合 諭	小串 和夫	岡本 忠史
岡村 達人	大川 嘉成	大島 浩嗣
大嶽 達郎	佐藤 一郎	佐藤 善乙
関谷 俊征	宗宮 信賢	鈴木 圓三
鈴木 健司	鈴木 淑久	高木 勝
高木 元明	高村 博三	高須 洋志
田中 英雄	田中 政雄	田中 隆義
遠山 堯郎	鶴田 浩	内田 久利
梅村 昌孝	宇佐美貞夫	渡辺喜代彦
八木沢幹夫	山田 鎮浩	山口 哲司
吉木 洋二	湯澤 勇生	湯澤 信雄
高須 千恵	馬場千恵子	

名古屋大須RC

会員29名

杉浦 令淑	川畠 博敬	田崎 雅三
堀江 英弥	高木 政義	神田 憲
佐藤 彰	吉田 憲一	鬼頭 茂成
岡村 隆徳	松本 哲朗	神野 邦利
渡辺 観永	丹下 富博	前田 隆久
照井 莉	加藤巳千彦	出口 忍
草野 勝彦	木村 光徳	春日井和良
酒井 修	日比野富士男	青木 靖高
宇野 史仁	大源 俊博	林 順治
林 富徳	石田 浩之	

名古屋栄RC

会員31名

浅野 了一	安藤 一佳	青木 宏
鮑尔 吉徳	古川 聰一	原野 勝至
日置 教康	羽田野道明	細井 土夫
長谷川直人	服部 秋浩	石河 隆
井上 司	岩井 文男	國分 義雄
小林 弘明	久野 善基	笠原 猛
牧野 博和	三宅 郁夫	野田賢次郎
西村 忠郎	小川 隆	大野 友三
鈴木 義昭	上坂 寛文	山田 慎也
山田 靖典	八神 基	山内 二郎
高木 裕明		

名古屋名南RC

会員61名

安藤 銃一	安藤 修	有川 英敏
朝比美和子	浅井 浩	江上 隆夫
江村 雅夫	林 隆二	東山 直史
本多 利郎	細井 俊男	出田真太郎
猪村 美之	犬飼りさ枝	入谷 直行
伊藤 博昭	伊藤 圭一	加藤 英敏
加藤 宜之	川辺 清次	川村 繁生
川瀬 悟	木村 猛	木下 福郎
児島 徳和	小山 慎介	久米 伸治
黒田 康正	牧野 好弘	三島多恵子
三浦 和人	三浦 隆	宮本 浩史
宮崎 良一	水野 俊男	森田敏二三
武藤 正行	長尾 浅吉	中村 勝
中西 芳子	野々村憲吾	大橋さなえ
太田 敦士	榎原 和美	坂本 晃
坂田 信子	佐々木元彦	新原 尚
白藤 憲雄	白銀 義昭	杉本 勇
杉山 隆秀	鈴井 一博	鈴木 清詞
鈴木 享	田中 一雄	田中 省三
山本 郁矢	山本 誠一	吉木 邦男
小野 雅之		

名古屋名駅RC

会員33名

川村 勝廣	篠 正紀	西川 富夫
田口 望	神野 重行	石黒 隆
中野 健	小室健次郎	清水 順二
田中 修	大橋 誠之	鈴木 卓也
大川 宏	山本 裕三	城野八代江
坪井 義之	岩崎 光記	西岡 良洋
松林 孝美	別府 幸典	高岡 浩
河合 和之	西渕 史人	種瀬 徹也
久野 博武	宮田 大司	斎藤 健治
西川 達郎	安藤 和史	長澤 正志
栗原 幸宏	六鹿 敏也	篠田 正一

名古屋丸の内RC

会員22名

長谷川龍伸	長谷川朋子	藤田 守彦
安江 英雄	石井里恵子	水野 裕善
松尾雄二郎	池井戸貞夫	高山 進
大岩とよみ	磯部 徹	堀江 俊通
後藤 敞	松本 正継	西川 博
柴田 達志	植木 広次	矢野 雄嗣
吉田 光一	若原 正幸	柴田 孝一
亀井 克典	立石 博明	

中部名古屋みらいRC

会員29名

ティモシー マイケル デズモンド	古橋 武之
池谷 悟	伊藤 秀樹
亀島 深里	桂川 将典
河合 太輔	川瀬麻規子
コン テイリ	倉坪林太郎
松井 康素	宮下 恵子
野村 斎史	小野 純子
パラス マニ ポカレル	菅井 径世
鈴木 順平	鈴木 智子
寺澤 君江	山田 高行
川口 和代	横田 敦史

名古屋北RC

会員27名

安部 隆俊	青木 秀人	伴野 友昭
石田 正城	石濱 人樹	加藤 慶人
近藤 和利	水野 吉紹	森實 敏彦
村田 裕二	中川 正美	中村 陽公
中島 実	小栗 一朗	尾関 孝英
榎 直樹	柴田 幸男	篠田 光浩
相馬 保之	杉浦 秀一	浦野 三男
渡邊 嘉昭	矢形 修己	山田 博
山口 兼市	谷田部二郎	吉富 広紀

名古屋東RC 会員25名

ミカエル カルマノ	渡邊 正数
池戸 史英	清水 恒一
本多 満	本田伸太郎
佐治 勝	伊藤 雄太
今村 憲治	柳澤 幸輝
水野 勤	小田 義彦
岩口 孝一	野田 剛司
石田 侑嗣	安藤 茂
松田 茂樹	新実 宣英
	宇佐美嘉重斌
	林 雅史
	柏木 功
	馬場善志雄
	加藤 義彦
	野原 秀雄

名古屋守山RC 会員46名

阿部 丈夫	後藤 敬	林 千尋
樋口 武人	井上 誠	伊藤 陽介
梶原 淳	金森徳三郎	加藤 忠晴
木村 邦彦	木村 隆之	松崎美都子
三澤 博之	森藤左工門	長瀬輝代之
中田 典子	太田 健一	尾崎 雅人
酒井 友義	佐藤 正延	瀬古 賢二
重富 亮	清水 資夫	鈴木 樞
高橋 祥泰	高瀬 和巳	竹田 浩教
竹内 正己	瀧澤 孝行	田内 哲雄
友松 芳信	上村 公彦	鵜飼健太郎
鵜飼 昌治	矢島 茂	山田 静夫
長谷 照一	亀井 貞夫	三浦 英二
滑 尚真	岡本伊三雄	齋藤慎一郎
佐藤 和男	佐藤 良一	杉浦 貞男
山田 健雄		

名古屋和合RC 会員33名

天野 清美	端山 佳誠	坪井 和義
小南 速雄	吉田 正道	尾関 和成
富島 照男	町田 重夫	林 邦司
桑山 卓也	相羽 繁生	今井 明雄
稻川 久	服部 雅紀	柏木 博喜
横野 智之	田中 正次	中村 有孝
國分 孝雄	近藤 東臣	服部 滋
山田 明紀	安井 隆豊	花橋曰出夫
佐橋 嘉彦	松下 剛	山田 和弘
岩佐 芳樹	前野 智純	小林 利之
閔 貴之	樋口 富三	久保 哲政

名古屋名東RC 会員27名

湯浅 勝治	和田 富夫	米山 郁生
齊藤 英夫	下出 啓介	中村 公彦
平 民三	佐藤 健五	佐藤慎一郎
橋本 節生	元松 茂	中込 清周
野々部英夫	奥 佳澄	砂田 知昭

鈴木 勝博	伊藤 嘉浩	鹿養 和良
中尾 僚宏	斎藤 福子	鈴木 由二
竹内 隆	棚村 良博	湯本 崇雄
津川 聖子	伊藤 隆司	丸山 猛

名古屋名北RC 会員15名

半泊 與則	小關 敏光	岩田 満治
伊藤 晋一	西脇 多吉	古川 康司
梶川 久雄	足立陽一郎	加藤 敦子
梅村美知容	星川 直志	横田 徳久
西脇 良一	近藤 朗	遠藤 友彦

名古屋千種RC 会員23名

大口 弘和	池森 由幸	足立 一郎
油田 弘佑	萩原喜代子	林 正路
伊藤 健文	樺尾 富二	加藤 重雄
川端 圭	小林 英毅	小山 雅弘
宮尾 紘司	三好 親	大川 勝平
大谷 恩	佐久間良治	鈴木 聖三
竹内 克豊	谷口 優	渡邊 源市
吉田 節美	大口 礼子	

名古屋昭和RC 会員26名

荒川 章三	安藤鉢太郎	磯部 浩平
伊藤 彰二	上野 広	
ウディン エムディ ザイル		大矢 英憲
尾原 成夫	加藤 靖	木下 実
小坂 達也	坂本 照明	白木 勝久
須原 茂樹	巣山 公康	高橋 進
高柳 元	瀧 篤人	寺野 哲也
名倉 嗣治	乃一 稔	平岩 光二
前田 圭佑	松井 多弘	山田 敏雄
横田 幸三		

名古屋錦RC 会員22名

後藤 博文	長谷川周義	林 光夫
石井 弘子	伊藤 康之	金子 紀子
北村 隆子	工藤 悅子	三浦 俊彦
中山 信義	丹羽 繁	落合 和子
小野田 誓	佐藤 隆	佐藤 泰生
高田 榮助	武田 正典	寺西 正
宇山公一郎	和田 佳子	藤岡 省吾
岡本 喜子		

名古屋東山RC

会員20名

谷村 茂	戸田 勝儀	小林三重子
近藤兼治郎	平下 三郎	佐藤 敏夫
金田 英和	渡邊 萬里	早川 和男
鈴木 宏治	近藤 正美	山元 康裕
田高 薫	中島 譲治	伊奈 正司
森川 辰幸	太田 邦広	酒井 清
山口 武則	林 直樹	

名古屋葵RC

会員28名

青木 昭憲	浅野 哲司	阿部 恵彦
石田 壽	石原 彰久	岡田 浩人
加藤寛治郎	加藤 久雄	加納 伸康
小玉 忠雄	田中 利幸	谷口 善彦
丹羽 敬三	野村 尚史	藤田 義明
堀口 久	前崎正太郎	山田 浩
山田 真	吉村 剛信	大門 政敏
佐藤 陽一	村上 政喜	

豊橋RC

会員46名

神野 紀郎	宮田 正人	高須 博久
富田 佳央	石黒 功	村井總一郎
河合 勝男	高山 景一	石川 百代
佐々木利政	縣 政行	松坂 良太
松本 孝一	牧野 渉	内山 典弘
伊藤喜代志	福井 敬	鈴木 明雄
山本 光伸	高橋 豊彦	川村 荒治
井川 和英	岡田 直樹	松岡真由美
青木 良浩	伊藤 晴康	石川 昌義
三浦 裕司	佐藤 裕彦	山本 貴浩
森田 吉彦	佐藤 元彦	杉田 洋
横山 義人	瀧崎 裕司	江崎 雅彰
岡村 正造	荒島 一実	森木田 進
中村 典司	佐藤 雅和	大塩啓太郎
加藤 茂樹	伊藤 優	浅倉 伸治
岩瀬 清		

蒲郡RC

会員26名

酒井 基裕	酒井 克嘉	市川 晶也
本多 英夫	鈴木 康仁	三浦 雅弘
鈴木 仁志	岡田 安生	本多 宏亘
山本 英夫	大岩 敏郎	野崎 正一
金原 久雄	志賀 弘嗣	鈴木 岳嗣
飛田 常年	大場 勝議	洞田 嘉明
内田 嘉幸	村松 敏夫	山本 洋一
永川 貴士	藤田 卓郎	堀井 慎二
古屋 俊児	小林 正人	

豊橋北RC

会員36名

木村 高章	匹田 雅久	佐久間武美
山本 光人	古澤 功三	西村 良彦
夏目 國弘	鈴木伊能勢	鈴木大次郎
谷山 勉	河合 芳光	山内 有恒
高橋 佳一	西川 康夫	金子 准子
八木 基之	山本 忠男	熊田嘉一郎
鈴木 宣央	藤本 孝宏	鈴木 茂久
河合 伸浩	柳川 龍	川口 雄三
大岩 靖典	加子 通久	中島 浩
氏原 伸	大石 佳史	岡本 道子
松崎 和馬	下山 暢子	木戸口昌己
金森 正芳	中村 豊幸	小林 高守

豊川RC

会員41名

生田 米八	池田 哲朗	石川ひかる
石原 勝好	岩瀬淳一郎	大村 幸司
小川 晴希	小澤 行雄	加藤 晃司
加藤 康章	香取 武	神谷 親典
木下 良夫	久具 信夫	久野 将稔
清水 宏臣	白井 利明	菅沼 洋史
鈴木 榮一	鈴木 和夫	
陶山 嘉伸	竹内 幹尚	竹本 尚美
田中 粋人	田中 勢子	戸田 俊晴
鳥居 信行	内藤 雄功	中杉 和雄
中村 泰隆	永井 康允	樋口 俊寛
藤野 和裕	牧 昌夫	森久 宏
山本 信利	山脇 善典	渡辺 治
渡辺 稔明	吉野内猛夫	

田原RC

会員17名

富田 雅則	山田 年清	別所 淳二
天野英一郎	小嶋 優男	安田 幸雄
藤井 國弘	森田 雅人	高崎 雄三
鈴木 進	石黒 利昌	大村 俊美
宮崎 三佳	鈴木 正敏	伊藤 祐人
高瀬伸一郎	岩瀬 忠成	

豊橋南RC

会員33名

赤井 知久	石川 昌和	水梨 豊三
佐藤 有文	藤城 俊明	吉野 勝己
山本 芳隆	住野友次郎	神谷 浩史
縣 保彦	内藤 哲寛	西川 滋
河合 正治	神戸 邦夫	原 正美
富安 美孝	梶村 康彦	高崎 俊幸
石原 裕	南原 克己	鈴木 健一
田中 宏明	大澤 憲朗	山崎 和利
林 俊介	伊藤 之一	渡邊 康弘
早川 洋	三浦 圭吾	倉光 央二
大本 茂	中村 恒也	渡会 政彦

新城RC

会員18名

中澤 輝昭	金沢 政樹	滝川 健司
川合 敏正	夏目 工	丸山 明敏
戸田 英志	小笠原喜好	浅野 強
高柳 優治	原田 幹也	内藤 恒嗣
星野順一郎	中島 忠幸	星川 和伸
加藤 栄志	原田 民夫	岩崎 章

渥美RC

会員11名

青山 房生	石本 健一	金沢 孝幸
河合 光志	川口 敏郎	朽名 誠
彦坂 育甫	間瀬 祐一	三浦 正好
宮川 隆司	森下 三嗣	

奥三河RC

会員9名

金田 直孝	亀山 隆	関谷 徹
後藤 和治	佐々木洋子	佐々木としゑ
東野 和敏	板橋 光男	三崎 敦

豊川宝飯RC

会員21名

山城 康司	滝下 黙	高桑 耐
加山 昌弘	大木 健市	鈴木 博
伊藤 正幸	岩瀬 靖宏	小田伊佐浩
富田 高子	度会 尚志	鈴木 啓仁
樅山 修一	土井 昌司	大木 悅子
藤原 規彰	杉浦 元保	来山 健一
河本 圭史	波津久智昭	浅野 晋

豊橋ゴールデンRC

会員28名

大須賀憲太	西郷 隆治	杉原 敏雄
谷村 泰裕	山本 雅久	福沢 省吾
岡本 久永	白井 正樹	高畠 皓一
宇藤 信	若林 正治	高橋 雅男
神谷 馨	梅田 英樹	竹田 昌弘
伊藤 眞芳	大羽 重治	杉田 和俊
中村 彰宏	大林 則久	富田 正行
矢頭文由己	井上 穂	小嶋和四郎
本多 英司	村松 良一	鬼頭 秀幸
山口 卓久		

田原パシフィックRC

会員17名

井上 健	鵜飼 和甫	大野 晶寛
河合 成幸	河辺 晓雄	河辺虎太郎
斎藤 幹夫	白井 悟	鈴木 達司
鈴木 照幸	鈴木 美仁	彦坂 忠男
彦坂 敏行	古橋 一毅	松井 準治
森下 新一	柳田 豊	

豊橋東RC

会員18名

神野 武郎	満田 稔	中野 亘
白井 康仁	藤井 宣行	中村 成人
平野 正博	川西 裕康	齊藤 伸明
松下 泰三	西脇 友伸	小笠原竜児
大野 哲	小石 洋和	木所 壮太
柳瀬 秀昭	古越 純	佐野 良明

岡崎RC

会員36名

浅井 章	土居 隆史	同前 仁史
蜂須賀利雄	林 和夫	本多 啓一
岩月 昭佳	加藤 博巳	牧 久
松原 広幸	三浦 弘行	宮本 隆
水野 周久	中根 正和	南部 淳
野田 篤文	小原 瞳	荻須 文一
岡田 邦義	大村 康雄	大野 正則
大瀧 敏幸	太田 成紀	尾崎 篤司
柴田 泰伸	菅井 龍一	杉本 知治
杉浦健太郎	杉浦 壽康	鋤柄 祯彰
畠中 昭信	谷 泰男	河合 潤
山崎 達也	安福 良豊	吉川 正敏

豊田RC

会員40名

梅村	正明	河木	照雄	加藤	直樹
孕石	邦雄	杉浦	敏夫	鈴木	元弘
市川	善英	杉浦	毅	稻垣	利彦
鈴木	隆太	清水	伸吉	渡邊	寿也
奥田	清仁	鈴木	賢三	下地	正孝
中根	富夫	河原	秀紀	米山	和浩
天野	勝美	横山	眞久	岡田	勝美
鈴木	秀和	村上	雅則	光岡	新吾
酒井	法丈	秋田	敬治	杉浦	秀明
杉浦	正典	服部	隆	柴田	征充
塚本	勝巳	大河原	恵司	古沢	宏伸
伊藤	正人	新井	利和	梅村	泰弘
鈴村	幸伸	三宅	正恭	大井	啓行
筒井	達矢				

岡崎南RC

会員24名

小久保文雄		藤田	正彦	岡田	光司
近藤	千雅	鈴木	裕二	清水	昌一
本間	毅	服部	英男	永田	哲之
岩瀬	宏隆	伊豫田	浩	江山	清
神尾	淳	杉浦	彰	鈴木	博文
志賀	為宏	福尾	清	牧野	嗣弘
岡田	庄璽	酒部	佳直	鬼塚	俊夫
磯村	哲也	鳥居	守	太田	進造

豊田西RC

会員28名

裕	伸夫	谷山	芳和	古井	弘二
中川	俊治	寺田	壽孝	野田	清衛
鈴木	宏行	山形	悦男	小幡	輝雄
鈴村	正樹	兼子	勝美	林	茂男
土屋	孝介	三橋	恵治	梅村	昌彦
勅使河原	孝	岡本	英治	加納	一弘
間瀬	順一	杉浦	栄二	大矢	伸明
説田	公人	吉村	和彦	加藤	範久
纈纈	和彦	長坂	剛充	鈴木	勇夫
伊藤	信裕				

岡崎東RC

会員22名

小木曾	進	市川	幾雄	青山	俊次
三浦	泰廣	水野	恒彦	野村	政弘
深津	幸雄	近藤	金作	梶山	良三
稻垣	寿	深田	昭彦	新浪	勝也
橋本	義紀	石川	雅規	林	孝夫
中根	匡規	草間	正弘	加藤	和志
鈴木	佳樹	杉山	正章	柴田	健吉
畔柳	秀幸				

豊田東RC

会員21名

澤田	文雄	平野	恒弘	鈴木	敬一
神谷	重雄	山田	守男	小島	波尾
池田	勝興	村瀬	一夫	柴田	明司
鈴木	博之	杉谷	芳紀	鈴木	英治
横山	克則	矢頭	功生	服部	基一
浦野	滋行	鈴木	裕仁	山内	達己
岡田	義史	前田	晴士	内山	雄司

岡崎城南RC

会員16名

桐渕	利次	山本	剛司	近藤	憲康
中根	常彦	永田	裕	長野	哲也
千賀	邦二	板倉	正直	牧野	正高
澤田	道明	松永	茂夫	近藤	保則
井上	武彦	小山	章仁	天野	邦彦
桐渕	和子				

豊田三好RC

会員6名

加藤	正志	近藤	隆治	鈴木	正輝
中野	喜之	堀川	泰	久野	徳積

豊田中RC

会員17名

浅岡多田志	鈴木	純子	河合	英二
中垣	幸春	原田宗三郎	小野	朝康
中條	善朗	宇野	修市	原田
太田	昌孝	塚田	和也	木戸
梅村	公代	伊藤	敦夫	西村
福岡	和則	佐野	宏徳	

刈谷RC

会員41名

杉浦世志朗	杉浦眞佐子	市川	裕大
野村紀代彦	久米	博明	嶋津
岩瀬	正人	鈴木文三郎	龍司
杉浦	芳一	鈴木	豊
加藤	哲也	廣根	実
水越	彌生	太田宗一郎	杉山
伊藤	節夫	小川	欣輝
下谷	敏朗	馬場	文雄
中林	久美	天野	吉岡
加藤	繁則	神野	秀記
津田	鎮輔	竹内	豊
稻垣	俊彦	小澤	前田
加藤	英樹	丹羽	孝司
三品	康雄	桂木	宜幸

安城RC

会員56名

細井 英治	沓名 俊裕	大嶽 岩雄
大見 宏	石川 博	永谷 文人
丸山 光夫	竹内 通裕	小野内宣行
深津 正則	市川 護	神谷 明文
石川 義典	内藤 教恵	奥田 法行
横山真喜男	富岡 里美	都築 雅人
神谷 研	小林 逸朗	戸谷 央
加藤 弘	山口 研	加賀 昭成
杉本 汎平	加藤 正人	福田 雅美
兼松 信吾	寺部 晓	杉山 淳一
磯貝 廣治	青山 竜也	松本 隆利
杉浦 實	横田秋三郎	原田慶三郎
寺田 孝司	恒川 憲一	川合 昭道
近藤 裕保	石原 昭	成田 孝則
新田 高広	外山 勝美	稻垣 淳
浦田 士郎	岡田 良三	勝見 乙平
清水 正幸	鈴木 福美	成瀬 介宣
野村 聰	野村 繁雄	藤井 英樹
山口 佳久	鳥居 博行	

西尾RC

会員26名

稻垣 良次	鳥山 欽示	三浦 真澄
加藤 典男	榎原 勝俊	小田井博茂
鳥居 忠善	山崎 克弥	三村 幸弘
大河内俊彦	斎藤 貢	鳥居 祥雄
杉田 明弘	松田 茂治	天野 卓
杉浦 明博	杉浦 広	平田 兼久
島 孝昌	宍戸 秀隆	山尾 令
北山 健二	岩瀬 正広	小笠原正秀
本多 淳	萩原 竜治	

碧南RC

会員26名

石川 春久	奥谷 弘和	黒田 昌司
平岩 辰之	木村 徳雄	森田 雅也
中根 佑治	倉内 裕	角谷 信二
岡本 明弘	平松 太	長田 和徳
鈴木 健三	栗津 康之	角谷 修
菅原 優	服部 弘史	大竹 密貴
杉浦 保子	鈴木 宏枝	栗山 章
新海 孝司	寺尾 政記	大川 隆雄
鈴木きよみ	鈴木 泰博	

一色RC

会員13名

篠田 義隆	早川比呂太	石川 量英
山下 民義	鈴木 茂朗	鳥居 萬里
長田 治	笠井 保志	神谷 正康
小池 孝	都築 勇一	神谷 林
尾崎 周二		

高浜RC

会員16名

笠松 栄治	浅岡 憲隆	名倉 隆司
杉浦 浩一	伊藤 ルミ	野々山貴文
神谷 義昌	神谷 昌彦	川角年比古
鈴木 康博	桂川 兼行	神谷 公一
加藤 安啓	中村さと子	森田 仁
黒田 勝基		

知立RC

会員35名

神谷 太一	清水 健次	深谷 憲夫
酒井 一造	倉田 英行	上野 実
宮地 俊夫	渡辺 浩二	野々山和彥
中川 敦	大辻 明	天野 光宏
早川 高師	野村 賢孝	金子 利夫
渡辺 伸一	隅田 正之	酒井 敏行
小柳 寿志	早川 岩男	中嶋 恒男
加藤 久和	原 武久	古久根 進
杉原 透恭	山田 哲夫	武藤 充廣
神谷 修	武田 昭俊	渡辺 一朗
鈴木 明	神谷 博昭	杉浦 新八
横井 果鉈	水野 吉樹	

西尾KIRARARC

会員13名

堀田 義之	清 克行	山本 裕充
青山 弦八	鈴木 正司	長谷 収一
杉浦 義利	高原 宏	三治 信芳
榎原 利夫	鈴木 昭夫	細川 和好
石山 進		

三河安城RC

会員31名

田村 優	成田 徹	阿部 光廣
富田 清治	岡崎重太郎	杉浦真理子
大見 育太	竹内 泰夫	古居 一雄
山本 彰秀	石原 健一	杉山 敏幸
下村 幸真	山本 雅仁	大見 和志
丹羽 修	石原 勝成	堀尾 佳弘
都築 征成	深津 茂樹	水谷 存
森田 勝己	鳥居 剛育	堀本 保美
林 秀司	加藤 宙	中村 正
齋藤 光正	植村 律保	竹内 裕恭
小西紀久雄		

奨学生・交換学生・他

職業研修チーム (VTT) 受入メンバー

[チームリーダー]	
ススム ゲンタ ツキモリ	
[チームメンバー]	
エミー ロザー 医師	
エドワード オズボーン 医師	
リアン ストーン 看護師	
ジリアン マクドーネル 薬剤師	

職業研修チーム (VTT) 派遣メンバー

[チームリーダー]	
西村 忠郎 日本いびき睡眠時無呼吸研究所 所長 [名古屋栄RC]	
[チームメンバー]	
深谷 泰士 名古屋第二赤十字病院 整形外科 副部長	
三澤 一成 愛知県がんセンター中央病院 消化器外科部 医長	
岡田 典隆 名古屋大学医学部付属病院 心臓外科学	
中島 康博 名古屋大学医学部付属病院 脳神経外科 助教	
安藤 拓也 名古屋市立大学病院 消化器外科 助教	

ロータリー財団奨学生 [学友]

古橋 武之 アメリカ	[名古屋北RC]
宮崎 和余 フランス	[名古屋丸の内RC]
池谷 悟 アメリカ	[名古屋北RC]
亀島 深里 アメリカ	[安城RC]
横田 敦史 アメリカ	[豊橋RC]
川瀬麻規子 ドイツ	[名古屋RC]
松井 康素 カナダ	[名古屋みとRC]
小野 純子 アメリカ	[名古屋みとRC]
太田 昌史 カナダ	[名古屋西RC]

米山奨学生

マスケ ルペス ネパール	[瀬戸北RC]
郭 曜 明 中国	[一宮RC]
サセド サンチエ ベニカ ナリガ ペルー	[豊橋RC]
林 開 顔 中国	[江南RC]
ファン・フー・ズイ ベトナム	[東海RC]
バーサンフー プレババト モンゴル	[名古屋守山RC]
林 韓 変 韓国	[瀬戸RC]
ユン サーヴィン カンボジア	[豊川宝飯RC]
許 翠 翠 中国	[尾張中央RC]
李 美 香 中国	[名古屋昭和RC]
樊 珊 霞 中国	[尾西RC]
楊 少 傑 中国	[名古屋西RC]
劉 輝 中国	[名古屋中RC]
崔 琦 賢 韓国	[名古屋錦RC]
崔 大 憲 韓国	[稲沢RC]
詹 智 閔 台湾	[あまRC]
チウソ コック グアン ベトナム	[名古屋RC]
董 維 佳 中国	[豊田中RC]
朴 秀 用 韓国	[名古屋東山RC]
グントーシング ヌッチャガン タイ	[豊橋南RC]

鄧 晓 梅 台湾	[名古屋南RC]
ソンブー ニヨッドマニー ラオス	[豊橋ゴールデンRC]
金 圓 景 韓国	[名古屋名南RC]
ラシドワ、ガミラ アフマドジョノワ ウズベキスタン	[名古屋名北RC]
陳 周 淦 台湾	[一宮北RC]
チャンタウォン ケームペット ラオス	[豊橋北RC]
金 秋 延 中国	[名古屋東南RC]
フサイン エムティー・イクラム バングラデシュ	[蒲郡RC]
カドカ、シバ・ラム ネパール	[豊川RC]
アディカリ・アリヤル、マドゥ・マヤ ネパール	[小牧RC]
包 図 雅 中国	[豊田東RC]
姜 京 男 韓国	[岡崎東RC]
ホルローバートル、エネルバヤル モンゴル	[名古屋北RC]
李 海 中国	[名古屋栄RC]
グエン・ロン・ドゥック ベトナム	[豊橋東RC]
バイジュマノヴァ、アイヌル カザフスタン	[豊田中RC]
アッタナヤカ、ブリヤンティカ スリランカ	[名古屋丸の内RC]
岳 博 涵 中国	[豊田RC]
楽 怡 中国	[名古屋瑞穂RC]

米山学友会

林 琼 中国	[松坂東RC]
盧 聰 明 台湾	[京都北RC]
于 泳 中国	[名古屋中RC]
施 丹娥 台湾	[堺東RC]
胡 桂 蘭 中国	[名古屋RC]
王 克 光 中国	[久留米中央RC]
アイハン、ムハッメド・エムレ トルコ	[岡崎RC]
グエン・アン・トアン ベトナム	[西尾KIRARARC]
ダオ・ニヤン・トリン・チン ベトナム	[名古屋和合RC]
木特列夫 古力努尔 中国	[名古屋中RC]
李 尚勲 韓国	[半田南RC]
宋 艷 苓 中国	[名古屋名東RC]
イスマイル インドネシア	[瀬戸RC]

青少年交換学生 [受入]

Ville Valtteri KARLSSON	フィンランド	[高浜RC]
Lou Arguillot	フランス	[東知多RC]
Steven Michael Nave	アメリカ	[一宮RC]
Grant Evan ARNOLD	アメリカ	[犬山RC]

青少年交換学生 [帰国]

野村早季子 オーストラリア	[刈谷RC]
渡辺 彩加 オーストラリア	[名古屋大須RC]
山本 直将 ドイツ	[一宮中央RC]
福岡 弘起 フィンランド	[名古屋名駅RC]
松井 理泰 カナダ	[尾張旭RC]
梶浦 琢矢 ブラジル	[一宮北RC]
刑部 純平 アメリカ	[瀬戸RC]
寺島 太一 フランス	[稻沢RC]

青少年交換学生 [ROTEX]

小池 博子	[瀬戸RC]
成田 佳代	[瀬戸北RC]
櫻井 優子	[名古屋名駅RC]

ロータリー地域社会共同隊 (RCC)

豊橋教育サークル (TEC)

〔TEC 代表〕小山 勝信

半田教育サークル (HEC)

〔半田市適応指導教室長〕森岡 邦夫

〔半田市教育委員会学校教育課〕三輪象太郎

豊橋ゴールデン RCC

〔会 長〕内藤 公久

名古屋守山 RCC

〔会 長〕赤堀 輝京 〔副会長〕柏本 妙子

岡崎少年野球サークル RCC

〔隊 長〕宮澤 良昌

長瀬楽人会

〔隊 長〕上原 久

半田国際交流ネット RCC

〔半田国際交流ネット隊長〕塩谷 増夫

〔国際ボランティアボレボレ会長〕青葉 孝時

〔国際ボランティアボレボレ副会長〕百合草宮子

半田災害支援ボランティアコーディネーターの会

〔会 長〕服部 裕子 〔副会長〕永谷 重勝

〔事務局長〕榎原 安宏

樹木医力シナガ消防団

〔事務局〕板倉 賢一

安城少年野球サークル RCC

〔会 長〕原田 秀邦 〔副会長〕伊藤 順一

「子ども歌舞伎」 RCC

〔会 長〕安藤 一義

愛知池友の会 RCC

〔代 表〕山田 光敏

インターラクトクラブ

豊川高等学校 [豊川 RC]

〔会 長〕牧野 真子 〔副会長〕倉光亜沙美

〔幹 事〕杉浦真菜美 〔顧 問〕平松 正至

豊田工業高等専門学校 [豊田 RC]

〔会 長〕椎名 透 〔副会長〕近藤さくら

〔幹 事〕大山 武弘 〔顧 問〕中川 聰

豊橋商業高等学校 [豊橋 RC]

〔顧 問〕藤城 真理、西川さとみ

岡崎城西高等学校 [岡崎南 RC]

〔会 長〕永井眞桃香 〔副会長〕紅谷 梨緒

〔顧 問〕鈴木 和美

名古屋高等学校 [名古屋 RC]

〔会 長〕加藤 鮎子 〔顧 問〕鈴木 一弘

人間環境大学岡崎学園高等学校 [岡崎 RC]

〔会 長〕豊永 樹里 〔副会長〕稻山 結香

〔顧 問〕谷本 信子

安城学園高等学校 [安城 RC]

〔会 長〕伊藤 千紘

〔副会長〕坂野 知穂、今井 恵

〔顧 問〕岡山 直樹

修文女子高等学校 [一宮北・一宮・尾西・一宮中央 RC]

〔会 長〕武川 仁美 〔幹 事〕勝間田友華

〔顧 問〕佐々木規子

光ヶ丘女子高等学校 [岡崎東 RC]

〔会 長〕中根 窓花 〔副会長〕加藤 茂

〔幹 事〕榎原 李菜 〔顧 問〕谷口千賀子

阿久比高等学校 [東知多 RC]

〔会 長〕加古 志織 〔副会長〕吉成南緒人

〔幹 事〕西山 小晴 〔顧 問〕岩井 玲子

千種高等学校 [名古屋名東 RC]

〔会 長〕上野 里沙 〔副会長〕岡部日向子

〔幹 事〕大林 佐有

〔顧 問〕大宮 秀樹、三宅 洋未

桜花学園高等学校 [名古屋東・名古屋千種・名古屋昭和 RC]

〔会 長〕村田 桃子 〔副会長〕安藤 楓

〔幹 事〕伊東 恵奈 〔顧 問〕河合 保昌

インターラクトクラブ

誉高等学校 [小牧 RC]

〔会長〕諸岡 英実 〔幹事〕姫田 涼平
〔顧問〕小林 淑一

春日丘高等学校 [春日井・名古屋城北・名古屋空港 RC]

〔会長〕清水 柚花 〔副会長〕原田 莉子
〔幹事〕寺西 弘行
〔顧問〕松本 誠太

愛知啓成高等学校 [稻沢 RC]

〔会長〕橋本健志郎 〔副会長〕杉野 成望
〔顧問〕水野 有紀

ローターアクトクラブ

地区ローターアクト

〔地区 RA 代表〕山下 裕
〔地区 幹事〕奥田 千紘

岡崎ローターアクトクラブ

〔会長〕内田 圭亮 〔幹事〕柘植 大輝

豊橋ローターアクトクラブ

〔副会長〕杉本 麻子 〔幹事〕武藤 広晃

田原ローターアクトクラブ

〔会長〕杉浦 貴浩 〔幹事〕中内田卓也

一宮ローターアクトクラブ

〔会長〕森 美穂子 〔幹事〕渡邊 悠司

名古屋みなとローターアクトクラブ

〔会長〕鏡味 純弥 〔幹事〕小西 杏奈

江南ローターアクトクラブ

〔会長〕村瀬 真以 〔幹事〕倉知あゆみ

名古屋熱田ローターアクトクラブ

〔会長〕村瀬 雄亮 〔幹事〕犬飼 景子

名古屋名城ローターアクトクラブ

〔会長〕築瀬 晓彦 〔副幹事〕水野 里咲

豊田広域ローターアクトクラブ

〔会長〕磯部 祐輔 〔幹事〕磯谷 真里

物故会員

謹んでご冥福をお祈りいたします。

2010年

10月 11日	大野 誠一	[尾西RC]
15日	竹澤 直美	[名古屋東南RC]
	伊藤 寛	[名古屋東RC]
25日	村上ふさ子	[豊田三好RC]
12月 2日	豊島 半七	[一宮RC]
9日	鈴木 敏夫	[豊橋北RC]
20日	水野 康	[名古屋西RC]
23日	安田 賢志	[豊橋北RC]

2011年

1月 16日	真野 則光 (名誉会員)	[江南RC]
17日	川口 雄平	[名古屋中RC]
22日	三浦 恭嗣	[刈谷RC]
2月 16日	渡部 恭久	[あまRC]
27日	石川 恒夫	[名古屋RC]
28日	加藤 照夫	[豊田中RC]
3月 26日	杉山 正彦	[半田南RC]
4月 3日	野崎 博	[名古屋RC]
17日	石川 唯司	[碧南RC]
19日	柴田 茂	[豊橋南RC]
5月 6日	松本 淳	[春日井RC]
16日	四十万谷与志明	[岡崎城南RC]
31日	中島 整	[あまRC]
6月 11日	土屋 利行	[名古屋名北RC]
15日	深谷 藤一	[知立RC]
26日	畔柳 芳夫	[三河安城RC]
	神保 成智	[名古屋名駅RC]
	太田賢太郎	[岡崎RC]
30日	岡島 淳一	[碧南RC]
	中根昭七郎 (名誉会員)	[岡崎RC]
7月 26日	新實 幸市	[西尾KIRARARC]
8月 23日	鈴木 孝則	[あまRC]
24日	新沼 操	[名古屋大須RC]
25日	梶川 重久	[名古屋錦RC]
9月 4日	浅野 豊彦	[名古屋東南RC]
16日	岩月 忠和	[名古屋北RC]
24日	中田梅次郎	[東海RC]

地区大会役員及び委員会

地区大会企画委員会

●委員長	松前 審典	[一宮中央RC]
●委 員	大澤 輝秀	[豊川RC]
//	田嶋 好博	[名古屋北RC]
//	千田 育	[名古屋東RC]
//	長谷川正己	[一宮中央RC]
//	柳澤 幸輝	[名古屋東RC]
//	黒野晃太郎	[あまRC]
//	渡辺 均	[あまRC]
//	高村 博三	[名古屋瑞穂RC]
//	遠山 堯郎	[名古屋瑞穂RC]
//	沓名 俊裕	[安城RC]
//	奥田 法行	[安城RC]

大会信任状委員会

●委員長	高橋 治朗	[名古屋西RC]
●委 員	斎藤 直美	[豊田RC]
//	江崎 柳節	[小牧RC]

大会決議委員会

●委員長	野村 重彦	[刈谷RC]
●委 員	福田 清成	[江南RC]
//	豊島 徳三	[一宮北RC]

大会登録委員会

●委員長	高村 博三	[名古屋瑞穂RC]
●委 員	遠山 堯郎	[名古屋瑞穂RC]

大会実行委員会

大会実行委員長	高村 博三
大会顧問	嶺木 一夫、江口 金満、鈴木 圓三 小串 和夫、岩本 成郎
大会アドバイザー	野崎 洋二、本多 清治、山田 鎮浩 近藤 雄亮、布目 徳、松井 善則 高須 洋志、岩田 吉廣
大会幹事	遠山 堯郎
大会副幹事	大島 浩嗣
第一部会	部会長 松波 恒彦 アドバイザー 本多 清治 小委員会委員長 堀 優治 小委員会委員 長瀬憲八郎、内田 久利、市岡 正蔵 岩田 修司、長坂 邦雄、落合 諭哲 梅村 昌良、宇佐美貞夫、西本 哲 大嶽 達郎
第二部会	部会長 増田 盛英 アドバイザー 近藤 雄亮、高須 洋志 式典委員長 加納 裕 式典委員 泉 憲一、岡本 忠史、近藤 茂弘 友愛・運営委員長 関谷 俊征 友愛・運営委員 高木 勝 RI 会長代理歓迎懇親会・ファミリープログラム 渡辺喜代彌、田中 政雄、馬場 將嘉 委員長 岡村 達人 委員 大川 嘉成、佐藤 善乙、鈴木 健司 鶴田 浩
第三部会	部会長 稲葉 徹 アドバイザー 野崎 洋二 総務委員長 亀井 直人 総務委員 平野哲始郎、西沢 功晋、湯澤 勇生 会計委員長 湯澤 信雄 会計委員 稲垣 豊 広報・記録委員長 鈴木 圓三、神田 広一 広報・記録委員 天野 正明 伊藤 豪、高木 元明、山口 哲司
医療委員会	委員長 田中 隆義 アドバイザー 松井 善則 委員 八木沢幹夫、田中 英雄、宗宮 信賢 佐藤 一郎
会計監査	森 恒夫

ホストクラブ紹介

名古屋瑞穂ロータリークラブ

会 長	高須 洋志
幹 事	馬場 將嘉
創立年月日	1980年(昭和55年)1月10日
R.I.加盟承認年月日	1980年(昭和55年)1月21日
チャーターナイト	1980年(昭和55年)5月10日
チャーターメンバー	34名
スポンサークラブ名	名古屋南ロータリークラブ
会 員 数	67名
事 務 局	〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目3番3号 (ヒルトン名古屋9階) TEL.052-211-3803 FAX.052-211-2623 E-mail 2760_nagoya@mizuho-rc.jp
例 会 場	ヒルトン名古屋
例会曜日・時間	木曜日 12:30~13:30

名古屋瑞穂ロータリークラブバナーの由来

名古屋瑞穂ロータリークラブは名古屋市の南部に位置する熱田区と瑞穂区を区域限界として、1980年1月10日、名古屋市内で11番目に誕生したクラブです。熱田区に熱田神宮、国際会議場白鳥センチュリーホールがあり、瑞穂区には瑞穂運動公園、名古屋市博物館があります。4月には瑞穂区の中を流れる山崎川畔の桜が美しく、6月には熱田神宮の中に咲く菖蒲が見事です。

バナーは熱田神宮の森の緑をバックに、神宮のシンボルである大鳥居と、瑞穂区の名の由来でもある瑞々しく豊かに稔った稲の穂をデザインしたものであります。



第4回 地区指導者育成セミナー

挨拶

国際ロータリー第 2760 地区
2011-2012 年度ガバナー

松前 憲典



本日は研修委員会メンバー 17 名、約 200 名の参加を得て、盛大に開催できることを心から厚く御礼を申し上げます。

ただ今ご入場いただいた今井 RI 会長代理は、神戸西ロータリークラブの所属のパストガバナーで元 RI 理事です。ロータリーリーダーシップ研究会について、中村研修リーダーの講演を聞かせていただいと申され、ご出席いただきました。ご熱心な方で青少年活動 RYLA でも活躍され、昨日が誕生日で 91 歳になられましたが、大変元気でいらっしゃいます。

皆様は、来年度の会長やエレクト、幹事になられる方です。この機会によく勉強され、実践していただきたいと思います。RLI 研修は、ディスカッションリーダーの質問によって参加者の知識、創造性を引き出すものです。私もサンディエゴでみっちり研修を受け、次々に質問が飛んできて、後で勉強をしなくてはいけない状況になりました。

本日は先生の講義を聞いていただき、活用していただきたいと思います。有意義な研修会になるよう、祈念いたします。ありがとうございます。



講師紹介

中村先生は 2770 地区のパストガバナーです。次年度の RI 会長の田中作次先生から薦陶を受けられた方です。2009 年から RI の研修リーダーをされています。RI を含めて、ロータリーについて大変造詣の深い方です。それでは中村先生よろしくお願ひ致します。

国際ロータリー第 2760 地区
研修委員会 委員長

関口 宗男



第4回 地区指導者育成セミナー ■

基調講演

「ロータリー・リーダーシップ研究会について」



国際ロータリー第 2770 地区
RI 研修リーダー

中村 靖治

今井 RI 会長代理には、昨年 2640 地区の大会に RI 会長代理としてお越しいただき、私も講師で 2 年続けてタッグを組んでこの地区にお伺いしました。

来年皆様が会長や幹事に就任される時には、田中作次氏が日本人で 30 年ぶりに RI 会長となります。私もなんとなく、皆さんに親近感を持つことができるとき同時に、田中作次次年度 RI 会長からのメッセージもご披露をしたいと思います。

非常に柔軟な考えを持つ今井 RI 会長代理の基調報告を是非お聞きになり、来年度に備えていただければありがたいと思います。

我々ロータリアンは、職業を通して社会に貢献をし、目の前に横たわるさまざまな危機にどう対応するのか、多くのことが求められています。「心の奉仕」、「体を使う奉仕」、「お金の奉仕」。この 3 つの奉仕を実践しなければならず、責務は大変多いと言えます。会長や来年の幹事の方には、それなりのリーダーシップを發揮して運営していただきたいと思います。レイ・クリンギンスミス前会長、カルヤン・バネルジー会長、来年度の田中作次会長、この 3 年間にわたる長期計画が発表され、現在 2 年目で、皆さんのが会長になった時に最後の年になります。今日から戦略に頭を切り替え、計画を立ててください。計画される事業は、そのままでも見直しても良いですが、来年の方針を戦略で行ってください。

クラブ総会までに幹事と相談され、来年度の方針を決めてください。私たちの使命は、他者に奉仕し、高潔性を推進し、事業と専門職、及び地域社会のリーダーの間の親睦を通じて世界理解、親善、平和の推進。これがロータリーのキーワードです。ロータリーの綱領の第 4 項にも書いてあり、ロータリー財団の使命にもすべて入っています。

ビジョンは「私たちは世界中の地域社会における人々の生活の改善に貢献するため、活発で行動力のあるクラブからなり、人々から選ばれる奉仕組織である」。優先項目は①クラブのサポートと強化②人道的奉仕の重点化と増加③公共イメージと認知度の向上の 3 つです。クラブで自分たちのテーマとしてどれを重点的に取るか、メインのテーマを決めていただきたいと思います。

価値観として①奉仕②親睦③多様性④高潔性⑤リーダーシップ。この 5 つです。これを胸に秘めて、頑張りましょうということです。

ある方が「あなたは 1 日の大切な時間のほとんどをロータリーの組織の活動に費やし、少なくないお金も奉仕活動に協力されている。何か楽しいことがあるのですか」と尋ねられました。皆さんもなぜ入っているのか、聞かれたことがあると思います。RI 会長は、確かに忙しく、多くの時間を費やすが、しかし信頼できる仲間と社会を良くしようとする運動は、自らを高めることができ、奉仕する喜びと感動を得ることができます。

ロータリアンは、素晴らしいプロジェクトをいくら実践してもお金儲けではありません。たった一言「ありがとうございます」という言葉のためです。超我の奉仕をする気持ちです。

年を重ねると、自分のために何かをしたいと思いますが、一人では生かされていない世の中なので、週 1 回、月 1 回、年 1 回くらいは、世の中のために良いことをしたいという気持ちをもたれる時があると思います。それが超我の奉仕や思いやりの心であつてほしいと思います。ロータリーの言葉で「奉仕の

理想」がありますが、田中作次次年度会長は「人のために思いやりの気持ちで接し、社会のために、社会に対して思いやりの気持ちだと信じてやってきた」と述べています。理想とするクラブ像はやはり、親睦と奉仕のバランスの取れたクラブ活動です。できたら例会を通じての友情をはぐくんではないと思います。ゴルフや飲み会も親睦ですが、オプションだと思っていただければ良いと思います。奉仕だけ、親睦だけではなく、何かを成し遂げ、クラブの仲間と輪をつくり、一献を傾け、新たな友情が芽生えて、次に何をしようか考えるというバランスが大事です。

ドランカーの言葉で「リーダーシップとは、正しいこと、正しい行いをすることである。マネジメントは正しく事を運ぶことである」とあります。会長は、正しいことをやることであり、幹事は物事を進めるのに正しくやることが大事です。クラブのメーキヤップカードや年会費などさまざまなことを執行するのは幹事で、会長はクラブの象徴や代表者で、現実にクラブを運営するのは、幹事です。ガバナーを輩出する場合も、会長名は必要ありません。幹事の名前で出します。幹事の役割がいかに大事かということで、最高執行者です。このリーダーシップとマネジメントをうまく棲み分けすると、クラブは良くなります。

対話式セッション。なぜガバナーに就任する人がこのような教育を受けるのかといえば、ロータリーは草の根運動で皆様の熱意がロータリーを変えます。ガバナーになる人たちがセッションを通じてロータリーを知るのではなく、皆さんもロータリーを語り合う機会をつくっていただきたいと思います。いまその機会が少なく、フランスから出た審議事項が「会長や幹事に就任する人たちがロータリーのことをあまりよく知らない。研修会で勉強をしたらどうか」と意見が出され、RIの理事会に提出することを決議したわけです。そこで決議されれば、世界全体に出てきます。

RLIは1922年にロータリアンの指導力開発を目的にした多地区合同プログラムとして始まりました。日本では米山記念奨学生が他地区合同プログラムです。1920年に米山梅吉さんが東京ロータリークラブを作られ、その威徳を称えて、主にアジア地域から

来る学生を支援するために作されました。

RLI 決裁につながった問題点は、私たちのロータリークラブの多くの会長や指導者の一部には、わずかな知識しか持たず、クラブの運営方法やクラブを前進させていくのに必要な指導力が乏しいままに就任しているケースが多いようです。半面、良い指導者がいるクラブでは、関心の高い価値があるプロジェクトに会員がかかわり、存在感と友情の雰囲気をかもし出し、良いプログラムのもとに関心度の高い例会を持ち、会員を育て、結果として大会奉仕につながっています。リーダーシップこそが私たちのクラブを成功に導く重要な要素になっています。モチベーションを高め、ロータリアンとしてどうあるべきか考え、勉強会に参加し、想像的な奉仕活動や会員増強に期待しています。

当2760地区は10月現在で4927名、82クラブで、非常に一つずつのクラブの会員数が多いクラブです。日本のロータリアンは、6月30日で9万190名でしたが、10月30日で8万9500名です。東日本大震災の影響もあり、約1500名が4ヶ月で減っています。世界は9000人、クラブとして92クラブが減りました。

世界は今、大変な状況にあり、日本も大変です。どうしてもボランティア活動に対して、どんどん減ってきてています。ロータリーはせっかく入っても知らないまで終わってしまう3年未満が40-50%います。これを防ぐには、皆さんガリーダーシップを発揮していただき、ロータリーを語っていただきたいのが一つと、3年未満の人を委員長に付けていただき、シニアリーダーがサポートし、その人の事業を成功させてあげます。そうすると、達成感と小さな感動を得ることができます。やめたいと思った時もやめない確率が高くなります。会長、幹事として実施してください。人間は褒められると調子に乗りりますから、うれしいのです。皆さんの中には弁護士や医師、事業所の代表もいて、トップリーダーです。会社ではトップリーダーとしてリーダーシップを発揮されていますが、これをロータリーに持ち込むと失敗します。ロータリーのリーダーシップは、横です。思いやりの心であり、根回しです。先輩の所に言って、思いを伝え

第4回 地区指導者育成セミナー ■

れば「わざわざ私のところに相談に来てくれた」ということで悪い気はしません。そうすると、そこから輪が広がります。年配になると頭が固くなりがちですが、横の思いやりがロータリーのリーダーシップです。話し合いをしてください。

ロータリアンはロータリーに関する十分な知識を持ち、効果的なクラブづくりや各種プログラムを推進するために十分な積極性を發揮できるよう、一般的な会員を対象に指導力育成の機会提供を目的としています。ディスカッションリーダーは、内容を説明するのではなく、ディスカッションリーダーの質問に対して、参加者が考えながらお互いに意見を述べせるようにします。関心が高まり、学び方を会得し、ロータリーへのモチベーションが高まります。

進行役は、自分の結論を出さず、一人ひとりの意

見を尊重します。互いに振って、意見を出させます。こちらから出すのではなく、主役は参加者です。皆さんの結論が出なくとも、勉強をしたことは頭に残ります。聞くだけでは頭に入るのは8%くらいだそうです。話してみると80%以上心に残ると言われます。何度も繰り返すと、自然と覚えていきます。コツは自分の話したいことを相手に話させることです。これができるば進行役は一人前です。会長や幹事になってセッションを持ちたいと思ったら、皆さんに徹底敵意討論をさせ、その前に自分は勉強をしておき、最後に講評を述べていただきます。そうするとさすが会長だとなりますので、うまく一年を乗り切ってください。

世界には地区が532あり、日本は34地区です。第1ゾーンは北海道から埼玉、第2ゾーンは東京か





ら愛知、第3ゾーンは、大阪から四国、九州で3つのゾーンがあります。今は17名で理事を務めています。

ロータリーの内容には、リーダーシップや奉仕、クラブの戦力、会員組織、職業奉仕さまざまあります。進めるのは、研修リーダーであり、RI本部から派遣されたインストラクターから直接ワークショップ研修を受け、承認された人たちが当たります。きつい特訓ですが、これを受けて初めてリーダーになることができ、進行役を務められるようになります。日本で今12地区が採用して、始まっています。修了者は、バッジと証書が与えられます。皆さん忙しいので、パート1から3は全国どこで受けさせていただいていいわけです。2年、3年かかる人もいます。ロータリーは強制をしないので、できる時に受けていただければいいのです。

次年度会長になる田中作次さんは表裏のない人で、人力車を引いてちり紙を売って歩きました。学校を出ないでそこまで成功された人です。1つでも何個でもいつでもトイレットペーパーを売り、オイルショックでも均等に販売しました。お金を出してRI会長になったと陰口を言う人もいますが、埼玉県八

潮市を世界一美しくしようとゴム手袋をして、拾い集めました。今は58団体が一緒になって、町をきれいにしています。ごみがたまっていると、すぐに拾ってくるんです。それほど環境に対して一生懸命なのです。そして意義もなく、RI会長に決まった人です。田中さんのメッセージです。「できない理由を探すより、できる方法を探す習慣をつくっていただきたい。ロータリーなので、何かの方法を探せばできます。とりあえず進めてみようと考えていただきたいのです。ロータリーからいろいろな挑戦を受けるたび、それを受け止めて自分を高めることができた。今あるのは、ロータリーのおかげだ。私は決して逃げなかった」とおっしゃっています。

ロータリアンとしてうまくやるには、寛容と謙虚さ、これがやはり必要です。ポール・ハリスは、寛容だと言っていました。「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」。アーサー・F・シェルドンの言葉です。そして「超我の奉仕」。B・フランク・コリンズの言葉です。無心の奉仕。これが今ロータリーの第一標語です。

「ロータリーの木」は、元RI理事の渡辺好政さんが考えました。根っこはやはり親睦で、クラブ奉仕、

第4回 地区指導者育成セミナー ■

助け合い。そこにロータリーの綱領があります。地区があつて、ガバナーがいますが、クラブが基本です。皆さんにリーダーシップを發揮してやっていければ良いのです。クラブが根っこにあり、根幹は職業奉仕です。NPO、NGOはたくさんありますが、これをうたっているのはロータリーしかありません。我々は個人では奉仕せず、クラブとして奉仕するのです。そして花を咲かせ、実を咲かせるのが五大奉仕です。根がクラブ奉仕、幹が職業奉仕、枝葉が社会奉仕、国際奉仕、新しくできたのが新世代奉仕、花はロータリー財団です。

ロータリーの綱領は4つあります「真実かどうか」、「みんなに公平か」、「好意と友情を深めるか」、「みんなのためになるかどうか」の4項目です。「しみこみ」4つです。

我々の目的は事業を推進することにあります。奉仕の機会を通じて仲間をつくり、職業を大事にする。そして社会奉仕、国際奉仕です。ポリオ撲滅、世界平和フェロー、GSE、財団奨学生、WCSいろんな事業がありますが、この木のよしあしは、その実において分かる。当然です。どんな実がなったかということで木が良いか、そのクラブがどんなプロジェクトをやってどうなったかというのは、実がどうなったかです。

この地区の諮問委員会でRLIを行うことが決定されたそうです。ですから我々本部が全面的にサービスをして、この地区がロータリーを大いに活性化されるようにお手伝いをしますので、是非勉強会に参加してください。そしてロータリーを語ってください。ロータリーは一歩引くとつまらず、負担になる活動です。一步前に出ると、結構楽しい面があります。やはり60歳を過ぎると、何かのボランティアや世の中に良いことをしたい人はたくさんいるそうですが、なかなか自分の立場や収入、時間の制約でできない人もいます。でも我々はロータリーに身を置いて、世の中のために良いことをしようと考えて、加入しているので恵まれています。一人ではできなくても、120万人が世界のどこかで社会やクラブ活動をしているのだと思えば、心が洗われる時があります。いくらやつても「ありがとう」という言葉しか返ってこないロ-

タリーではありますが、何となく人のために役に立つたという気持ちがあれば、一服の清涼感として心に残ってきます。

基本的にロータリーは、人の話を聞く所だと思っています。米山梅吉さんが「クラブは人生の道場である」と言われましたが、クラブに行って「あの人みたいになりたい」と憧れる人が必ずいらっしゃいます。その人のようになりたいと努力する反面、あの人みたいになりたくない人も中にはいらっしゃいます。これも反面教師で良いのです。それをどう受け止めるかは、あなたの資質にかかわることです。そこは柔軟に対応していただければ、楽しいロータリーライフが過ごせると思います。

この時代に高い会費を払って、人の話を1時間も聞くのは辛いことです。しかし仕方ないかということで、やはり仲間として入った以上、楽しく過ごしたいものです。私は、30年以上入っていますが当時、仕出店をやっていて「料理を例会に運んでくれ」と言われ、50人分くらい持っていました。食器を受け取りにいかなくてはならないので「待っていろ」と座らされました。歌を歌い、鐘を鳴らし、やばいところに来たとびっくりしましたが、3年くらいいたたら、誘われました。小さなお店をやっているので、そんな銀行の頭取や弁護士や医師の中に座るわけにはいかないと思いました。それから2年経って、再び「ロータリーは身分も収入も関係ない。世の中を少しでも良くしたい」という気持ちがあれば、一緒に奉仕活動をすればいいから、お前の息子はそういうことに少し目が向いているように見えるから入ったらどうか」という父からの話で入会しました。34歳でした。恐る恐るでしたが、偉い人ばかりで、こういう所で食事ができるのだと思っただけで震えるようなうれしさと緊張感がありました。

これが今、少し欠けてきました。ロータリーに入りたいけど、入れない、そういう人たちに対して「いいから入ってくれよ、後は何とかなるから」とそういう人も入ってくるようになってきました。ある理事が日本はあまりに会員増強に対して焦り、石ころでも磨いたら光を放つかんという人を入れるべきだと。言い方は悪いですが、今は砂利を集めて、砂利は砂利だつ

第4回 地区指導者育成セミナー ■

たと、やめる時もなんら止めることもしない。そんな風潮は良くないとおっしゃいました。

しかし私は、日本のロータリーはこれから変わります。3・11によって、口だけで何もしないロータリーは置いていかれます。「何が何でも入っていただいて、会費を出すから、こなくていい、籍だけで良い」というのはやめようと。13万人いたのが今8万9千人です。その代わり、本当にロータリーを通じて、社会を良くしたい人が集まれば、ロータリーの品質や思いを共有できると話をされていました。皆さんもいろんな考え方があるかもしれません。どんな砂利でもきちんとなれば良いという考えもありますが、各クラブとも会員選考が機能していないのも事実です。会員がほしいと会員選考に回さないので、みんな入ってしまいます。

フランクリン・ルーズベルトの妻の言葉です。「あなたはアメリカの大統領になり、みんなが期待をする。あなたがどんな素晴らしいことをしてもそれに対して文句や非難が出るでしょう。なにもしなかったらなお出るでしょう。ではどうするか。自分の信念を貫きなさい」。ですから、会長の皆さんが幹事になつた時には、自分の思いを夫婦で述べ、やりたいことに対する根回しをし、寛容と忍耐と謙虚の3つを忘れないようにしてください。ロータリアンは、皆さん善人ですからそれなら協力すると言ってくれます。自信を持って活動していただきたいと思います。

あなたたちはクラブを預かるトップリーダーです。自信を持って幹事とクラブを守り立てていただきたい。入会したい人がいたら、ロータリーの基本を話し、仲間になりませんかというメッセージを伝えていただきたいと思います。

ありがとうございました。

【質問】 小牧ロータリークラブ

鈴木文勝 会長エレクト

ご講演ありがとうございます。ロータリーの木の中にクラブ奉仕が根、職業奉仕が幹、新世代国際奉仕・社会奉仕が枝葉、花がロータリー財団とおっしゃいました。財団がすべてのロータリーの活動の結果だと解釈できますが、その関連性のご説明をお願い

します。

【答え】 中村リーダー

最終的には、花ではなく実です。あまり関係ありません。同じレベルで扱っていただければいいです。今度聞いてみます。もっと奥深いことがあれば、お知らせします。

【質問】 名古屋東ロータリークラブ
水野茂生 会長エレクト

先ほど会員問題がございました。どのクラブも人数の減少と新会員の確保が難しい。我々が理解をする仲間を得るのが難しくなったのが、現実かもしれませんし、小さなクラブになりかねない場合もあります。二つのクラブが助け合って活動することも考えられますか。

【答え】 中村リーダー

今大きいクラブと小さいクラブの格差ができています。大きいクラブは努力されていて、特にこの地区は100名以上のクラブがたくさんあります。20人前後のクラブは人が増えません。うちのクラブも20人くらいで、こういうクラブが、加速的に増えてきます。20人で例会をすると12、3人の参加で、世界平和を言っても説得力がなくなります。150人のクラブには、どうしてもスケールメリットがあります。ですから、格差ができるが合併する機運が出てくると思います。親と子クラブが一緒になつても文化が違い、ほとんどが失敗します。全体の流れとして小さなクラブが苦労しているのは、事実です。3名でも10人分の人頭分担金を払えば、クラブとして認めるとありますが、近隣に20名以上のクラブがあれば、合併すべきとロータリー章典にも書いてあります。この地区は日本の中心であり、5000人を越えている地区ですから、トップリーダーにならなくてはいけませんが、大人しい方が多いので、RIには出てみえません。次年度会長から是非RIに出ていただきたいと思います。





あとがき

国際ロータリー第2760地区2011~2012年度地区大会をウエスティンナゴヤキャッスルホテルにて開催し、無事終えることが出来ました。当大会はカルヤン・バネルジーR I会長による「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために」のテーマのもと、今井鎮雄・幸子R I会長代理ご夫妻をはじめ地区内外2832名にも及ぶロータリアン、ご夫人、奨学生などの参加を頂きました。皆様方のご協力に、心より厚く御礼申し上げます。

私達 瑞穂ロータリークラブは、地区大会ホストクラブとしての重責を担うに当たりまして、クラブを挙げて取り組んで参りました。82年に一度の経験は、ク

ラブに活力をもたらし、今後の運営に弾みをつけました。参加の皆様からもお褒めの言葉を頂き、1年以上に渡る苦労が報われた思いでございます。

記録誌の編集に当たり、皆様方の多大なご協力を賜り厚く御礼申し上げます。編集には慎重を期したつもりでございますが、不備等ございましたらご容赦頂きますよう、お願い申し上げます。

最後に地区ロータリアン各位、並びにご参加くださいました皆様、関係各位の益々のご多幸、ご健勝をお祈り申し上げます。

2012年3月 地区大会広報・記録委員会

次期開催のお知らせ



2012-2013年度国際ロータリー第2760地区

地区大会のご案内

大会第1日目／2012年10月27日〔土〕

大会第2日目／2012年10月28日〔日〕

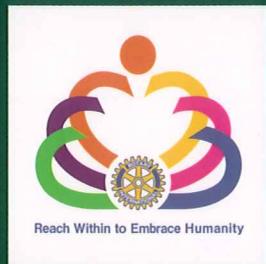
会場 ウェスティングナゴヤキャッスル



丈山苑



[ホストクラブ] 安城ロータリークラブ



2011-2012年度
国際ロータリー第2760地区

地区大会記録誌

地区大会事務局

〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目3番3号 ヒルトン名古屋9階
[名古屋瑞穂口タリーカラブ事務局] TEL (052) 211-3803 FAX (052) 211-2623
E-mail 2760_nagoya@mizuho-rc.jp